

# 千葉経済大学短期大学部 自己点検・評価報告書

平成24年6月

目次

自己点検・評価報告書	1
1. 自己点検・評価の基礎資料	2
2. 自己点検・評価報告書の概要	16
3. 自己点検・評価の組織と活動	17
4. 提出資料・備付資料一覧	20
<b>【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】</b>	<b>25</b>
基準Ⅰ-A 建学の精神	25
基準Ⅰ-B 教育の効果	27
基準Ⅰ-C 自己点検・評価	31
◇ 基準Ⅰについての特記事項	32
<b>【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】</b>	<b>33</b>
基準Ⅱ-A 教育課程	34
基準Ⅱ-B 学生支援	56
◇ 基準Ⅱについての特記事項	94
<b>【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】</b>	<b>95</b>
基準Ⅲ-A 人的資源	95
基準Ⅲ-B 物的資源	105
基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源	108
基準Ⅲ-D 財的資源	110
◇ 基準Ⅲについての特記事項	116
<b>【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】</b>	<b>117</b>
基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ	117
基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップ	119
基準Ⅳ-C ガバナンス	121
◇ 基準Ⅳについての特記事項	124
<b>【選択的評価基準 1. 教養教育の取り組みについて】</b>	<b>.....</b>
<b>【選択的評価基準 2. 職業教育の取り組みについて】</b>	<b>.....</b>
<b>【選択的評価基準 3. 地域貢献の取り組みについて】</b>	<b>125</b>

## 自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受けるために、千葉経済大学短期大学部の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

平成24年6月30日

理事長

佐久間 勝彦

学長

佐久間 勝彦

ALO

市岡 義章

1. 自己点検・評価の基礎資料

(1) 学校法人及び短期大学の沿革

千葉経済学園及び千葉経済大学短期大学部の沿革は下記年表のとおりとなる。

<千葉経済学園の沿革>

昭和 8年	創立者佐久間惣治郎が、私立寒川高等女学校の経営を開始し、校長に就任
昭和 9年	千葉女子商業学校（乙種三年制の県下唯一の女子商業学校）を設立
昭和20年	戦災のため校舎全焼
昭和21年	千葉市轟町に移転
昭和23年	新学制施行に伴い新制千葉女子経済高等学校となる
昭和26年	私立学校法施行に伴い学校法人佐久間学園となる
昭和29年	千葉経済高等学校と改称、男子部を新設
昭和40年	学校法人千葉経済学園と改称
昭和43年	千葉経済短期大学設置
昭和46年	学園附属なでしこ幼稚園設置
昭和63年	千葉経済大学設置
平成 5年	千葉経済大学大学院経済学研究科（修士課程）設置 千葉経済大学附属高等学校と改称 千葉経済大学短期大学部と改称
平成20年	なでしこ幼稚園廃止

<千葉経済大学短期大学部の沿革>

昭和43年	千葉経済短期大学（商経科）設置
昭和52年	初等教育科設置
昭和59年	別科経営情報専修設置
昭和62年	別科経営情報専修を商経科経営情報専攻に改組
平成 5年	千葉経済大学短期大学部と名称変更 商経科経営情報専攻を経営情報科に改組
平成15年	文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に【もう一つの学校「こども造形教室」】が採択される
平成16年	商経科、経営情報科をビジネスライフ学科に、初等教育科をこども学科に改組
平成17年	文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」に【教育実習記録集「ひろはら」を核とした教員養成】が採択される
平成18年	短期大学基準協会による第三者評価で適格と認証される
平成19年	文部科学省「新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム」に【キャリアデザインをコアとする修学支援策】が採択される。
平成21年	文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」に【模擬試験・就職対策講座などを活用したきめ細かな支援システム】が採択される。

(2) 学校法人の概要

千葉経済学園は昭和8年に佐久間惣治郎が寒川高等女学校の経営を継承して、翌年千葉県初の女子商業学校として千葉女子商業学校を創設したことに始まる。同校は戦後千葉経済高等学校となり今日に至る。建学の精神は「片手に論語、片手に算盤」である。

千葉経済短期大学は昭和43年、千葉経済大学は昭和63年に設立され、両大学の校是は「良識と創意」である。学園創立60周年にあたる平成5年、本学は千葉経済大学短期大学部に、高校は千葉経済大学附属高等学校に校名を変更し、千葉経済大学は大学院を設置した。

- 学校法人が設置するすべての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数（平成24年5月1日現在）

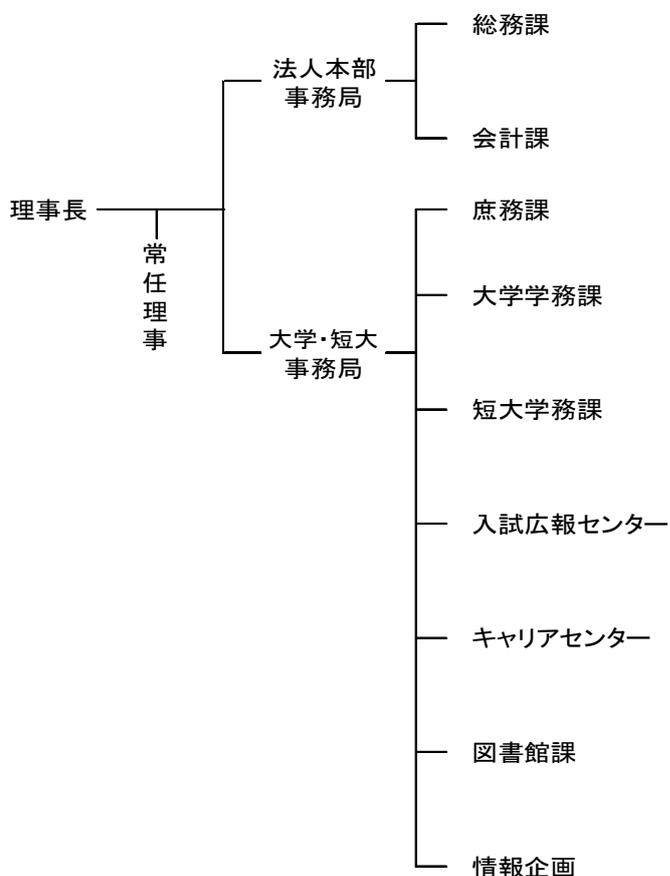
教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
千葉経済大学 短期大学部	千葉市稲毛区轟町 4-3-30	320名	670名	665名
千葉経済大学	千葉市稲毛区轟町 3-59-5	250名	1,000名	1,095名
千葉経済大学 大学院	千葉市稲毛区轟町 3-59-5	10名	20名	10名
千葉経済大学附 属高等学校	千葉市稲毛区轟町 4-3-30	560名	1,680名	1,442名

(3) 学校法人・短期大学の組織図

- 評価実施年度5月1日現在の専任教員数、非常勤教員数、専任事務職員数、非常勤事務職員数

教員組織の概要	学 科	専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
	ビジネスライフ学科	10人	2人	—	—	12人	—	25人
	こども学科	7人	8人	2人	—	17人	—	44人
	計	17人	10人	2人	—	29人	—	69人
教員以外の職員 の概要	職 種	専 任		兼 任		計		
	事務職員	12人		—		12人		
	技術職員	—		—		—		
	図書館専門職員	2人		—		2人		
	その他の職員	—		—		—		
	計	14人		—		14人		

■ 組織図



(4) 立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ

■ 立地地域の人口動態（短期大学の立地する周辺地域の趨勢）

本学の入学者の居住地域を見ると別表（学生の入学動向）の通り全県域に及んでいる。千葉県人口の趨勢についてみると以下のとおりである。

千葉県人口の推移 (人)

	平成 12 年	平成 17 年	平成 22 年
総人口	5,926,285	6,056,462	6,216,289
19 歳	75,931	67,396	58,891
20 歳	78,804	71,141	59,914

注) 資料「国勢調査」

総人口は平成 22 年までは増加傾向にあるものの、19、20 歳の年代では急速な減少傾向を示している。千葉県の試算によれば平成 27 年に総人口は約 626 万人に増加し、その後は減少していくとしている。なお、平成 23 年の東日本大震災による県西地域での液状化現象等の理由により人口は微減した。

■ 学生の入学動向（過去の実績と未来の予測、学生の出身地別人数及び割合）

地域	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		備考
	人数 (人)	割合 (%)									
千葉県	342	90.0	321	90.2	328	90.1	302	92.1	315	90.0	
第 1 区	81		48		88		64		75		
第 2 区	69		74		54		61		74		
第 3 区	7		14		15		47		18		
第 4 区	47		58		61		9		47		
第 5 区	31		19		14		15		13		
第 6 区	32		24		30		27		22		
第 7 区	20		21		19		18		21		
第 8 区	7		5		5		3		3		
第 9 区	48		58		42		58		42		
東京都	12	3.2	12	3.4	8	2.2	9	2.7	7	2.0	
茨城県	13	3.4	9	2.5	15	4.1	5	1.5	20	5.7	
その他道府県	13	3.4	14	3.9	13	3.6	12	3.7	8	2.3	
合計	380		356		364		328		350		

注) 第 1 区～第 9 区については、「短期大学所在の市区町村の全体図(7 ページ)」を参照のこと

■ 地域社会のニーズについて

【ビジネスライフ学科】

ビジネスライフ学科に対するニーズは、第一に地域経済を支える人材の供給である。就職状況は進路支援の項で詳細に述べるが求人件数は下表のとおりで、景気低迷を反映して年々低下傾向にあるものの、地域企業への就職は60%をこえている。

平成 22 年	994 件
平成 23 年	657 件
平成 24 年	572 件

第二としては地域経済団体等の要望を受けての教員派遣での貢献である。商工会議所の指導員研修・簿記に関する研修・千葉県観光物産協会等との研究会等に講師として関わったり、県内の高校等の要望で「出前講座」に積極的に関わったりしている。

## 【こども学科】

第一に挙げられるのは、保育士・幼稚園教諭養成へのニーズの高さである。国による子育て支援に係わるプランの策定や法律の制定があり、千葉県及び県内各市町村は子育て支援に係わる多様なサービスを実施していて、質の高い保育士のニーズが一段と高まっている。教育基本法、学校教育法の改正を受けて幼児教育が重視されるようになり、幼稚園教諭へのニーズも高い。

幼稚園・保育所の一体化が進行しており、保育士資格と幼稚園教諭免許状の両方を取得した保育・教育者のニーズは極めて高くなっているため、保育コースはこの要請に応じている。初等教育コースで幼・小の両教諭免許状を取得した卒業生の幼稚園就職内定率も、ほぼ100%となっている。求人状況は下表のとおりである。

	幼稚園	保育所	その他の社会福祉施設
平成 22 年	262 件	303 件	51 件
平成 23 年	295 件	334 件	67 件
平成 24 年	334 件	381 件	49 件

第二に挙げられるのは、大都市圏を中心に小学校教諭の定年退職者が増加し始め、小学校教員養成へのニーズが高まっていることである。平成 24 年度の東京都の小学校教員採用名簿登載者は、期限付採用を含めれば 1,900 名を超え、千葉県においては 800 名弱に達している。こうした状況にあつて、千葉県内では小学校教員の養成を始める四年制大学が増えている。教員養成の修士レベル化の方向が示されたこともあり、小学校教諭を志望する者の多くは 1 種免許状取得を目指すことになり、短大に対するニーズは減少傾向にある。

しかし、経済的に恵まれない高校生や大学既卒者で小学校教諭を志す者は少なくないので、短大の特徴を活かした教員養成へのニーズも存在している。本学では、毎年過年度卒業生を含め十数名の採用者を出し、市レベルの臨時採用教員のニーズも多く、地域社会で貴重な役割を果たしている。小学校教員を志望する科目等履修生は毎年度 30～40 名あり、小学校教員が不足し始めたこの状況下での地域貢献は特筆される。

平成 21 年度から施行された教員免許更新制では、必修講習を含め 10 講習程度を毎年開設し、延べ約 700 名が受講していて申込者は定員を超えている。

#### ■ 地域社会の産業の状況

「平成 20 年度県民経済計算一県統計課」によると千葉県内総生産は 21 兆 4,648 億円、経済成長率は 1.2%減で、事業所数・従業者数を「平成 21 年経済センサス基礎調査」で見ると民営事業所数 202,670、従業者数 2,118,886 人となっている。

雇用状況を「有効求人倍率」で見ると、平成 20 年度 0.72、21 年度 0.42、22 年度 0.47 と低下傾向が続いている。更に、有効求人数の 4 割がパートとなっているのが特徴的である。完全失業率は平成 20 年 3.5%、21 年 4.4%、22 年 4.8%と上昇している。そのなかでの若年者（15～24 歳）の有業率は 4 割台と低くなっている（全体はおおむね 60%）。

商業（卸売・小売り）の状況は、平成 19 年では事業所数 48,596、従業者数 414,626 人、年間商品販売額 12 兆 3,222 億円となっている（商業統計調査）。これを前回平成 16 年の

調査と比べると、事業所は 3,973 社の減少、従業者は 4,298 人の減少となったが販売額は 7,143 億円の増加である。

工業の状況は、事業所数が最も多かった昭和 63 年の 10,239 事業所から平成 22 年には 5,622 事業所と約半数に減じている。従業者数もかつては 30 万人前後であったが現在は 20 万人と約 30%減となっている。製造品出荷額は平成 20 年に約 15 兆 4,600 億円と過去最高を記録したが、翌年の「リーマンショック」の影響で平成 21 年には対前年 20%減の 12 兆 3,400 億円となった。平成 22 年も減少傾向は続き、12 兆 2,250 億円となっている。

地域別の状況をみると、基盤的技術産業を担う中小企業が集中する葛南、東葛飾地域において事業所数、従業者数はともに高い割合で、事業所数で 38.2%、従業者数で 36.9%と全体の 4 割を占めている。一方、製造品出荷額等については、臨海部に素材型産業が集中している君津、市原の割合が高く、54.6%と過半数を占めている。

■ 短期大学所在の市区町村の全体図



(5) 課題等に対する向上・充実の状況

- ① 前回の第三者評価結果における三つの意見の「向上・充実のための課題」で指摘された事項への対応について（領域別評価票における指摘への対応は任意）

改善を要する事項 (向上・充実のための課題)	対策	成果
<p>評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果</p> <p>卒業後の評価については、平成 17 年にはじめて 300 名の卒業生を対象にアンケートを実施されたが、今後こうした調査結果が教育内容・方法の改善充実に活用されることを期待したい。</p>	<p>一定期間を置いて調査を実施することとし、平成 23 年に、第 2 回目のアンケートが行われた。調査結果は在学生満足度調査や進路先からの評価などとともに、本学の教育内容・方法の改善に活用している。調査の時期・内容については更に検討したい。</p>	<p>在学生満足度調査や平成 23 年実施の第 2 回本調査によれば、本学の教育に対する評価の上昇が見られる。第 1 回調査の結果に基づき、教育内容・方法の改善の目標を「全人的な教育」に当てその推進に取り組んできたので、その成果と評価したい。今後も持続的な取り組みを行っていききたい。</p>
<p>評価領域Ⅸ 財務</p> <p>こども学科における定員超過を是正されたい。</p>	<p>平成 18 年度からビジネスライフ学科の定員を 50 名減じ、こども学科の定員を 50 名増の 200 名とし、定員超過の是正を実施した。</p>	<p>平成 18 年度以降、入学者はほぼ定員どおりとなり、是正対応は成果を挙げたと考える。平成 23 年度は保育コースで指定校推薦入試志願者数の予測を誤り、初教コースでは一般推薦入試の歩留まり推測を誤ったため、入学者が定員をやや超過した。</p>

- ② 上記以外で、改善を図った事項について

改善を要する事項	対策	成果
なし		

- ③ 過去 7 年間に、文部科学省の設置計画履行状況等調査において留意事項が付された短期大学は、留意事項及びその履行状況を記述する。

特になし

## (6) 学生データ

※下記①について、学科・専攻課程ごとに、評価実施年度を含む過去5年の学校基本調査のデータを示す。

## ① 入学定員、入学者数、入学定員充足率、収容定員、在籍者数、収容定員充足率

学科等の名称	事項	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	備考
ビジネスライフ学科	入学定員	150	150	150	150	120	
	入学者数	150	166	126	100	84	
	入学定員 充足率 (%)	100	110	84	66	70	
	収容定員	300	300	300	300	270	
	在籍者数	317	311	293	227	186	
	収容定員 充足率 (%)	105	103	97	75	68	
こども学科	入学定員	200	200	200	200	200	
	入学者数	206	198	202	250	233	
	入学定員 充足率 (%)	103	99	101	125	116	
	収容定員	400	400	400	400	400	
	在籍者数	419	397	392	450	479	
	収容定員 充足率 (%)	104	99	98	112	119	

## [注意]

- 「学科等の名称」欄には5年間に設置された学科等をすべて記載し、設置以前の年度については、入学定員以下は空欄とする。
- 5年間に学科等の名称変更を行った場合は、最新の名称で記載し、直下の（ ）に旧名称を記載する。
- 通信教育学科の場合、学科等の名称欄に「通信教育」と記載する。
- 募集停止を行った学科等は、募集を停止した年度の入学定員欄に「募集停止」と記載する。新たに学科等を新設した場合は、募集年度の入学定員欄に「新設」と記載する。
- 「入学定員充足率 (%)」欄及び「収容定員充足率 (%)」欄は、小数点以下第1位を切り捨てて記載する。

※下記②～⑥について、学科・専攻ごとに、評価実施の前年度を起点とした過去5年の学校基本調査のデータを示す。(③退学者数のデータについては、休学者数や就職者数の取り扱いに準じて記入する)。

## ② 卒業者数（人）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
ビジネスライフ学科	161	144	128	147	111
こども学科	195	193	174	176	182

## ③ 退学者数（人）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
ビジネスライフ学科	19	22	16	15	11
こども学科	16	27	30	14	20

## ④ 休学者数（人）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
ビジネスライフ学科	18	19	17	12	11
こども学科	18	20	20	12	11

## ⑤ 就職者数（人）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
ビジネスライフ学科	119	85	68	89	66
こども学科	166	172	162	155	152

## ⑥ 進学者数（人）

区分	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
ビジネスライフ学科	5	9	2	1	3
こども学科	11	5	3	6	12

## (7) 短期大学設置基準を上回っている状況・短期大学の概要

大学の設置等に係る提出書類の「基本計画書」（「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引き」を参照）内の量的数値及び質的な事項について記述する（評価実施年度の5月1日現在）。

## ① 教員組織の概要（人）

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数		助手	非常勤教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕			
ビジネスライフ学科	10	2			12	(7)	—		25	経済学関係
こども学科	7	8	2		17	(11)	—		44	教育学・保育学関係
(小計)	17	10	2		29	(18)	—		69	
〔ロ〕						—	(5)			
(合計)	17	10	2		29	(18)	(5)		69	

[注]

- 1 上表の〔イ〕とは、短期大学設置基準第22条別表第1のイに定める学科の種類に応じて定める教員数（昼間又は夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせ行う場合には、短期大学通信教育設置基準第9条第2項に定める教員数を含む）をいう。ただし、通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教育設置基準第9条第1項別表第1に定める教員数をいう。
- 2 上表の〔ロ〕とは、短期大学設置基準第22条別表第1のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数をいう。なお、昼間又は夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせ行う場合には、短期大学通信教育設置基準第9条第2項に定める教員数を加算する。
- 3 上表の〔イ〕及び〔ロ〕の欄の（ ）には、短期大学設置基準第22条別表第1のイの備考第1号に定める教授数を記入する。通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教育設置基準第9条第1項別表第1備考第2号に定める教授数を記入する。
- 4 上表の助手とは、助手として発令されている教職員をいう。
- 5 備考欄には、当該学科の種類（短期大学設置基準第22条別表第1のイにいう「学科の属する分野の区分」）を記載する。

② 教員以外の職員の概要（人）

	専任	兼任	計
事務職員	12	0	12
技術職員	0	0	0
図書館・学習資源センター等の専門事務職員	2	0	2
その他の職員	0	0	0
計	14		14

③ 校地等（㎡）

校地等	区分	専用（㎡）	共用（㎡）	共用する他の学校等の専用（㎡）	計（㎡）	基準面積（㎡）[注]	在学生一人当たりの面積（㎡）	備考（共有の状況等）
	校舎敷地	10,197	0	0	10,197	6,700	40.22	
	運動場用地	16,750	0	0	16,750			
	小計	26,947	0	0	26,947			
	その他	0	0	0	0			
	合計	26,947	0	0	26,947			

[注] 短期大学設置基準上必要な面積

④ 校舎（㎡）

区分	専用（㎡）	共用（㎡）	共用する他の学校等の専用（㎡）	計（㎡）	基準面積（㎡）[注]	備考（共有の状況等）
校舎	9,636	3,633	0	13,269	5,150	

[注] 短期大学設置基準上必要な面積

⑤ 教室等（室）

講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習室	語学学習施設
13	4	24	7	0

⑥ 専任教員研究室（室）

専任教員研究室
29

## ⑦ 図書・設備

学科・専攻課程	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 (種)		視聴覚資料 (点)	機械・器具 (点)	標本 (点)
	(冊)		電子ジャー ナル〔うち外 国書〕			
ビジネスライフ	70,622(2,588)	202(45)	5(4)	4,896	5	0
こども	37,022(1,132)	97(7)	共用	1,690	共用	0
計	107,644(3,720)	299(52)	5(4)	6,586	5	0

図書館	面積 (㎡)	閲覧席数	収納可能冊数
		2,268.90	203
体育館	面積 (㎡)	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	2,928.31		

## (8) 短期大学の情報の公表について

## ① 教育情報の公表について

	事項	公表方法等
1	大学の教育研究上の目的に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>
2	教育研究上の基本組織に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>
3	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>
4	入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>
5	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>
6	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>
7	校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>
8	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>
9	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関する事	<a href="http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html">http://www.chiba-kc.ac.jp/disclose/index.html</a>

## ② 学校法人の財務情報の公開について

事項	公開方法等
財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書	<a href="http://www.cku-h.ed.jp/ir/ir.html">http://www.cku-h.ed.jp/ir/ir.html</a>

## (9) 各学科・専攻課程ごとの学習成果について

- 学習成果をどのように規定しているか

## 【ビジネスライフ学科】

本学科の主たる教育目的は、校是である「良識と創意」を踏まえて豊かな人間性と学術・技芸に優れた人材を育成することで、「学位授与の方針」は学科の学習成果を次のように掲げている。

1. 社会人に求められる豊かな教養、良識
2. ビジネスライフ学科における学術理論等の基礎知識
3. 現代社会に適応できる知見を有し、学際的な多様な課題においても、柔軟且つ適正に問題解決できる能力
4. 実社会において知識を実践の場で生かし、情勢に適応した行動
5. 日常の行動体系において適切な自己管理を行い、他者との良好な対人関係を維持する能力
6. ビジネススキルの習熟を期し、キャリア形成に努める意識

また、本学科が育成を目指す人材の一側面が高校生にも解るように、「入学者受け入れの方針」は「目指す教育」の中で「自分の夢の実現に向かって着実に学習し、知識・技能を習得した学生は、社会常識を豊かに備えて新しい状況に的確に対応できる社会人に成長していきます」と述べている。

## 【こども学科】

本学科の主たる教育目的は小学校・幼稚園教諭及び保育士の育成にあり、「学位授与の方針」は学科の学習成果を次のように掲げている。

1. 教育・保育の方法、技術及び基礎技能の基本能力
2. 実践のバックボーンとしての、教育・保育の本質とその原理の理解力
3. 高い教養、豊かな表現力を有し、教育上・保育上、「こども」と適切な意思疎通を図り、良好な人間関係を築くことのできる豊かな人間性
4. 日常のこどもの行動様式、行動心理を洞察し、状況に適応した教育・保育を実践できる能力
5. 教育者・保育者としての社会的使命感、高い倫理観を有し、他者と協力しながら社会貢献できる能力
6. 日々の実践及び保育・教育に係る新しい知見から豊かに学び、将来にわたり成長していこうとする意識

本学科が育成を目指す保育士・教師像の一側面が高校生にも解るように、「入学者受け入れの方針」は「目指す教育」の中で「学生は卒業後、即戦力となって職務に就きますが、

ものごとを自分の目で見、自分の頭で考えて、幼いこどもに温かく対応できる教育者・保育者として成長していきます」と述べている。

■ どのように学習成果の向上・充実を図っているか

【ビジネスライフ学科】

本学科は日本や世界、なかんずく地域のビジネス界の発展に貢献できる人材の育成を目的としている。変化の激しい今日のビジネス界にあっては、客観的状況（ビジネス界が求めるもの）も主観的状況（学生たちが求めるもの）も常に変化している。こうした状況の変化に対応すべく、適宜カリキュラム改革を行い、学習成果の向上と充実を図っている。

- ① 学科レベルでは、近年の厳しい就職状況を克服すべく、資格関連の科目を強化し、とくに学生の就職力を高める方向で改善の努力をしている。基礎的な科目については習熟度別クラス編成を行って優秀な学生をさらに伸ばすとともに、遅れ気味な学生には懇切丁寧な指導して底上げを図っている。毎回の学科会議の後にFD会議を開き、学生一人ひとりに関するさまざまな授業における情報を全教員が共有して、家庭とも密に連絡を取るなどして、指導体制を強化している。
- ② 科目レベルでは、それぞれの科目の到達目標や教授方法の見直しを適宜図り、資格取得や就職力向上につながるように努めている。とくに資格関連科目においては、検定試験で成果が上がるように授業内容を工夫するとともに、課外講座として資格取得支援講座を開講して対応している。また、一般教養科目の授業内容も就職力向上に資するための工夫をするとともに、公務員試験対策講座を課外講座として開講している。司書課程は図書館法施行規則の改正にともない、平成24年度より新しいカリキュラムに改定した。

【こども学科】

本学科は、教員養成、保育士養成を目的とする学科であるので、法令の改正、社会の状況の変化、学生の質やニーズの変化に合わせて、適宜カリキュラムの改革を行ってきた。学習の成果は以下の方法により、その向上と充実を図っている。

- ① 学科レベルでは、以下の7つの観点から、教育課程・内容、授業クラスの適正規模、授業の教育方法、学生指導の体制に関して、改善に努めている。
  1. 免許・資格取得状況、2. 幼稚園・保育所等の就職状況、3. 小学校教諭及び公立幼稚園・保育所の採用試験合格者数（既卒者を含む）、4. 就職先からの本学卒業生に関する聞き取り調査、5. 学生に対する満足度調査・授業評価、6. 選択科目の受講者数の変化、7. 卒業生に対するアンケート調査等
- ② 科目レベルでは、担当の授業について、下記の3つの観点から科目の内容や授業方法の改善を行うとともに、FD活動の一環として行っている授業の相互参観・授業事例研究も参考にしている。
  1. 満足度調査、2. 授業評価、3. シラバスに規定した学習成果に基づく評価基準による達成度

(10) オフキャンパス、遠隔教育、通信教育のその他の教育プログラム

- オフキャンパス（実施していれば記述する）  
行っていない。
- 遠隔教育（実施していれば記述する）  
行っていない。
- 通信教育（実施していれば記述する）  
行っていない。
- その他の教育プログラム（実施していれば記述する）  
行っていない。

(11) 公的資金の適正管理の状況

- 公的資金の適正管理の方針及び実施状況を記述する（公的研究費補助金取扱いに関する規程、不正防止などの管理体制など）。

本学での公的研究費補助金は科研費が対象となっている。科研費については日本学術振興会の開催する説明会に必ず事務局職員が参加して、最新情報を教員に説明して適切な処理ができるように努め、以下の3点で管理を徹底している。

- ① 科研費に関する会計処理は庶務課で受け付け、法人本部会計課が支出の管理を行うが、不適切な使用が無いかどうか厳しくチェックする。
- ② 購入した物品については、設置場所等の問題で現物確認が難しい場合を除き、庶務課担当者が実物の検収を行う。実物検収が不可能な場合には、科研費管理シールを貼付した状態での写真を提出してもらい検収を行う。
- ③ 内部監査については受給人数が少ないので、受給者全員分を監査する。

(12) その他

- 上記以外に、評価員が理解を深めるのに役立つ情報があれば記述する。

特になし

2. 自己点検・評価報告書の概要

- 概要は、四つの基準に基づいて記述する。

**【基準Ⅰ】建学の精神と教育の効果**

学園の建学の精神は「片手に論語、片手に算盤」で、この教育理念に則り本学は校是を「良識と創意」と定めている。本学の教育目的・目標はこの精神と校是を根幹に据え、「入学者受け入れの方針」「教育課程編成・実施の方針」「学位授与の方針」として学内外に公表し、学習成果については授業要項（シラバス）でその測定の仕方を明示し、PDCAサイクルを用いた査定を行って教育の質保証に努めている。

自己点検・評価活動は「自己点検・評価に関する規程」に基づいて設置されている短期大学部専門部会の所轄のもとに、全教職員が意識を共有して行っている。その報告書は平成17年度、平成21年度に公表して短期大学基準協会の認証評価と外部評価を受け、教育・研究などの改善に努めている。

**【基準Ⅱ】教育課程と学生支援**

教育課程は「教育課程編成・実施の方針」に基づいて体系的に編成され、学習者の視点に立った授業の実現に努めている。「入学者受け入れの方針」は「大学案内」やホームページの中で「高等学校において望まれる学習」についても明示している。学科会議後にはFD会議を開き、学習状況の芳しくない学生の情報交換に努め、定期的実施する学生の授業評価に書かれる率直な指摘を授業改善に活かしている。授業事例研究会や相互授業参観の機会を設けて、専門分野を超えて教育力の向上に努めている。

学生生活の支援では、学生の自主的な活動を側面から支援するとともに、アメニティには適切に配慮して快適な生活ができるように努めている。メンタルヘルスケアについてはカウンセリングセンターが対応し、経済的な支援についても学園奨学金制度の活用などを勧めて便宜を図っている。キャリア支援は2年間を見通した周到な計画に基づき、インターンシップや資格取得講座等も活かして行い、高度資格取得者には奨励金を授与してその努力を称えている。学生募集は多様な入試形態で臨み、ホームページ等での広報活動に努めるとともに、オープンキャンパスから入学前教育に至るまで計画的に適切に実施している。

**【基準Ⅲ】教育資源と財的資源**

専任教員は短期大学設置基準の示す人数を超えて配置し、核となる専門教育を責任をもって担当している。研究業績についてはホームページで公表し、各種の研究助成制度を整えている。事務局は大学・短期大学を統合して設置されていて、職員にはSDの機会を積極的に提供している。

校地・校舎面積は設置基準を十分に満たしており、講義室等も適切に配備している。コンピュータシステムの整備は十分で、そのセキュリティや火災・地震・防犯の対策も万全を期して、安全・安心な学習環境の構築・整備に努めている。

短期大学部の資金収支はやや減少しながらも黒字の状態を堅持し、消費収支もほぼ均衡する状態で推移している。教育研究費は帰属収入の20%を超え、教育研究用の施設設備及び学習資源に対する資金配分も適切である。

**【基準Ⅳ】リーダーシップとガバナンス**

理事長は本学の学長を兼ねて理事会の議長を務め、学校法人の運営全般にわたってリーダーシップを発揮し、評議員会は理事会の諮問機関として適切に運営されている。学長は教授会の議長を務め、教授会は本学の教育研究上の審議機関として適切に運営されている。

学校法人の業務及び財産の状況については寄附行為に基づいて監事が監査し、毎会計年度に監査報告を行っている。事業計画と予算執行は、平成23年度に策定された中期財務計画(予測)に基づいて行われ、財務情報ははじめ法令の定める教育情報はホームページで公開されている。

3. 自己点検・評価の組織と活動

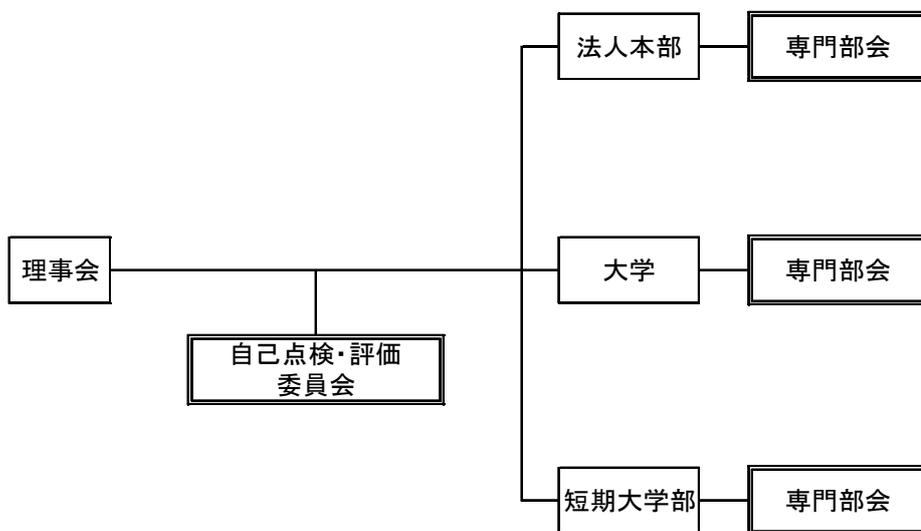
■ 自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

「自己点検・評価委員会 短期大学部専門部会」は学長以下各学科長、各部長、事務局長のメンバーで構成される。

【構成メンバー】

学長・ビジネスライフ学科長・こども学科長・教務部長・学生部長・就職部長・入試広報委員会委員長・図書館副館長・事務局長

■ 自己点検・評価の組織図（規程は提出資料）



■ 組織が機能していることの記述（根拠を基に）

短期大学部専門部会は定期的に執行部会の後に開催され、専門部会内の推進 TM 及び事務局との打合せも随時実施して自己点検評価活動の推進に努めている。打合せと活動については、議事録を作成して活動の確認を行っている。

■ 自己点検・評価報告書完成までの活動記録

- 平成 23 年 4 月 20 日 執行部会にて、学長より執行部会のメンバーが自己点検・評価委員会専門部会の委員を務めることが表明される。
- 平成 23 年 5 月 18 日 スケジュールの概略と自己点検・評価報告書作成担当者を決定する
- 平成 23 年 7 月 13 日 平成 17 年度に行った認証評価の際に示された課題、21 年度に行った外部評価員講評で示された課題の確認
- 平成 23 年 10 月 12 日 推進チームの発足
- 平成 23 年 10 月 22 日 自己点検・評価報告書のサンプルを示して記述のあり方について確認
- 平成 23 年 12 月 14 日 各担当分の自己点検・評価報告の試案を収集

平成 24 年 1 月 18 日	試案をもとに自己点検・評価報告書（平成 24 年 1 月 18 日版）を専門部会にて配付し、点検を依頼
平成 24 年 2 月 1 日	各委員からの指摘をふまえた自己点検・評価報告書（平成 24 年 2 月 1 日版）を専門部会にて配付し、さらに点検を指示
平成 24 年 3 月 14 日	自己点検・評価報告書（平成 24 年 3 月 14 日版）を専門部会に配付し、念を入れた点検を指示
平成 24 年 3 月 28 日	配布済みの自己点検・評価報告書（平成 24 年 3 月 14 日版）に基づき、専門部会にて点検作業を実施
平成 24 年 4 月 25 日	自己点検・評価報告書（平成 24 年 4 月 25 日版）を専門部会にて配付して、統一性を配慮しての点検を指示
平成 24 年 5 月 16 日	理事長・学長の指摘を踏まえた自己点検・評価報告書（平成 24 年 5 月 16 日版）を教授会にて全教員に配付し、本学の現況をふまえた指摘事項の提出を指示
平成 24 年 6 月 13 日	教授会後に報告書の最終点検を全教員で実施
平成 24 年 6 月 25 日	短期大学基準協会に自己点検・評価報告書を提出

## 4 提出資料・備付資料一覧

## 4-1. 提出資料一覧

報告書作成マニュアル記載の提出資料	(資料番号／資料名)
基準Ⅰ：建学の精神と教育の効果	
A 建学の精神	
建学の精神・教育理念についての印刷物	(1) 学生便覧 (2) 大学案内
B 教育の効果	
教育目的・目標についての印刷物	(1) 学生便覧 (2) 大学案内
学生が獲得すべき学習成果についての印刷物	(1) 学生便覧
C 自己点検・評価	
自己点検・評価を実施するための規程	(3) 自己点検・評価に関する規程
基準Ⅱ：教育課程と学生支援	
A 教育課程	
学位授与の方針に関する印刷物	(1) 学生便覧
教育課程編成・実施の方針に関する印刷物	(1) 学生便覧
入学者受け入れ方針に関する印刷物	(1) 学生便覧 (2) 大学案内 (4) 募集要項 (4-1) 学生募集要項 (4-2) A0 入試要項 (4-3) 千葉経済大学附属高校推薦 入学試験要項
カリキュラムに対応した授業科目担当者一覧(教員名、担当授業科目、専門研究分野)	(1) 学生便覧
シラバス	(5) 授業要項
B 学習支援	
学生便覧等(学則を含む)、学習支援のために配付している印刷物	(1) 学生便覧
短期大学案内・募集要項・入学願書	(2) 大学案内 (4) 募集要項
基準Ⅲ：教育資源と財的資源	
D 財的資源	
「資金収支計算書・消費収支計算書の概要(過去3年)」[書式1]、「貸借対照表の概要(過去3年)」[書式2]、「財務状況調べ」[書式3]及び「キャッシュフロー計算書」[書式4]	(6) 資金収支計算書・消費収支計算書の概要(過去3年) (7) 貸借対照表の概要(過去3年) (8) 財務状況調べ

報告書作成マニュアル記載の提出資料	(資料番号／資料名)
資金収支計算書・消費収支計算書（過去3年）	(9) 資金収支計算書 (10) 消費収支計算書
貸借対照表（過去3年）	(11) 貸借対照表
中・長期の財務計画	(12) 中期財務計画（予測）
事業報告書（過去1年）	(13) 事業報告書
事業計画書／予算書（評価実施年度）	(14) 事業計画書 (15) 予算書
基準Ⅳ：リーダーシップとガバナンス	
A 理事長のリーダーシップ	
寄附行為	(16) 寄附行為

## 4-2. 備付資料一覧

報告書作成マニュアル記載の提出資料	(資料番号/資料名)
基準Ⅰ：建学の精神と教育の効果	
A 建学の精神	
創立記念、周年誌等	(1) 千葉経済学園 60 年史 (2) 千葉経済学園五十年史
C 自己点検・評価	
過去 3 年の間にまとめた自己点検・評価報告書	(3) 自己点検・評価報告書 平成 21 年度
第三者評価以外の外部評価についての印刷物	(4) 外部評価報告書
基準Ⅱ：教育課程と学生支援	
A 教育課程	
単位認定の状況表(評価実施年度の前年度に卒業した学生が入学時から卒業までに履修した科目について)	(5) 単位認定状況表
学習成果を表す量的・質的データに関する印刷物	(6) 成績割合表 (7) 資格取得一覧表 (8) 免許取得一覧表
学生支援の満足度についての調査結果	(9) 満足度調査結果
就職先からの卒業生に対する評価結果	(10) 卒業生に関するアンケート (11) 保育園訪問報告 (12) 施設訪問報告 (13) 幼稚園訪問報告
卒業生アンケートの調査結果	(14) 卒業生アンケート (15) 就職(進路)支援に関するアンケート
入学志願者に対する入学までの情報提供のための印刷物等	(16) 大学案内
入学手続者に対する入学までの学習支援のための印刷物等	(17) 入学前教育関係資料
学生の履修指導(ガイダンス、オリエンテーション)等に関する資料	(18) ガイダンス資料
学生支援のための学生の個人情報記録する様式	(19) 学籍簿
進路一覧表等の実績(過去 3 年)についての印刷物	(20) 進路一覧表
GPA 等成績分布	(21) 成績割合表
学生による授業評価票及びその評価結果	授業評価アンケート
社会人受け入れについての印刷物等	なし
海外留学希望者に向けた印刷物等	なし
FD 活動の記録	(22) 授業事例研究

報告書作成マニュアル記載の提出資料	(資料番号/資料名)
	(23) 授業相互参観
SD 活動の記録	(24) SD 委員会活動報告書
基準Ⅲ：教育資源と財的資源	
A 人的資源	
教員の個人調書（専任教員については教員履歴書、過去5年間の業績調書。非常勤教員については過去5年間の業績調書）	(25) 個人調書(専任教員) (26) 個人調書(非常勤教員)
教員の研究活動について公開している印刷物等（過去3年）	(27) 本学ホームページ
専任教員等の年齢構成表	(28) 専任教員年齢構成表
科学研究費補助金等、外部研究資金の獲得状況一覧表	(29) 科学研究費補助金状況一覧 (30) 外部研究資金獲得状況一覧
研究紀要・論文集（過去3年）	(31) 研究紀要
事務職員の一覧表（氏名、最終学歴）	(32) 事務職員一覧
B 物的資源	
校地、校舎に関する図面（全体図、校舎等の位置を示す配置図、用途（室名）を示した各階の図面、校地間の距離、校地間の交通手段等）	(33) 校地、校舎に関する図面
図書館、学習資源センターの概要（平面図、蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、座席数等）	(34) 千葉経済大学総合図書館利用の手引 (35) オープンキャンパス資料（千葉経済大学総合図書館・地域経済博物館）
C 技術的資源	
学内 LAN の敷設状況	(36) ネットワーク・サーバ完成図書
マルチメディア教室、コンピュータ教室等の配置図	(37) 校内配置図（パソコン教室等）
D 財的資源	
寄附金・学校債の募集についての印刷物等	なし
財産目録及び計算書類（過去3年）	(38) 財産目録 (39) 計算書類
教育研究経費（過去3年）の表	(40) 教育研究費
基準Ⅳ：リーダーシップとガバナンス	
A 理事長のリーダーシップ	
理事長の履歴書	(41) 理事長履歴書
現在の理事・監事・評議員名簿（外部役員の場合は職業・役職等を記載）	(42) 理事・監事・評議員名簿
理事会議事録（過去3年）	(43) 理事会議事録

報告書作成マニュアル記載の提出資料	(資料番号/資料名)
<p>諸規程集</p> <p>組織・総務関係 組織規程、事務分掌規程、稟議規程、文書取扱い（授受、保管）規程、公印取扱規程、個人情報保護に関する規程、情報公開に関する規程、公益通報に関する規程、情報セキュリティポリシー、防災管理規程、自己点検・評価に関する規程、SDに関する規程、図書館規程、各種委員会規程</p> <p>人事・給与関係 就業規則、教職員任免規程、定年規程、役員報酬規程、教職員給与規程、役員退職金支給規程、教職員退職金支給規程、旅費規程、育児・介護休職規程、懲罰規程、教員選考基準</p> <p>財務関係 会計・経理規程、固定資産管理規程、物品管理規程、資産運用に関する規程、監査基準、研究費（研究旅費を含む）等の支給規程、消耗品及び貯蔵品管理に関する規程</p> <p>教学関係 学則、学長候補者選考規程、学部（学科）長候補者選考規程、教員選考規程、教授会規程、入学者選抜規程、奨学金給付・貸与規程、研究倫理規程、ハラスメント防止規程、紀要投稿規程、学位規程、研究活動不正行為の取り扱い規程、公的研究費補助金取り扱いに関する規程、公的研究費補助金の不正取り扱い防止規程、教員の研究活動に関する規程、FDに関する規程</p>	<p>(44) 千葉経済大学短期大学部規程集 (組織・総務関係) (人事・給与関係) (教学関係)</p> <p>(45) 財務関係規程 経理規程 経理規程細則 固定資産及び物品管理規程 資金運用管理規程</p>
B 学長のリーダーシップ	
学長の履歴書・業績調書	(46) 学長履歴書・業績調書
教授会議事録（過去3年）	(47) 教授会議事録（正本）
委員会等の議事録（過去3年）	(48) 各委員会議事録 (49) 教授会議事録（正）
C ガバナンス	
監事の監査状況（過去3年）	(50) 監査報告書
評議員会議事録（過去3年）	(51) 評議員会議事録
選択的評価基準3	
	(52) インターシップ報告書 (53) オープンカレッジかまがや

## 基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果

### (a) 基準Ⅰの要約

千葉経済学園は「片手に論語、片手に算盤」を建学の精神として創立され、本学はこの理念に則って校是を「良識と創意」と定めている。「論語」に象徴される倫理・道徳と「算盤」に象徴される職業人としての技術・知識を育み、民主主義社会を支える健全な「良識」と社会・経済を発展させる「創意」を備えた市民を育成することが本学の理念である。

ビジネスライフ学科とこども学科の教育目的・目標は、この教育理念を踏まえて掲げられ、それは「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受け入れの方針」（以下、「三つの方針」という）として学内外に公表し、定期的に点検されている。両科の教育課程はこの方針に基づいて編成され、学習成果は授業要項（シラバス）で明示された方法で測定している。教育の質を確保し、学生の満足度を高めるために、機関・教育課程・科目の3レベルでPDCAサイクルを用いた査定を行い、学科ごとにFD会議を設けて教育の充実に努めている。

自己点検・評価活動は、平成3年に制定された規程に基づいて短期大学部専門部会を設置し、全教職員の意識を高めて平素より行い、短期大学基準協会の認証評価や外部評価を受け、また定期的に行っている学生の授業評価に耳を傾けて、学生が満足する学園の構築に力を注いでいる。

### (b) 行動計画について

- ① 三つの方針については、建学の精神はもとよりのこと、時代の要請に合致しているか、学生の実態やニーズに即しているか点検を重ねること。
- ② PDCAサイクルによる学習成果の査定については、緒に就いたばかりであるので確実に根づかせ、「教員の視点に立った教育」から「学生の視点に立った学習」への転換を図るために様々な活動を取り入れるとともに、平素より自己点検・評価に心がけて改善に努め、教育の実を上げること。

## 基準Ⅰ-A 建学の精神

### (a) テーマの要約

昭和8年に創立された千葉経済学園の建学の精神は「片手に論語、片手に算盤」で、徳育と実学を重んじる教育理念である。「論語」は人としての倫理や道徳を養うことの重要性、「算盤」は職業人として自立できる技術や知識を身につけることの必要性を表明している。昭和43年に開学した本学はこの教育理念に則り、校是を「良識と創意」と定めた。健全な倫理観に裏打ちされた「良識」と社会・経済を発展させるために欠かせない「創意」を育むという最高学府としての教育理念である。建学の精神と校是は入学式等の機会に理事長・学長によって語られ、教室に掲示された「論語カレンダー」を目にすることをとおして学生や教職員に共有されている。

大学総合図書館は「論語」についての開放講座を毎年開催して、地域への啓蒙にも努めている。「良識と創意」という校是はキャンパスの中央の石碑に刻まれていて、学生はこの理念に接しながら学業に励んでいる。

## (b) 改善計画について

建学の精神を学生に深く理解させるためには、入学前教育や入学ガイダンスでの指導が特に重要であるので、どのように指導を充実させていくか、毎年度検討を重ねること。

## 基準 I-A-1 建学の精神が確立している

## (a) 現状について

千葉経済学園は昭和8年に佐久間惣治郎によって創立された。創立者は当時の教育が知育偏重で道德教育を軽視していることを憂え、理想とする教育を行うためには私学を興すしかないと考え、建学の精神に「片手に論語、片手に算盤」を掲げて千葉女子商業学校を創設した。「論語」は人としての倫理や道德を養うこと、「算盤」は職業人として自立できる「職業に結びつく技術」を備えることの象徴で、両者を兼ね備える教育の重要性を表明するものとなっている。

昭和43年に設置された千葉経済短期大学（当時）は、学園の建学の精神を踏まえて校是を「良識と創意」と定めた。つまり、民主主義を支える国民に必須である健全な倫理観に裏打ちされた「良識」と、社会・経済を発展させるために欠かせない「創意」を育むという教育理念である。この校是は後に開学される千葉経済大学の教育理念ともされ、学園の最高学府としての使命を明らかにしている。

建学の精神「片手に論語、片手に算盤」は、学園の教育理念として高校・短大・大学において脈々と受け継がれ、教育のバックボーンとなっている。理事長・学長は入学式等のさまざまな機会に学生のみならず教職員に対してこの理念を熱く語り、また大学案内や『千葉経済学園60年史』等のさまざまな出版物にその意義を書き示すとともに、ホームページでは「大学の特色」の項で「良識と創意」の理念をかみくだいて語っている。

平成23年8月には、佐々木久夫著『佐久間惣治郎伝——教育の基本は「論語と算盤」』が出版され、同書は多くの方々に読まれ感銘を与えている。また、大学総合図書館は「論語」についての開放講座を平成19年から毎年開催して、学生はもとより地域の方々への啓蒙にも努めている。

## 大学総合図書館講演一覧（論語に関する講演）

開催日	演題	講師
平成19年10月13日（土）	中国古典に学ぶ —「論語」と「孫子」—	守屋 洋氏
平成20年7月3日（木）	経世済民の『論語』 —素行・仁斎・渋沢栄一の目を通して—	石本 道明氏
平成20年12月6日（土）	孔子の人間学 —『論語』の解釈をめぐる—	村山 吉廣氏
平成21年11月7日（土）	『論語』と日本人 —荻生徂徠の挑戦—	石本 道明氏
平成22年7月17日（土）	怒れる孔子 ～『論語』を読む～	石本 道明氏

平成22年11月9日（火）	渋沢栄一と道德経済合一説	井上 潤氏
平成23年7月15日（金）	必ずや名を正さん乎 ～虚像の打破～ 子路第13の章句	石本 道明氏
平成23年12月3日（土）	渋沢栄一と経世済民思想	坂本 慎一氏

校是「良識と創意」に込められた本学の教育理念もまた、入学式をはじめ様々な機会に理事長・学長から学生や教職員のみならず、学生の保護者に対しても述べ伝えられている。本学の正門を入った正面の石碑には、前理事長佐久間彊の筆でこの校是が刻まれ、学生はこの石碑を目にして日々学業に励んでいる。

平成24年度より、「論語カレンダー」を作成して大学・短期大学・附属高校の各教室に掲示し、論語の教えに親しみながら勉学に励む環境を整えている。ちなみに、「論語カレンダー」に選りすぐった論語の教えは以下の12である。

4月	朋あり、遠方より来る。亦楽しからずや。
5月	己の欲せざる所を、人に施すことなかれ。
6月	学びて思わざれば則ち罔し。思いて学ばざれば則ち殆し。
7月	知れるを知るとなし、知らざるを知らずとせよ。これ知るなり。
8月	徳は孤ならず、必ず隣あり。
9月	故きを温ねて新しきを知る。もって師となすべし。
10月	われ日に三たびわが身を省みる。
11月	過ちては則ち改むるに憚ることなかれ。
12月	過ぎたるはなお及ばざるがごとし。
1月	君子はこれを己に求め、小人はこれを人に求む。
2月	性は相近し、習えば相遠ざかる。
3月	三人行えば必ず我が師あり。その善なる者を択びてこれに従い、その不善なる者はこれを改む。

#### (b) 課題について

時代を超えた教育理念「片手に論語、片手に算盤」と校是「良識と創意」が、学園のあらゆるところで活かされるように今後とも努めること。

### 基準 I-B 教育の効果

#### (a) テーマの要約

ビジネスライフ学科及びこども学科の教育目的は、建学の精神「片手に論語、片手に算盤」と校是「良識と創意」を踏まえて掲げられており、その教育目的・目標は三つの方針において表明され、時代の要請や地域のニーズ、学生の実態に即する目的・目標となっているかどうか点検している。

両科の教育課程は「教育課程編成・実施の方針」に基づいて編成されている。シラバスは各科目の「概要と到達目標」「評価の方法・基準」を示し、学習成果を測定する方法を明らかにしている。また、各科目の学習成績表は学生のみならず保護者にも郵送にて通知し、学業への励みとさせている。学科としての学習成果は就職・資格取得・免許取得の状況等に表れるので、その状況についてはホームページ等で公表している。

教育の質を確保し、満足度を高めるために関係法規の定めを順守して的確に対応するとともに、機関レベル・教育課程レベル・科目レベルでさまざまな角度から査定に努めている。PDCA サイクルに基づく査定は主として学科会議後の FD 会議で行い、組織的に教育の充実に努めている。

#### (b) 改善計画について

- ① 三つの方針に基づく学習成果の査定にあたっては、学生の視点に立つて行うことを基底として実施し、教育の向上・充実に努めること。
- ② PDCAサイクルによる査定は緒に就いたばかりであるが確実に定着させて、機関レベル・教育課程レベル・科目レベルにおいて適切に行って改善に活かすこと。

### 基準 I-B-1 教育目的・目標が確立している

#### (a) 現状について

ビジネスライフ学科の教育目的は、「校是である『良識と創意』にもとづき、社会人として健全な判断のできる『良識』と社会の変化に対応できる『創意』を兼ね備えた、人間性豊かな学生の育成」(提出資料(1)『学生便覧』3頁)である。

同便覧は「21世紀は変化の激しい流動的な社会で、ビジネスの知識だけでなく、ITや生涯学習・社会福祉などの知識が必要とされる社会に向かっています。このような社会では、ビジネスの基礎的な能力を備え、社会の常識を理解し、他人と協調して生活や仕事ができ、さまざまな事態にも対応できる人材が求められています」(31頁)と、その時代認識を明らかにする。また、「世界や日本の経済の動向・会社のしくみ・簿記の原理・コンピュータなど、ビジネスに必要な基礎知識や幅広い教養を身につけさせ、地域のビジネス産業界の要請に応え、さらには自らの生涯設計に役立つ教育内容を用意しています」(31頁)と、修得されることになる学習成果についてふれる。

こども学科の教育目的は校是である「良識と創意」を踏まえて、「深い人間理解を基盤とした幅広い教養と、優れた実践力を兼ね備えた教師と保育士の育成」(提出資料(1)『学生便覧』3頁)である。

同便覧は「こどもについての総合的な学習を基盤とし、人間性が豊かで実践力のある教員養成・保育士の育成を目指します」(41頁)と学科の教育目標を明らかにする。そして、2年間の学習成果として、①実践者としての基本技術、②現場で出会う困難な状況に創造的に対応できる能力、③深い人間理解と教養に基づいた豊かな人間性、④卒業後も自ら成長することができる実践者としての資質を掲げる。

建学の精神を根底に置く両学科の教育目的・目標は、三つの方針として学内外に表明されている。入学時のガイダンスではこの方針・目的・目標を学生に周知させ、2年間の学習に展望をもって臨ませている。教育目的・目標については、カリキュラムの改訂や学生

募集要項の作成、大学案内の作成の際に慎重に検討し、時代の要請や地域、学生の実態やニーズに即するものとなっているかどうかを定期的に点検している。受験する生徒の実態の変容に伴って見直しの必要が生じた場合には「入試広報委員会」及び学科会議で、またカリキュラム変更の必要性が生じた場合には「教務部会」及び学科会議で検討を重ね、最終的には教授会において議論し、適宜改正を行うことに努めている。

#### (b) 課題について

両学科の教育目的・目標の達成に向かって教職員が一丸となって取り組み、「本学に入学してよかった」と学生が実感できるように努めること。

### 基準 I-B-2 学習成果を定めている

#### (a) 現状について

学園の建学の精神は「片手に論語、片手に算盤」で、人間としての倫理観や教養を養うとともに、専門的な知識や技術を身に付けていくことである。この精神に基づき、ビジネスライフ学科では一般教養と専門知識・技能を調和的に養うように科目を開設し、シラバスはそれぞれの授業の「概要と到達目標」を明示している。こども学科においても、深く人間理解のできる素養を養うとともに、教師・保育者としての実践力を培う科目を開設して、それぞれの授業の「概要と到達目標」をシラバスに明示している。

両学科で期待される学習成果については、「学位授与の方針」に示されている。そこに記載されている学科の学習成果は、教育課程編成・実施の方針に基づいて開設される科目群の授業をとおして2年間に身につけられていく。シラバスではどの科目においても、「授業の概要・到達目標」「授業の内容・計画」を明らかにしたのちに、「評価の方法・基準」という欄を設けている。そこでは、例えば次の4例のような記載があつて、学習成果を量的・質的に測定して評価することが明示されている。

- 課題発表方法・内容(30%)、発表レジュメの記述内容(25%)、討論への参加状況(25%)、出席状況・授業態度(20%)を考慮しての評価
- 毎回の感想文(40%)、学期末のテスト(30%)、発表(30%)で総合的に評価
- 発表内容(20%)、積極性(20%)、課題(20%)、出席率(40%)を勘案しての評価
- 期末試験(40%)、小テスト(30%)、出席状況(30%)で総合的に評価

つまり、学業に励む態度の真摯さを重視するとともに、各科目の特性にあわせて内容の理解度や発表力などを適切に測定するように努めている。

「各科目の個人の学習成績表」は、前期後期の終了時の2回、学生一人ひとりに手渡すとともに、保護者にも郵送して知らせている。「教育課程の編成・実施の方針」に基づく「学科としての学習成果」は、就職状況や資格取得状況、免許取得状況等に表れる。その状況については大学案内やホームページに掲載して学内外に公表しており、その公表は学生の学習意欲を高める一契機になっている。

就職、資格取得、免許取得の状況などで学習の成果が芳しいと判断した場合は、その要

因を考察してさらに成果が上がるように努め、また、成果が芳しいと思われない場合にはその背景をつぶさに点検して、教育方法などの改善に努めている。

#### (b) 課題について

すべての学生が自分の学習成果を確認して卒業できるように、教育上の工夫を凝らして満足度を高めること。

### 基準 I-B-3 教育の質を保証している

#### (a) 現状について

教育の質を確保し学生の満足度を高めるためには、学校教育法はもとより短期大学設置基準等の関係法令を順守することが欠かせない。教育情報の公開などの新たな義務が法令で定められる場合があり、関係法令の変更には常に関心をもって理解に努め、法令に則った的確な対応ができるように努めている。

教育の質の保証のためには、期待される学習成果が上がっているかどうか、様々な観点で査定に努めなければならない。機関レベルとしての大学では、地域社会のニーズに応じて有為なビジネスパーソン、教育者、保育者の養成がなされているか、企業や幼稚園、保育所などに卒業生の状況についてアンケートを求めるなどして、教育の状況を省みている。

教育課程レベルとしての学科では、学科長が科の教育の質保証に強い問題意識をもって学科会議に臨み、また授業評価や満足度調査の結果について詳細に点検して開講科目の改訂や教育方法の改善、授業クラス規模の適正化などに努めている。また、科目レベルでは担当する科目の授業が学科の教育目標を達成する授業として学生の向学心を満足させるものとなっているか、授業評価を謙虚に受けとめ、また満足度調査の結果にも耳を傾けて授業方法の改善に努めている。

平成23年4月の教授会で学長は「平成23年度のFD推進について」という基本方針を明示した。その方針は、以下のようなPDCAサイクルに基づき組織的に教育の充実に努めようとするものである。

#### 【PLAN（計画）】

- ① 週4日の出講日の空き時間や長期休業を利用して、学生指導を個別に行う。欠席が目立つ学生に対しては受験無資格や安易な休学や退学に陥ることのないようにカウンセリングを行い、的確な指導を行う。また基礎学力に劣る学生に対しては高校までの履修状況をチェックし、理解が不足する点に関して学習上の指導を行う。向学心のある学生に対しては高度の適切な課題を与えるなどして、その力を伸ばすように指導を行う。
- ② 実技・実習科目において、正規の授業時間ではシラバスに記載した「学習成果」の達成が難しいと判断される学生には、個別に実技指導を行う。
- ③ 学科会議後にFD会議をもち、個々の学生の事例について各教員が報告し、全員で情報を共有するとともに、指導の糸口を探って意見交換を行う。

- ④ 非常勤講師からも問題性のある学生についての状況報告を求めて、全教職員で教育の質の向上・充実に努める。

**【DO（実行）】**

PLANで計画した取り組みを着実に実行する。

**【CHECK（評価）】**

実行したこと、実行できなかったことをそのつどFD会議で点検・評価する。

**【ACT（改善）】**

点検・評価活動をふまえて、「学生の視点に立った学習」の実現に向けて、さらなる努力を行い、次のPLAN（計画）へと改善する。

以上、おおまかなPDCAサイクルではあるが、教育という息の長いとなみをじっくりと見守りながら行うサイクルを示して査定活動を進めている。

**(b) 課題について**

PDCAサイクルによる学習成果の査定は取り組み始めたばかりで、未だ取り組みの成果を確認するに至っていないので、この取り組みを定着させて教育の質保証に努めること。

**基準 I-C 自己点検・評価**

**(a) テーマの要約**

平成3年に制定された「自己点検・評価に関する規程」に基づき、「自己点検・評価委員会 短期大学部専門部会」が設置され、全教職員の意識の高揚を図りつつ平素より自己点検に努めている。その報告書は平成17年度、21年度に公表し、短期大学基準協会の認証評価や外部評価の指摘を受けて教育・研究等の改善に努めてきた。認証評価や学生の授業評価は本学の取り組むべき課題を率直に示しており、改善のために大いに参考にしている。

**(b) 改善計画について**

- ① 自己点検・評価活動は平素より実態に即して行いつづけなければ意味がないので、短期大学専門部会がその中核となって全教職員と取り組むこと。
- ② 4年後には、外部評価を受けてさらに改善に努めること。

**基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実にに向けて努力している**

**(a) 現状について**

「自己点検・評価に関する規程」は平成3年に定められ、その第5条に基づき「自己点検・評価委員会 短期大学部専門部会」が設置された。構成員は学長、学科長、教務・学生・就職の各部長、図書館長（または副館長）、入試広報委員会委員長（平成23年度より）及び事務局長である。同部会の構成員は平素より本学の教育について自己点検に心がけ、改善に努めるべき点については随時意見交換し、関係部署の検討に委ねている。自己点検・評価報告書は短期大学基準協会に認証評価を求めた平成17年度に公表したのち、そ

の後3年間の状況を21年度に報告書に記載して公表し、外部評価に委ねた。

教員は全員が常設の教務・学生・就職の各部会や各委員会のいずれかに所属し、月1回の例会で所轄の事項について点検活動を行うとともに、学科会議と教授会では広い視野から検討し、本学の教育の質の向上に努めている。

短期大学基準協会の認証評価や外部評価においての適切な指摘を謙虚に受けとめて改善に努めるとともに、学生の授業評価にも学ぶ側からの率直な指摘があつて、授業改善の視点が示されているので大いに参考にしている。

#### (b) 課題について

教育活動の自己点検・評価については怠りなく、平素より取り組むこと。

#### 基準Ⅰについての特記事項

本学の校歌の第三番には「培わん花の良識、鍛えなん創意のこころ、建学の基（もと）忘れず、語り継ぐ母校の榮譽（ほまれ）、うけとめて受けとめて我らここに励む」とある。学生は入学式の折にこの校歌に接し、その後折にふれて歌い、建学の精神をかみしめて過ごしている。

平成24年秋には、『佐久間惣治郎伝—教育の基本は「論語と算盤」』を読んだ論文や感想文のコンクールを大学生・短期大学生・高校生や同窓生をふくむ一般の人たちを対象にして行うことにしている。

## 基準Ⅱ 教育課程と学生支援

### (a) 基準Ⅱの要約

「学位授与の方針」と「教育課程編成・実施の方針」を踏まえて教育課程を体系的に編成するとともに、シラバスで各科目の到達目標や成績評価の方法などを明記している。また、教育の質保証に万全を期し、科目の掲げる到達目標はすべての学生に達成されるように、学習者の視点に立った授業に努めるとともに、基礎学力の不足する学生には空き時間に教員が個別に対応し、授業の補充を行っている。

「入学者受け入れの方針」と「高等学校において望まれる学習」を公表して、A0・推薦・一般試験の3区分の入学試験により、学ぶ意欲のある学生の募集と選抜を行っている。学生募集にあっては、「大学案内」やホームページで本学の教育の広報に努め、入学手続きを終えた者には12月から入学前教育を3回実施して、大学生活に円滑に移行できるように努めている。

学科会議後にはFD会議を開いて、個々の学生の情報交換と学科を挙げての指導体制の構築に努めている。また「学生による授業評価」を定期的実施して率直な学生の指摘を授業改善に活かす努力を重ねるとともに、「満足度調査」を定期的実施して学生の学園生活全般に対する評価を測定し、教育力の向上に努めている。教員の授業力を磨く機会として、「授業事例研究会」と「相互授業参観」を設けてFD活動に努めている。

学務課職員は教員との連絡を密にして学生の履修に心を配り、また図書館やコンピュータ室を活用して学習成果を上げるように施設・設備の充実に努めている。学生生活の支援は教員と学務課職員がその任に当たり、学生の自主性を活かしながらクラブ活動の活性化や学園行事の企画遂行に対して側面から支援している。アメニティには十分に配慮して快適なキャンパスライフを満喫できるように努め、学生のメンタルヘルスケアについては保健室とカウンセリングセンターが対応している。

経済的な支援については、日本学生支援機構の奨学金と学園奨学金制度を活用させるとともに、平成24年度からは授業料減免制度を整えて経済的事情から修学が困難な学生の向学心に応えている。キャリア支援については就職先から卒業生の状況を聴取してその指摘を活かすとともに、2年間を見通した周知な計画に基づく就職支援に努めている。資格取得講座や就職試験対策講座、公務員試験対策講座を開設するとともに、高度資格取得者には奨励金を授与してその努力を称えている。

### (b) 行動計画について

近年の学生の学力低下に鑑み、その実態に即して、「短期大学士」にふさわしい教養と専門知識、そして社会人基礎力を身に着けることができるように、教育の実を上げていきたい。そのために、次の6項目の行動計画を掲げて全教職員で取り組む。

- ① 教育課程の編成が学生の期待に応えるものとなること
- ② 専門性が確実に培われていくように熱意をもって教育に臨むこと
- ③ 授業評価や満足度調査の結果に耳を傾けて授業改善に努め、FD活動の充実に努めること
- ④ 学力の不足する学生に対しても向学心にあふれた学生に対しても、きめ細かい適切な対応を行うこと

- ⑤ 入学の時点からキャリアデザインをしっかりと描かせ、その実現に向けた支援を図っていくこと
- ⑥ 入学前教育の充実を図り、大学生としての自覚を早くからもたせて勉学に励ませること

## 基準Ⅱ-A 教育課程

### (a) テーマの要約

両学科の学位授与の方針は学内外に表明され、卒業の要件や資格取得の要件、成績評価の基準は『学生便覧』に明記されている。卒業要件はビジネスライフ学科 66 単位・こども学科 62 単位で全国の短期大学の多くと等しい要件となっている。学生は多種の資格取得を志して、卒業要件をかなり超える科目履修に努めている。

両学科の「教育課程編成・実施の方針」は「学位授与の方針」に基づいて定められ、教育課程は体系的に編成されている。ビジネスライフ学科では5つの専門フィールドの中からメインフィールドを選択して履修する教育課程を活かし、専門的な知識・技能の修得と社会人基礎力の養成に努めている。こども学科ではこどもについて幅広く履修できる教育課程を編成し、実践的な能力の養成に力を注いでいる。シラバスには必要な項目が明示され、教員の資格・業績を基にした適切な教員配置が行われている。また、学科の教育課程は社会ニーズに適切に対応できるよう適宜見直しが行われている。

「入学者受け入れの方針」は『学生便覧』やホームページなどで表明され、『大学案内』には「高校において望まれる学習」についても記載している。AO 入試・推薦入試・一般試験入試の3種類に区分される入学試験は、「入学者受け入れの方針」に対応して実施され、多様な形態で学生の募集が行われている。

シラバスにおいて、各科目の学習成果を具体的に明示するとともに、学習成果の測定方法を明確に定めている。教育課程の掲げる学習成果が、一定期間内にすべての学生に達成されるように、学生の視点に立った授業が展開されている。また、学習成果の実践的な価値については、就職した卒業生からのアンケートから一定の評価を得ている。

卒業生の就職先の評価については、企業・幼稚園・保育所を訪問して状況を聴取するとともにアンケート調査を実施することによって、その実態の掌握に努めている。この評価は本学の教育の在り方を見直す貴重な資料として受けとめられ、就職部会とキャリアセンターの分析結果を参考として、全教員でキャリア教育の充実に努めている。

### (b) 改善計画について

- ① 教育課程が社会人基礎力を確実に修得させるものになっているかどうか、適宜点検すること。
- ② 多様な入試形態について周知に努め、高校での学習の多様性が活かされるように学生募集にあたること。
- ③ 学生にたとえ基礎学力が不足していても、その不足を補いつつ学習成果を上げさせるために適切に助力すること。
- ④ 就職先との連携を密にして、求められる教育の充実に努めていくこと。

基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している

(a)現状について

ビジネスライフ学科の学位授与の方針は、次のとおりである。

(提出資料(1)『学生便覧』6頁)

本学科は、千葉経済学園の建学の精神及び校是「良識と創意」に基づき、豊かな人間性と学術・技芸に優れた人材の養成を目標として、教育課程を編成しています。この教育課程の特徴は、座学・実践演習等を通じて、学術理論・技芸の修得は当然ながら、併せて社会人基礎力を身に付けた人材の育成にあります。この課程の履修者が次掲のように、学術理論・技芸等に関する知識、能力を身につけ、所定の単位を修得した際には、短期大学士（ビジネスライフ）を授与します。

1. 社会人に求められる豊かな教養、良識。
2. ビジネスライフ学科における学術理論等の基礎知識。
3. 現代社会に適応できる知見を有し、学際的な多様な課題においても、柔軟且つ適正に問題解決できる能力。
4. 実社会において知識を実践の場で生かし、情勢に適応した行動。
5. 日常の行動体系において適切な自己管理を行い、他者との良好な対人関係を維持する能力。
6. ビジネススキルの習熟を期し、キャリア形成に努める意識。

以上の方針を踏まえて、卒業要件は下表のとおり定められている。

【平成23年度入学生】

ライフデザインと 教養フィールド	ライフデザインユニット	14 単位以上
	教養ユニット	8 単位以上
	国際コミュニケーションユニット	2 単位以上
	スポーツユニット	1 単位以上
ゼミナールフィールド		4 単位以上
メインフィールド		10 単位以上
オプション		*
総 計		66 単位以上

こども学科の学位授与の方針は、以下のとおりである。

(提出資料(1)『学生便覧』6頁)

本学科は、千葉経済学園の「建学の精神」及び「校是」に基づき、豊かな人間性と優れた実践力を体得した教育者・保育者の養成を目標として、教育課程を編成しています。この教育課程の特徴は、座学・実践演習等を通じて、「こども」について総合的に研究し学ぶことでもあります。この課程の履修者が次掲のように、教育・保育に関する知識、能力を身につけ、所定の単位を修得した際には、短期大学士（こども学）を授与します。

1. 教育・保育の方法、技術及び基礎技能の基本的能力。
2. 実践のバックボーンとしての、教育・保育の本質とその原理の理解力。
3. 高い教養、豊かな表現力を有し、教育上・保育上、「こども」と適切な意思疎通を図り、良好な人間関係を築くことのできる豊かな人間性。
4. 日常のこどもの行動様式、行動心理を洞察し、状況に適応した教育・保育を実践できる能力。
5. 教育者・保育者としての社会的使命感、高い倫理観を有し、他者と協力しながら社会貢献できる能力。
6. 日々の実践及び保育・教育に係る新しい知見から豊かに学び、将来にわたり成長していこうとする意識。

以上の方針を踏まえて、卒業要件は下表のとおりに定められている。

共通科目	一般教養科目	6 単位以上
	基礎科目	8 単位以上
専門科目		40 単位以上
自由選択科目		8 単位以上
総 計		62 単位以上

成績評価の基準は、平成 23 年度入学生から従前の 4 段階を改めて、両科とも下記の 5 段階に区分けされている。

合格.....「秀」（90 点以上）、「優」（80 点以上 89 点以下）、「良」（70 点以上 79 点以下）、「可」（60 点以上 69 点以下）
不合格...「不可」（59 点以下）

卒業要件とは別に両科で取得できる資格の要件は、下記のとおりである。

①図書館司書資格（両学科）

本学卒業に必要な所定の単位を修得するとともに、司書課程の定める次の科目を履修し、その単位を修得すること。

平成 24 年度入学生からは、甲群に掲げた合計 13 科目 22 単位を必ず履修し、乙群から 2 科目 2 単位以上を選択履修。

区分	第 1 年 次	第 2 年 次
甲群 22 単位	生涯学習概論 2	図書館情報技術論 2
	図書館概論 2	図書館制度・経営論 2
	図書館サービス概論 2	情報サービス論 2
	図書館情報資源概論 2	児童サービス論 2
	情報資源組織論 2	情報サービス演習Ⅰ 1
	情報資源組織演習Ⅰ 1	情報サービス演習Ⅱ 1
	情報資源組織演習Ⅱ 1	

乙群 2科目 2単位以上	図書館サービス特論	1	図書館基礎特論	1
			図書館情報資源特論	1
			図書・図書館史	1
			図書館施設論	1
			図書館実習	2

②小学校教諭 2種免許状

必修科目「教職概説」「教育原理Ⅰ」「教育原理Ⅱ」「教育心理学」「教育相談」「教育方法Ⅰ」「教職実践演習(小)」「道德教育」「特別活動」「生徒指導論」(各2単位)と「教育実習」5単位の合計25単位を必ず履修し、次の選択必修8科目16単位の中から6科目12単位以上を必ず選択履修し、その単位を修得すること。

ただし、「国語科指導法」「社会科指導法」(各2単位)の2科目から1科目以上、「算数科指導法」「理科指導法」(各2単位)の2科目から1科目以上、「音楽科指導法」「図画工作科指導法」「体育科指導法」(各2単位)の3科目から2科目以上を含めて履修。

区分	単位	第1年次	第2年次
必修	6	特別活動 2	道德教育 2 生徒指導論 2
選択 必修	12 以上	2 以上	社会科指導法 2 国語科指導法 2
		2 以上	算数科指導法 2 理科指導法 2
		4 以上	音楽科指導法 2 図画工作科指導法 2 体育科指導法 2
			生活科指導法 2

③幼稚園教諭 2種免許状

必修科目「教職概説」「教育原理Ⅰ」「教育原理Ⅱ」「教育心理学」「教育相談」「教育方法Ⅱ」「教職実践演習(幼)」(各2単位)と「教育実習」5単位の合計19単位を必ず履修し、下表の必修8科目16単位を必ず履修。

区分	単位	第1年次	第2年次
必修	16	保育内容総論 2	人間関係指導法 2
		健康指導法 2	造形表現指導法Ⅰ 2
		環境指導法Ⅰ 2	幼児理解 2
		言葉指導法Ⅰ 2	
		音楽表現指導法Ⅰ 2	

選択	言葉指導法Ⅱ	2	環境指導法Ⅱ	2
	歌唱伴奏法	2	音楽表現指導法Ⅱ	2
			造形表現指導法Ⅱ	2
			遊び指導法	2
			幼児体育	1

#### ④保育士資格

一般教養科目の「法学Ⅰ(日本国憲法)」「文学Ⅱ」「歴史への旅Ⅱ」「社会学Ⅱ」「心理学Ⅱ」「数学Ⅱ」「生物学Ⅱ」「法学Ⅱ」(各2単位)の中から6単位以上を選択し、基礎科目の「健康科学概論」2単位を必ず選択履修し、区分「保育必修」から61単位、区分「保育選択必修」から9単位以上を、次の(1)(2)の要件にしたがって履修し、必ずその単位を修得すること。

##### (1) 保育必修科目 (61 単位)

区分「保育必修」の科目中、必修科目34科目61単位を必ず履修。

##### (2) 保育選択必修科目 (9 単位以上)

区分「保育選択必修」の14科目22単位中、9単位以上を必ず選択履修。

保育所実習を希望する者は「保育実習指導Ⅱ」1単位と「保育実習Ⅱ」2単位を含めて履修。

施設実習を希望する者は「保育実習指導Ⅲ」1単位と「保育実習Ⅲ」2単位を含めて履修。

学位の授与については、学則の第9条「卒業の要件」及び第10条「短期大学士」で、以下のように規定している。

##### (卒業の要件等)

第9条 卒業の要件は、休学期間を除き、本学に2年以上(第19条または第20条の規定により入学を許可された者については、その許可の際定められた在学すべき年数以上)在学し、それぞれの学科で定められた必修科目を含めて、ビジネスライフ学科は66単位以上、こども学科は62単位以上を修得することとする。

##### (短期大学士)

第10条 前条により卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより短期大学士の学位を授与する。

卒業要件の単位数の設定は日本私立短期大学協会の調査(平成23年度)によると「62単位」とする短期大学が全体の59.3%で最も多く、「64単位」が17.2%、「66単位」が15.4%と続いている。このような調査を踏まえるならば、本学の卒業要件単位数(ビジネスライフ学科66単位・こども学科62単位)は適切で、社会的に納得のゆくものとする。

なお、こども学科において小学校教諭免許と幼稚園教諭免許、幼稚園教諭免許と保育士資格のそれぞれを取得して力量を高めるためには、卒業要件をかなり超えた単位を取得しなければならない。また、両学科において図書館司書の資格を取得する場合も同様に卒業要件を超える科目履修が必要となっており、学生は資格取得を目指して勉学に励んでいる。

学位授与の方針については、時代の要請や学生の実態に合わせて、随時、学科会議・教

授会で点検している。平成 23 年度入学生より、ビジネスライフ学科の卒業要件単位数を 62 単位から 66 単位へと増やしたが、この変更はビジネスについての専門性をさらに磨いて学位を授与しようと考えたからである。

学位授与の方針は、学生便覧及び本学ホームページで学内外に公表している。

#### (b) 課題について

在学 2 年間で行う科目履修には限度があるが、「短期大学士」という学位にふさわしい実績をそなえて卒業できるように教育力を結集して臨むこと。

### 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している

#### (a) 現状について

ビジネスライフ学科の教育課程では、平成 23 年度においては 123 科目 (222 単位) の中から必修 14 科目 (20 単位)、選択必修科目 (9 単位) の履修が要件とされている。残りの 34 単位以上は自分のキャリアに合うように、5 つの専門フィールド等の中から主体的に選択できる教育課程であり、科目選択の自由度が尊重されたものとなっている。

1 年次では「キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ」と「総合ビジネス教養」を必修にしており、前者においては学習プランの設計やキャリア選択について重点的に指導し、後者においては就職試験に必要な教養知識を身につけさせ、2 年間の教育課程の基礎を固めることにしている。情報系の科目としては、情報社会に対応した能力を身につけることを目途として、「PC リテラシー」等の基礎的な科目から「コンピュータアート」等の最新技術を活用する科目まで多岐にわたって開講し、多様な進路に活かし得るように配慮している。

こども学科の教育課程では、125 科目 (219 単位) の中から必修 5 科目 (8 単位)、選択必修科目 (6 単位) の履修が定められ、小学校・幼稚園の教員免許、保育士資格を取得するための科目が数多く開講されている。同学科はこどもについて乳児期から学童期まで幅広く学び、実践力と人間性の調和した有能な教員・保育士を養成することを目的としている。この目的を達成するため、「器楽」「リトミック」「レクリエーション・インストラクター」等の特色ある科目を開講するなど、音楽・造形・体育などの実技科目を重視した教育課程を編成して実践的な能力を養成するように努めている。

本学では、「学位授与の方針」に基づき、次の「教育課程編成・実施の方針」を表明し、両学科の教育目標を達成するため、学習成果を見すえた授業科目の編成にあたっている。

#### 【ビジネスライフ学科】

(提出資料(1)『学生便覧』4頁)

- |  |
|--|
| <p>(1) 今日のビジネス界の人材ニーズに広く応え、日本経済の発展に寄与すべく、本学科にはそれぞれの専門分野に対応した以下の 5 つの「専門フィールド」(エコノミクス・アカウンティング・ビジネスマネジメント・インターネット・コンピュータマスター)を設け、学生は各々の進路に応じてそのいずれか一つを「メインフィールド」とし、それぞれの分野の専門知識・技能の習得に努める。</p> <p>(2) 多くの学生は入学時点で将来の進路が不明確なため、「キャリアデザイン」を通じ</p> |
|--|

て将来設計を綿密に行い、「キャリアゴール」を明確化し、学生のメインフィールド選択や履修科目選択に反映させると同時に、就業意識を高める。

- (3) ビジネス界の人材ニーズと学生側のシーズ（志望）とのマッチングをはかりやすくするため、学生各々のキャリアデザインを通じたキャリアゴールの変更に応じて、半期ごとに履修科目・メインフィールドを変更可能とする柔軟な履修制度とする。
- (4) 「専門フィールド」のほかに「ライフデザインと教養フィールド」を設け、社会人に求められる豊かな教養と人間性・良識を養う。
- (5) 基礎的な科目については、学習効率を上げるため、少人数クラス編成（1 クラス 50 名以内）とする。
- (6) とりわけ学習の基礎となる「英語」「日本語表現」「総合ビジネス教養」では、さらに学習効率を上げるため習熟度別クラス編成とする。
- (7) 「基礎ゼミ」と「専門ゼミ」においては、入学から卒業まで個別指導を徹底し、学生各人のパーソナリティと発達段階に即した綿密な指導を行うとともに、実践的演習を多く取り入れる。
- (8) 「インターンシップ」を通してビジネスの現場を体験させることにより、キャリア意識の向上をはかる。
- (9) 社会的に通用するビジネススキルの向上を目指し、各種資格関連科目を充実させ、検定合格率の向上に努める。
- (10) 本課程とは別に司書課程を設け、図書館現場で即戦力となりうる司書を養成するとともに、広く文化活動の担い手となる人材を育てる。

#### 【こども学科】

（提出資料(1)『学生便覧』5頁）

- (1) 初等教育コース・保育コースの両コース共通の教養科目、及び教師・保育士育成のための専門教育科目の2領域を中心とした科目で編成する。
- (2) 教養科目は、人間性を豊かにするという一般教養本来の目的を達成するために、幅広く人文・社会・自然の各分野の科目を配置し、授業内容も日常経験に関連あるものとなるように工夫する。なお、人間性の育成はこの教養科目にとどまらず、本学科の他の関連科目、教育のあらゆる機会に行うように配慮する。
- (3) 専門教育科目は、小学校教諭・幼稚園教諭 2 種免許状、保育士資格を取得するための科目で編成しており、初教コースでは小学校教諭・幼稚園教諭 2 種免許状、保育コースでは保育士資格・幼稚園教諭 2 種免許状を取得できるが、これらの専門教育科目はコースを超えて修得可能で、「こども」について総合的に学ぶことができる。
- (4) 専門教育科目には、教育・保育の方法、技術及び基礎技能に関する科目を配置する。実施に当たっては、優れた実践力を育成するため、少人数クラスで実技・実践的学習を多く取り入れる。また、実習の効果を上げるために、教育・保育実習記録集、施設実習記録集の執筆を活用する。
- (5) 専門教育科目には、保育・教育の本質と原理の理解に関する科目を配置し、その理解が優れた実践のバックボーンとなるように、当該科目の内容を現実の人間に即した人間理解・こども理解に基づかせる。このような人間理解は学生自身の人間性を

豊かにする。

- (6) 「こども」との良好な教育的・保育的人間関係を築くことのできる豊かな人間性の育成のために、教育実習・保育実習の事前指導等の少人数クラスの授業、芸術・表現に関わる科目では、対話や発表などにより自己を解放し、高め、また表現力を豊かにする教育を行う。
- (7) 状況に応じた教育・保育を可能にするため、多様な観点からこどもを理解する科目と、それらを統合し現実のこどもの存在そのものを理解する科目を置く。
- (8) 教育者・保育者としての社会的使命感、高い倫理観を有し、他者と協力しながら社会貢献できる能力の習得を目指した講義及びボランティア活動の科目を置き、その中で合わせて一般的な社会性も育てる。
- (9) 教職・保育士科目の授業実施に当たっては、日々の実践及び保育・教育に係る新しい知見から豊かに学び、将来にわたって成長を続けようとする意識の育成に留意する。
- (10) 教員免許・保育士資格のほかに、就職支援としてその他の資格取得のための科目を配置し、取得のために配慮する。また、就職活動のために直接役立つ科目も配置する。

成績評価にあたっては教育の質保証に万全を期している。履修に心配を感じる学生には教員の空き時間に個別の指導を行うように努め、定期試験で 60 点に達しなかった学生に対しては、再試験の機会を与え周到な準備のうえで再チャレンジするように指導したりして、厳格な単位認定に努めている。各科目の成績評価の分布状況を見ると、おおむね適正に評価がなされていると思われる。極端に「秀」の多い科目があるので、成績評価が甘くなっていないか問題を投げかけている。以下に、平成 23 年度成績評価割合表（1 年次）の全科目の授業について、受講者数、単位取得率及び成績評価毎の取得率を掲載する。

平成 23 年度成績評価割合表（1 年次）

授 業 名	受講者数	単位取得(%)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不合格(%)
キャリアデザインⅠ(α)	50	90	40	24	22	4	10
キャリアデザインⅠ(β)	50	82	24	32	16	10	18
キャリアデザインⅡ(α)	48	91.7	47.9	18.8	16.7	8.3	8.3
キャリアデザインⅡ(β)	49	91.8	46.9	14.3	12.2	18.4	8.2
経営学Ⅰ(α)	50	80	0	6	36	38	20
経営学Ⅰ(β)	50	78	0	2	26	50	22
はじめての経済学(α)	50	90	22	22	24	22	10
はじめての経済学(β)	50	84	28	32	16	8	16
基礎簿記Ⅰ(ア)	32	84.4	3.1	21.9	21.9	37.5	15.6
基礎簿記Ⅰ(イ)	33	90.9	12.1	9.1	27.3	42.4	9.1
基礎簿記Ⅰ(ウ)	34	76.4	29.4	29.4	14.7	2.9	23.6
基礎簿記Ⅰ(再)	9	66.6	0	0	44.4	22.2	33.4
日本語表現Ⅰ(α)	36	91.7	0	30.6	27.8	33.3	8.3
日本語表現Ⅰ(β)	34	91.1	0	29.4	44.1	17.6	8.9
日本語表現Ⅰ(エ)	30	86.7	30	26.7	20	10	13.3

授 業 名	受講者数	単位取得(%)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不合格(%)
日本語表現Ⅱ(α)	35	88.6	0	28.6	31.4	28.6	11.4
日本語表現Ⅱ(β)	34	76.5	0	23.5	32.4	20.6	23.5
日本語表現Ⅱ(E)	28	96.4	17.9	50	21.4	7.1	3.6
総合ビジネス教養(α)	33	93.9	9.1	33.3	51.5	0	6.1
総合ビジネス教養(β)	41	90.3	4.9	48.8	22	14.6	9.7
総合ビジネス教養(E)	22	95.5	18.2	68.2	9.1	0	4.5
PCリテラシー(ア)	26	88.4	57.7	11.5	7.7	11.5	11.6
PCリテラシー(イ)	28	96.4	64.3	21.4	7.1	3.6	3.6
PCリテラシー(ウ)	28	82	57.1	10.7	7.1	7.1	18
PCプラクティス	14	71.4	14.3	35.7	14.3	7.1	28.6
基礎簿記Ⅱ(α)	15	100	13.3	6.7	20	60	0
基礎簿記Ⅱ(β)	36	86	19.4	19.4	8.3	38.9	14
インターンシップ	41	90.2	14.6	75.6	0	0	9.8
現代社会と産業A	38	84.2	15.8	34.2	34.2	0	15.8
福祉と生活	6	100	16.7	33.3	33.3	16.7	0
房総の地域史Ⅰ	26	76.9	26.9	42.3	0	7.7	23.1
房総の地域史Ⅱ	13	69.3	30.8	30.8	7.7	0	30.7
旅の歴史と地理Ⅰ	19	68.5	0	21.1	47.4	0	31.5
旅の歴史と地理Ⅱ	15	80	0	26.7	53.3	0	20
文学と親しむA	19	73.7	5.3	21.1	36.8	10.5	26.3
文学と親しむB	10	70	10	30	20	10	30
生活と法A	17	64.7	0	17.6	35.3	11.8	35.3
生活と法B	25	92	0	16	44	32	8
人間と社会A	43	88.4	4.7	16.3	48.8	18.6	11.6
人間と社会B	32	81.4	6.3	12.5	43.8	18.8	18.6
自然史入門A	23	69.5	21.7	17.4	21.7	8.7	30.5
自然史入門B	19	84.3	21.1	15.8	21.1	26.3	15.7
情報とインターネットA	40	90	42.5	17.5	10	20	10
情報とインターネットB	34	88.3	41.2	20.6	11.8	14.7	11.7
統計学Ⅰ	8	87.5	75	0	12.5	0	12.5
統計学Ⅱ	13	84.6	76.9	0	7.7	0	15.4
基礎英語Ⅰ(α)	47	93.6	19.1	23.4	46.8	4.3	6.4
基礎英語Ⅰ(β)	47	85.1	14.9	21.3	46.8	2.1	14.9
基礎英語Ⅰ(E)	5	60	20	20	20	0	40
基礎英語Ⅱ(α)	46	93.4	21.7	30.4	39.1	2.2	6.6
基礎英語Ⅱ(β)	43	79.1	14	20.9	34.9	9.3	20.9
基礎英語Ⅱ(E)	7	100	71.4	28.6	0	0	0
英会話Ⅰ	10	90	70	20	0	0	10
英会話Ⅱ	12	75	16.7	58.3	0	0	25
スポーツ演習(ア)	33	93.9	81.8	6.1	3	3	6.1
スポーツ演習(イ)	33	93.9	57.6	24.2	9.1	3	6.1
スポーツ演習(ウ)	34	88.2	64.7	8.8	11.8	2.9	11.8
健康科学概論	49	85.8	42.9	32.7	6.1	4.1	14.2
スクーバダイビング	35	62.9	42.9	17.1	0	2.9	37.1
乗馬: HORSE RIDING	19	89.5	0	84.2	0	5.3	10.5

授 業 名	受講者数	単位取得(%)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不合格(%)
ミクロ経済学	10	90	0	50	40	0	10
日本経済の歩みA	17	64.7	5.9	17.6	35.3	5.9	35.3
日本経済の歩みB	16	81.3	0	6.3	37.5	37.5	18.7
銀行論	8	87.5	0	37.5	12.5	37.5	12.5
証券市場論	9	66.6	33.3	22.2	11.1	0	33.4
ファイナンシャル・プランナー	18	61.1	0	38.9	11.1	11.1	38.9
証券実務	3	66.6	0	33.3	33.3	0	33.4
DCプランナー	8	62.5	0	12.5	25	25	37.5
経営学Ⅱ	14	85.7	7.1	21.4	42.9	14.3	14.3
ファッションビジネス論Ⅰ	19	68.5	21.1	15.8	31.6	0	31.5
ファッションビジネス論Ⅱ	16	81.3	50	6.3	0	25	18.7
ファッション販売論Ⅰ	22	54.5	22.7	9.1	13.6	9.1	45.5
ファッション販売論Ⅱ	16	68.9	37.5	18.8	6.3	6.3	31.1
ファッション色彩論Ⅰ	16	68.8	37.5	0	12.5	18.8	31.2
ファッション色彩論Ⅱ	14	64.3	14.3	28.6	7.1	14.3	35.7
ビジネス文書Ⅰ(α)	36	97.2	0	22.2	41.7	33.3	2.8
ビジネス文書Ⅰ(β)	35	77.2	0	14.3	42.9	20	22.8
ビジネス文書Ⅱ(α)	15	100	0	66.7	20	13.3	0
ビジネス文書Ⅱ(β)	26	84.6	0	19.2	46.2	19.2	15.4
仕事とジェンダー	11	91	0	36.4	45.5	9.1	9
秘書学Ⅰ(α)	46	91.3	6.5	60.9	23.9	0	8.7
秘書学Ⅰ(β)	9	77.7	22.2	33.3	22.2	0	22.3
秘書学Ⅱ(α)	38	89.5	10.5	47.4	31.6	0	10.5
秘書学Ⅱ(β)	8	87.5	25	62.5	0	0	12.5
上級秘書学Ⅰ	4	100	50	25	25	0	0
上級秘書学Ⅱ	3	66.6	33.3	33.3	0	0	33.4
応用簿記Ⅰ	4	75	0	50	25	0	25
応用簿記Ⅱ	3	100	0	100	0	0	0
原価計算Ⅰ	4	75	0	25	50	0	25
原価計算Ⅱ	3	100	0	33.3	66.7	0	0
簿記演習Ⅰ	39	92.2	69.2	17.9	5.1	0	7.8
簿記演習Ⅱ	37	91.8	32.4	16.2	10.8	32.4	8.2
はじめての会計学A	19	94.8	0	21.1	21.1	52.6	5.2
はじめての会計学B	30	83.3	0	6.7	23.3	53.3	16.7
ネットワーク実習A	12	83.3	75	8.3	0	0	16.7
ネットワーク実習B	17	94.1	88.2	5.9	0	0	5.9
ネットワークテクノロジー	15	86.7	80	0	0	6.7	13.3
通信プロトコル	18	94.5	77.8	11.1	5.6	0	5.5
J a v a 概説Ⅰ	8	87.5	50	25	12.5	0	12.5
J a v a 概説Ⅱ	5	80	20	60	0	0	20
コンピュータ概論A(α)	11	91	27.3	27.3	27.3	9.1	9
コンピュータ概論A(β)	10	60	30	10	0	20	40
コンピュータ概論B(α)	8	100	12.5	0	62.5	25	0
コンピュータ概論B(β)	8	62.5	37.5	25	0	0	37.5
コンピュータ実習Ⅰ(ア)	17	76.4	41.2	17.6	17.6	0	23.6

授 業 名	受講者数	単位取得(%)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不合格(%)
コンピュータ実習Ⅰ(イ)	20	95	25	40	15	15	5
コンピュータ実習Ⅰ(ウ)	34	85.3	44.1	26.5	8.8	5.9	14.7
ビジネスコンピューティングⅠ(ア)	14	92.8	35.7	35.7	21.4	0	7.2
ビジネスコンピューティングⅠ(イ)	24	99.9	45.8	45.8	8.3	0	0.1
ビジネスコンピューティングⅠ(ウ)	10	80	40	40	0	0	20
プログラミング入門Ⅰ	19	89.5	52.6	21.1	10.5	5.3	10.5
プログラミング入門Ⅱ	15	93.4	26.7	26.7	20	20	6.6
基礎ゼミ(ア)	9	88.9	77.8	11.1	0	0	11.1
基礎ゼミ(イ)	9	88.8	44.4	33.3	11.1	0	11.2
基礎ゼミ(ウ)	8	100	75	25	0	0	0
基礎ゼミ(エ)	8	75	37.5	12.5	12.5	12.5	25
基礎ゼミ(オ)	8	100	87.5	12.5	0	0	0
基礎ゼミ(カ)	8	100	0	37.5	50	12.5	0
基礎ゼミ(キ)	9	100	66.7	22.2	11.1	0	0
基礎ゼミ(ク)	9	88.9	55.6	22.2	0	11.1	11.1
基礎ゼミ(ケ)	8	100	50	25	12.5	12.5	0
基礎ゼミ(コ)	8	50	25	25	0	0	50
基礎ゼミ(サ)	8	87.5	50	25	12.5	0	12.5
基礎ゼミ(シ)	8	100	62.5	37.5	0	0	0
基礎ゼミ(再)	3	66.7	0	0	66.7	0	33.3
専門ゼミⅠ(齋藤)	16	100	100	0	0	0	0
専門ゼミⅠ(柳浦)	2	100	0	50	0	50	0
専門ゼミⅠ(市岡)	5	100	0	100	0	0	0
専門ゼミⅠ(杉田)	1	100	0	100	0	0	0
専門ゼミⅠ(中村)	14	99.9	64.3	7.1	21.4	7.1	0.1
専門ゼミⅠ(小澤)	6	83.3	33.3	33.3	16.7	0	16.7
専門ゼミⅠ(澤村)	10	90	20	70	0	0	10
専門ゼミⅠ(赤池)	13	100	53.8	46.2	0	0	0
専門ゼミⅠ(玉置)	7	100	85.7	14.3	0	0	0
専門ゼミⅠ(井芹)	7	100	100	0	0	0	0
専門ゼミⅠ(西川)	9	100	0	66.7	22.2	11.1	0
専門ゼミⅠ(江上)	3	100	0	100	0	0	0
文学Ⅰ	25	100	28	12	44	16	0
文学Ⅱ	29	93.1	0	41.4	48.3	3.4	6.9
歴史への旅Ⅰ	14	78.5	7.1	28.6	35.7	7.1	21.5
歴史への旅Ⅱ	23	100	0	34.8	60.9	4.3	0
法学Ⅰ(日本国憲法)(S)	80	87.5	5	20	35	27.5	12.5
法学Ⅰ(日本国憲法)(H $\alpha$ )	81	96.3	0	19.8	75.3	1.2	3.7
法学Ⅰ(日本国憲法)(H $\beta$ )	83	97.6	0	3.6	88	6	2.4
社会学Ⅰ	16	75.1	6.3	25	37.5	6.3	24.9
社会学Ⅱ	49	83.7	4.1	10.2	38.8	30.6	16.3
心理学Ⅰ	47	89.4	36.2	23.4	4.3	25.5	10.6
心理学Ⅱ( $\alpha$ )	70	78.6	34.3	15.7	14.3	14.3	21.4
心理学Ⅱ( $\beta$ )	23	87	34.8	26.1	17.4	8.7	13
数学Ⅰ	53	94.3	67.9	13.2	1.9	11.3	5.7

授 業 名	受講者数	単位取得(%)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不合格(%)
数学Ⅱ	47	93.7	80.9	12.8	0	0	6.3
生物学Ⅰ	13	77	46.2	0	15.4	15.4	23
生物学Ⅱ	4	100	25	0	50	25	0
教育実習演習(A s)	19	94.8	21.1	42.1	31.6	0	5.2
教育実習演習(B s)	16	100	68.8	12.5	6.2	12.5	0
教育実習演習(C s)	31	87.1	0	25.8	51.6	9.7	12.9
教育実習演習(D s)	32	93.9	25	43.8	18.8	6.3	6.1
保育実習演習(アh)	34	97.1	26.5	58.8	5.9	5.9	2.9
保育実習演習(イh)	33	97	15.2	36.4	12.1	33.3	3
保育実習演習(ウh)	33	96.9	24.2	24.2	27.3	21.2	3.1
保育実習演習(エh)	33	97	6.1	42.4	45.5	3	3
保育実習演習(オh)	33	100	6.1	30.3	60.6	3	0
スポーツ演習(S α)	40	90	0	72.5	15	2.5	10
スポーツ演習(S β)	41	95.1	14.6	58.5	17.1	4.9	4.9
スポーツ演習(HA)	42	88.1	38.1	40.5	9.5	0	11.9
スポーツ演習(HB)	40	95	65	27.5	0	2.5	5
スポーツ演習(HC)	42	95.3	47.6	40.5	4.8	2.4	4.7
スポーツ演習(HD)	40	95	35	55	2.5	2.5	5
健康科学概論(α h)	82	96.3	42.7	24.4	14.6	14.6	3.7
健康科学概論(β h)	83	96.4	19.3	33.7	13.3	30.1	3.6
教育情報処理(S α)	41	92.6	14.6	58.5	17.1	2.4	7.4
教育情報処理(S β)	37	97.3	10.8	73	10.8	2.7	2.7
教育情報処理(HA)	42	95.3	4.8	76.2	14.3	0	4.7
教育情報処理(HB)	38	97.4	34.2	63.2	0	0	2.6
教育情報処理(HC)	42	95.2	2.4	35.7	21.4	35.7	4.8
教育情報処理(HD)	39	99.9	5.1	25.6	41	28.2	0.1
教育・保育等ボランティアⅠ	4	100	100	0	0	0	0
国語学概説(S α)	50	80	18	26	22	14	20
国語学概説(S β)	44	70.5	25	11.4	18.2	15.9	29.5
国語学概説(H a)	56	83.8	19.6	19.6	21.4	23.2	16.2
国語学概説(H b)	51	90.2	7.8	29.4	27.5	25.5	9.8
国語学概説(H c)	53	75.5	18.9	22.6	17	17	24.5
数学概説	88	91.9	72.7	13.6	4.5	1.1	8.1
自然科学概説	34	55.9	23.5	14.7	5.9	11.8	44.1
社会科概説	44	86.3	4.5	15.9	36.4	29.5	13.7
生活概説	56	87.5	0	39.3	35.7	12.5	12.5
基礎音楽Ⅰ(S α)	39	94.8	5.1	20.5	17.9	51.3	5.2
基礎音楽Ⅰ(S β)	41	78.1	12.2	12.2	4.9	48.8	21.9
基礎音楽Ⅰ(Hア)	34	94	0	17.6	38.2	38.2	6
基礎音楽Ⅰ(Hイ)	33	96.9	3	24.2	30.3	39.4	3.1
基礎音楽Ⅰ(Hウ)	33	97	6.1	21.2	12.1	57.6	3
基礎音楽Ⅰ(Hエ)	33	97	9.1	12.1	9.1	66.7	3
基礎音楽Ⅰ(Hオ)	33	100	6.1	12.1	36.4	45.4	0
基礎音楽Ⅱ(α s)	16	81.3	37.5	37.5	6.3	0	18.7
基礎音楽Ⅱ(β s)	13	100	30.8	38.4	30.8	0	0

授 業 名	受講者数	単位取得(%)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不合格(%)
器楽 I	249	71.2	16.1	15.3	14.5	25.3	28.8
声楽 I	25	96	44	20	28	4	4
声楽 II	14	92.8	57.1	28.6	7.1	0	7.2
基礎造形 (S $\alpha$ )	41	82.9	0	41.5	34.1	7.3	17.1
基礎造形 (S $\beta$ )	39	94.9	0	15.4	69.2	10.3	5.1
基礎造形 (S $\beta$ )	39	94.9	0	15.4	69.2	10.3	5.1
基礎造形 (H $\alpha$ )	34	88.2	2.9	14.7	61.8	8.8	11.8
基礎造形 (H $\alpha$ )	34	88.2	2.9	14.7	61.8	8.8	11.8
基礎造形 (H $\epsilon$ )	33	94	3	48.5	36.4	6.1	6
基礎造形 (H $\epsilon$ )	33	94	3	48.5	36.4	6.1	6
基礎造形 (H $\omega$ )	33	96.9	3	12.1	63.6	18.2	3.1
基礎造形 (H $\omega$ )	33	96.9	3	12.1	63.6	18.2	3.1
基礎造形 (H $\pi$ )	33	90.9	3	33.3	45.5	9.1	9.1
基礎造形 (H $\pi$ )	33	90.9	3	33.3	45.5	9.1	9.1
基礎造形 (H $\sigma$ )	33	100	0	9.1	84.8	6.1	0
基礎造形 (H $\sigma$ )	33	100	0	9.1	84.8	6.1	0
家庭科概説	7	85.8	14.3	14.3	42.9	14.3	14.2
教職概説 (A $s$ )	18	94.5	27.8	50	16.7	0	5.5
教職概説 (B $s$ )	18	94.5	55.6	27.8	11.1	0	5.5
教職概説 (C $s$ )	31	87.1	22.6	41.9	22.6	0	12.9
教職概説 (D $s$ )	29	99.9	10.3	34.5	24.1	31	0.1
教育原理 I (S)	100	91	15	21	24	31	9
教育原理 I (H $\alpha$ )	83	92.8	10.8	24.1	39.8	18.1	7.2
教育原理 I (H $\beta$ )	83	95.2	12	21.7	39.8	21.7	4.8
教育原理 II (S)	98	92.8	7.1	26.5	40.8	18.4	7.2
教育原理 II (H $\alpha$ )	82	92.7	9.8	18.3	52.4	12.2	7.3
教育原理 II (H $\beta$ )	83	95.2	6	14.5	51.8	22.9	4.8
教育・保育法規	45	95.6	33.3	35.6	20	6.7	4.4
教育心理学 (S $\alpha$ )	51	90.2	29.4	11.8	15.7	33.3	9.8
教育心理学 (S $\beta$ )	49	87.8	32.7	4.1	12.2	38.8	12.2
保育の心理学 (H $\alpha$ )	83	92.8	48.2	16.9	20.5	7.2	7.2
保育の心理学 (H $\beta$ )	83	95.1	34.9	26.5	22.9	10.8	4.9
社会科指導法 ( $\alpha s$ )	26	84.7	46.2	15.4	7.7	15.4	15.3
社会科指導法 ( $\beta s$ )	42	88.1	42.9	14.3	7.1	23.8	11.9
生活科指導法 ( $\alpha s$ )	28	85.8	28.6	17.9	35.7	3.6	14.2
生活科指導法 ( $\beta s$ )	33	94	39.4	15.2	36.4	3	6
特別活動 ( $\alpha s$ )	34	91.2	32.4	26.5	14.7	17.6	8.8
特別活動 ( $\beta s$ )	36	91.7	25	13.9	16.7	36.1	8.3
健康指導法 (S $\alpha$ )	41	92.7	48.8	34.1	9.8	0	7.3
健康指導法 (S $\beta$ )	41	97.6	7.3	17.1	31.7	41.5	2.4
健康指導法 (HA)	42	88.1	71.4	14.3	2.4	0	11.9
健康指導法 (HB)	40	97.5	5	30	50	12.5	2.5
健康指導法 (HC)	42	95.3	50	28.6	16.7	0	4.7
健康指導法 (HD)	41	95.2	7.3	12.2	53.7	22	4.8
環境指導法 I (S $\alpha$ )	41	92.7	14.6	17.1	29.3	31.7	7.3

授 業 名	受講者数	単位取得(%)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不合格(%)
環境指導法Ⅰ(Sβ)	41	90.3	9.8	7.3	36.6	36.6	9.7
環境指導法Ⅰ(HA)	42	95.2	9.5	31	35.7	19	4.8
環境指導法Ⅰ(HB)	41	97.6	24.4	24.4	36.6	12.2	2.4
環境指導法Ⅰ(HC)	42	92.9	4.8	11.9	45.2	31	7.1
環境指導法Ⅰ(HD)	41	100	22	14.6	36.6	26.8	0
言葉指導法Ⅰ(Sα)	41	95.2	9.8	12.2	65.9	7.3	4.8
言葉指導法Ⅰ(Sβ)	43	86	7	20.9	58.1	0	14
言葉指導法Ⅰ(HA)	42	90.5	11.9	23.8	54.8	0	9.5
言葉指導法Ⅰ(HB)	41	97.6	17.1	24.4	53.7	2.4	2.4
言葉指導法Ⅰ(HC)	42	95.3	2.4	28.6	61.9	2.4	4.7
言葉指導法Ⅰ(HD)	41	100	22	31.7	46.3	0	0
言葉指導法Ⅱ	20	65	30	25	10	0	35
音楽表現指導法Ⅰ(Sα)	41	97.6	22	68.3	4.9	2.4	2.4
音楽表現指導法Ⅰ(Sβ)	42	100	11.9	69	14.3	4.8	0
音楽表現指導法Ⅰ(HA)	42	90.5	11.9	50	26.2	2.4	9.5
音楽表現指導法Ⅰ(HB)	40	97.5	17.5	80	0	0	2.5
音楽表現指導法Ⅰ(HC)	42	95.2	11.9	73.8	9.5	0	4.8
音楽表現指導法Ⅰ(HD)	41	97.5	9.8	34.1	46.3	7.3	2.5
歌唱伴奏法(αs)	19	89.5	15.8	47.4	26.3	0	10.5
歌唱伴奏法(βs)	20	85	15	20	50	0	15
理科総合演習	3	66.7	66.7	0	0	0	33.3
社会福祉(αh)	83	95.2	22.9	19.3	42.2	10.8	4.8
社会福祉(βh)	83	94.1	16.9	16.9	43.4	16.9	5.9
こども家庭福祉(αh)	83	96.5	18.1	42.2	21.7	14.5	3.5
こども家庭福祉(βh)	83	97.6	21.7	22.9	31.3	21.7	2.4
保育者論(αh)	83	95.2	13.3	28.9	37.3	15.7	4.8
保育者論(βh)	83	93.9	8.4	33.7	36.1	15.7	6.1
こどもの保健Ⅰ(Ah)	42	85.7	73.8	7.1	4.8	0	14.3
こどもの保健Ⅰ(Bh)	41	95.2	41.5	22	19.5	12.2	4.8
こどもの保健Ⅰ(Ch)	42	92.8	76.2	9.5	7.1	0	7.2
こどもの保健Ⅰ(Dh)	41	97.5	26.8	22	34.1	14.6	2.5
こどもの食と栄養(Ah)	42	88.1	4.8	21.4	11.9	50	11.9
こどもの食と栄養(Bh)	41	95.1	12.2	24.4	14.6	43.9	4.9
こどもの食と栄養(Ch)	42	95.2	2.4	11.9	23.8	57.1	4.8
こどもの食と栄養(Dh)	41	95.1	4.9	17.1	26.8	46.3	4.9
保育内容総論(S)	81	92.6	21	39.5	25.9	6.2	7.4
保育内容総論(HA)	42	88.1	16.7	47.6	21.4	2.4	11.9
保育内容総論(HB)	40	97.5	15	60	20	2.5	2.5
保育内容総論(HC)	42	95.2	7.1	50	33.3	4.8	4.8
保育内容総論(HD)	41	95.1	7.3	63.4	14.6	9.8	4.9
乳児保育(Ah)	42	88.2	4.8	14.3	28.6	40.5	11.8
乳児保育(Bh)	41	92.6	2.4	24.4	31.7	34.1	7.4
乳児保育(Ch)	42	95.3	14.3	40.5	28.6	11.9	4.7
乳児保育(Dh)	41	95.1	19.5	43.9	19.5	12.2	4.9
社会的養護内容(Ah)	42	78.6	0	16.7	45.2	16.7	21.4

授 業 名	受講者数	単位取得(%)	秀(%)	優(%)	良(%)	可(%)	不合格(%)
社会的養護内容 (B h)	39	87.2	2.6	20.5	35.9	28.2	12.8
社会的養護内容 (C h)	42	92.8	0	19	57.1	16.7	7.2
社会的養護内容 (D h)	41	92.6	0	14.6	51.2	26.8	7.4
保育実習指導 I (A h)	42	88.1	2.4	45.2	38.1	2.4	11.9
保育実習指導 I (B h)	39	97.4	12.8	51.3	33.3	0	2.6
保育実習指導 I (C h)	42	92.9	2.4	33.3	54.8	2.4	7.1
保育実習指導 I (D h)	41	95	2.4	34.1	58.5	0	5
施設実習指導	164	93.2	2.4	56.1	31.7	3	6.8
図書館概論	50	88	16	46	20	6	12
図書館資料論	44	90.9	18.2	25	13.6	34.1	9.1
資料組織概説	50	90	14	16	24	36	10
資料組織演習 I	44	93.3	11.4	36.4	25	20.5	6.7
資料組織演習 II	44	88.6	20.5	22.7	15.9	29.5	11.4
図書館概論	10	90	20	40	0	30	10
図書館資料論	8	100	37.5	50	12.5	0	0
資料組織概説	10	80	40	0	10	30	20
資料組織演習 I	8	100	62.5	25	0	12.5	0
資料組織演習 II	8	87.5	62.5	12.5	12.5	0	12.5

シラバスの記述に際しては、学生の視点に立って分かりやすく表記するように努め、「1. 授業の概要・到達目標、2. 授業の内容・計画、3. 履修条件、4. 履修にあたっての準備（予習・基準）、5. 評価の方法・基準、6. 教科書、7. 参考書」の7項目について明記して、履修にあたって展望がもてるように配慮している。

ビジネスライフ学科はフィールド制を採用し、学生がそれぞれメインフィールドを決め、自らのキャリアデザインに応じた専門教育科目を選択履修することになっている。現在の専任教員数は12名で設置基準の定める教員数を大きく上回っている。専任教員は、資格・業績を基にして、各フィールドに必ず一人は配置している。

こども学科はこどもに関する幅広い知識や教養を身に付け、実践者としての基本的な技術と現場で出会う困難な状況に的確に対応できる教員と保育士の養成を目途とし、小学校教諭・幼稚園教諭・保育士のそれぞれの養成に実績のある専任教員17名を配置している。実践的な力を学生に身に付けさせるため、実習・実技科目にはそれぞれ現場体験をもった教員を含めるように留意し、設置基準の定める教員数を上回っている。

教育課程については、両学科とも、社会のニーズに適切に対応できるように適宜見直しを行っている。見直しは、教務部会で全体の整合性に鑑みて検討を行い、その後、学科会議・教授会で審議したうえで行われる。平成23年度は、司書課程について関係法令が改正されたことに伴い大幅な見直しを行った。

#### (b) 課題について

学生の学力低下に適切に対応して社会人基礎力を確実に身につけさせ、教育の質保証に努めること。

**基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している**

**(a)現状について**

本学は「入学者受け入れの方針」を「ホームページ」や「大学案内」、『学生便覧』に以下のように明確に示すとともに、この方針に合致した入学者選抜の方法を採用している。

**【ビジネスライフ学科】** (提出資料(1)『学生便覧』3頁、(2)「大学案内」9頁)

**目指す教育**

ビジネスライフ学科は、校是である「良識と創意」にもとづき、社会人としての健全な判断のできる良識と社会の変化に対応できる創意を兼ね備えた、人間性豊かな学生の育成を目指します。

そのために学生が自由に選択できるフィールド制を採用し、キャリアデザインの科目を核とした学習支援に努めます。自分の夢の実現に向かって着実に学習し、知識・技能を修得した学生は、社会常識を豊かに備えて新しい状況に的確に対応できる社会人に成長していきます。

**求める学生像**

1. 職業人として社会に貢献するために、豊かな教養を身につけるとともに創意の心を養おうとする学生
2. 自分の描く将来の夢を実現するために必要な社会性を、積極的に身につけようとする学生
3. キャリア意識を的確にもち、ビジネス界が求める基本的な知識や技能を身につけるためにひたむきに努力する学生

**【こども学科】** (提出資料(1)『学生便覧』3頁、(2)「大学案内」19頁)

**目指す教育**

こども学科は、深い人間理解を基盤とした幅広い教養と、優れた実践力を兼ね備えた教師と保育士の育成を目指します。

そのために教育や保育、福祉の原理について深く学ぶ講義科目とともに、実践的・体験的に学ぶ学習科目も多く開設して、こどもについて基本から豊かに学ぶことができるように努めます。学生は卒業後、即戦力となって職務に就きますが、ものごとを自分の目で見、自分の頭で考えて、幼いこどもと温かく対応できる教育者・保育者として成長していきます。

**求める学生像**

1. こどもと一緒に過ごすことを生きがいと感じ、明るくこどもと接する教育者や保育者を目指す学生
2. 教師や保育士が備えなければならない資質を幅広く身につけるために、ひたむきに学ぶ学生
3. 目先の楽しさだけを求めるのではなく、困難なことにも挑戦して、将来の遠い目標に向かって地道に進もうと努める学生

「入学前の学習成果の把握・評価」の具体的な基準は、「高等学校において望まれる学

習」として、大学案内、ホームページで下記のように示している。

### 【ビジネスライフ学科】

(「大学案内」9頁)

1. ビジネスライフ学科において、職業人としてふさわしい教養と実践力を身につけるためには、高等学校で考える力を養うこと、その基盤として文章理解や文章表現などの「国語力」をつけておくことが何よりも必要です。
2. 職業人として幅広く社会に適応してゆくためには、「政治経済」、「現代社会」などの科目で社会やビジネスに目を開き、広い関心を持つように心がけてください。
3. ビジネス界が求める知識や技能を身につけるためには、「数学」、「外国語」、「情報」についての基礎的な素養も必要です。また、本学科での学習を一層充実したものとするために、秘書技能検定・簿記検定・実用英語検定・各種 PC 検定等の資格取得を勧めます。

なお、商業科、ビジネス科等の生徒は、専門教科の授業で習得した専門性を入学後に活かして下さい。

### 【こども学科】

(『大学案内』19頁)

1. こども学科において、教師・保育者にふさわしい幅広い教養と優れた実践力を身につけるには、各教科内容の基本的な部分を総合的に修得していることが、基盤として必要です。それぞれの高校のカリキュラムでしっかりと学び、入学後に教師・保育者としての力を養っていきましょう。
2. 主要5教科について特に学習してください。その中でも、全ての学力の基盤として国語力(文章理解力・文章表現力・語彙力)は重要です。また、芸術科目や体育の中で表現力を養うことにも努めてください。

入学試験は、以下のように多様な形態で行い、学生募集に努めている。

#### <AO入試>

出願時に提出される調査書とエントリーシート並びに面接に基づいて選考している。調査書によって「入学前の学習成果」の把握と評価を行い、エントリーシートでは志望動機などの記述とともに、「入学者受け入れの方針」を踏まえた400字程度の記述課題を行わせ、その理解度を把握・評価している。面接ではこれらの評価を踏まえて志願者と30分程度の対話を行い、本学の「求める学生像」にふさわしい人物であるかどうかを総合的に把握・評価して入学者を選抜している。

#### <推薦入試>

出願時に提出される推薦書・調査書と作文、面接に基づいて実施される。推薦書に基づいて本学の「求める学生像」に合致した人物であるか把握・評価するとともに、調査書によって「入学前の学習成果」の把握と評価を行う。面接試験においてはこれらの評価を踏まえて、志願者との対話をとおして「求める学生像」にふさわしい人物であるかを総合的に把握・評価し、入学者を選抜している。

#### <一般試験入試>

出願時に提出される調査書と科目試験、作文、面接に基づいて実施される。この入試で

は特に科目試験と作文によって「入学前の学習成果」を把握・評価するとともに、面接で「求める学生像」についての理解度を確かめて、ふさわしい人物であるかどうか総合的に把握・評価して選抜している。

#### (b) 課題について

高校生に対して「入学者受け入れの方針」の周知を図るために、出張授業や高校生を対象とした講習会・講演などをさらに充実させて、高大連携を図ること。

### 基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である

#### (a) 現状について

ビジネスライフ学科は同科の教育課程について、「世界や日本の経済の動向・会社のしくみ・簿記の原理・コンピュータなど、ビジネスに必要な基礎知識や幅広い教養を身につけさせ、地域のビジネス産業界の要請に応え、さらには自らの生涯設計に役立つ教育内容を用意しています」と『学生便覧』で述べ、各科目の履修で得られる学習成果についてはシラバスで具体的に明示するように努めている。

こども学科は同科の教育課程について、「こどもについての総合的な学習を基盤とし、人間性が豊かで実践力のある教員養成・保育士の育成を目指しています」と『学生便覧』で述べ、各科目の履修で得られる学習成果についてはシラバスで分かりやすく明示するように努めている。

両学科とも、当該科目の掲げる学習成果については他科目とどのように関連して獲得することになるか、理解ができるような記述に努めている。学習成果は「教育課程編成・実施の方針」に基づいて開設されている科目群の授業によって修得されていく。シラバスに明示した到達目標は、すべての学生が達成できるように学生の実態に合わせた指導に努めている。その結果、出席のままならぬ学生や努力が著しく欠ける学生を除いては、ほとんどが単位認定されている。

単位認定に至らなかった学生には、2年次の再履修や、再試験・レポート提出などにより学習成果を達成させ、単位認定を行っている。またピアノなどの実技科目で授業時間内の学習成果の達成が難しいと思われる学生には、教員が空き時間に可能な限り指導を行い、補習に努めている。

ビジネスライフ学科を卒業して就職した者は、在学中に履修した知識や技術を活かして職務に当たっている。例えば「情報リテラシーの授業で学んだパソコンの操作が役立っている。」「秘書学の授業で学んだビジネスマナーが役立っている。」といった卒業生アンケートに見られるように、在学中に学んだことを活かしながら実務にあたっているようである。「就職に向けた個人指導を強化し、学生時代から、社会人になるための心構え等を教育すべきである。」というような要望も挙げられている。

こども学科を卒業して幼稚園や保育所に勤めることになった者も、例えば「ピアノ・絵本の読み方・子どもとの接し方など、現場で役立っている。」といった卒業生アンケートに見られるように、在学中の学びが活かされていることに自信をもっているようである。取り上げたい内容は多々あるが、2年間という期間では限界があるので、基本的な内容に

留めざるをえない。しかし、卒業生や就職先からの要望を受けとめて、実際的に価値のある教育課程の編成に努めていきたいと考えている。

シラバスでは「評価の方法・基準」という欄を設け、到達目標に達したかどうかの測定の方法について明示している。どの科目でも授業に積極的に取り組んでいることを何よりも重視するが、授業の感想文を書き記させたり、レポートの提出を求めたり、プレゼンテーションの機会を組み込んだりして学習成果を客観的に確認するように努めている。小テストを随時行って理解度を測定する科目もあるが、多くの科目は 15 回にわたる授業を終えたところで期末にテストを実施し、総括的に学習成果を測定している。

(b) 課題について

学習成果の測定にあたっては、学生の努力が実るようにその方法を検討するとともに、授業が学生の視点に立って展開されるように努めること。

基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている

(a) 現状について

【ビジネスライフ学科】

求人依頼や表敬訪問の際に、採用担当者などから卒業生の評価を毎年聴取している。平成 22 年 10 月には、企業 56 社・58 名の総務・人事等の担当者と求人方法や採用方法、卒業生の仕事への取り組み方などについて情報交換する機会を設定した。翌 23 年 1 月には、卒業生の就職企業 44 社に下記の「卒業生に関するアンケート」を送付し、本学の教育やキャリア教育について、また在学中に修得した知識や実践力の成果が企業の業務などに活かされているかどうか等についての調査をした。

<卒業生に関するアンケート>

<p>I 本学の教育について</p> <p>本学では下記のような科目を設け、教育に取り組んでいます。下記の各項目に対する卒業生の状況に○印をしてください。</p> <p>注) 卒業生によっては、履修をしていない科目もあります。</p>	
<p>I-1 教養と社会常識 基礎学力・キャリアデザイン・現代社会と産業・歴史と文学・ワード・エクセル など</p>	<p>良い(39.5%) 普通(58.1%) 劣る(2.3%)</p>
<p>I-2 経済動向と企業行動 経済学・ファイナンス(銀行論・FP) など</p>	<p>良い(7.7%) 普通(82.1%) 劣る(10.3%)</p>
<p>I-3 企業の経営成果の認識 会計学・簿記 など</p>	<p>良い(20.0%) 普通(77.5%) 劣る(2.5%)</p>
<p>I-4 ビジネスマネジメント 経営学・ファッションビジネス・秘書学 など</p>	<p>良い(17.5%) 普通(77.5%) 劣る(5.0%)</p>
<p>I-5 インターネット ネットワーク・JAVA プログラミング など</p>	<p>良い(10.8%) 普通(78.4%) 劣る(10.8%)</p>

I-6 コンピュータスキル コンピュータ概論・プログラミング など	良い(10.3%) 普通(79.5%) 劣る(10.3%)
II 資格取得について 本学では、下記の資格の取得を奨励しています。卒業生が取得した資格の成果についてお答えください。	
II-1 卒業生が取得した資格は、仕事に役立っていると思われませんか。該当するものに○印をしてください。 良く役立っている(0.0%) 役立っている(41.5%) 普通(46.3%) 役立っていない(7.3%) ほとんど役立っていない(4.9%)	
II-2 役立っている資格は何ですか。該当するものに○印をしてください。 該当数の多かった上位10項目	
1. 秘書技能検定 (36.4%)	6. 日本漢字能力検定 (3.6%)
2. 日商簿記検定 (20.0%)	7. ファッションビジネス能力検定 (1.8%)
3. 日商PC検定(文書作成) (16.4%)	8. ファッション色彩能力検定 (1.8%)
4. 日商PC検定(データ活用) (9.1%)	9. 華道 (1.8%)
5. ファイナンシャル・プランニング技能士 (7.3%)	10. ビジネス文書検定 (1.8%)

III キャリア教育について 本学では、学校生活をとおしてキャリア教育に力を入れています。卒業生のキャリア志向や仕事力についてお答えください。	
III-1 卒業生は、キャリア志向や仕事力が身に付いていると思われませんか。該当するものに○印をしてください。 良く身に付いている(11.4%) 身に付いている(40.9%) 普通(38.6%) 身に付いていない(6.8%) ほとんど身に付いていない(2.3%)	
III-2 身につけていると思われることは何ですか。該当するものに○印をしてください。 該当数の多かった上位10項目	
1. 明るさ・元気さ (17.0%)	6. お客様とのコミュニケーション (9.2%)
2. 社会常識(挨拶・礼儀) (14.4%)	7. 周囲への気配り (8.5%)
3. 社員同士のコミュニケーション (12.4%)	8. 仕事観 (7.8%)
4. 素直さ (12.4%)	9. 正確さ (3.9%)
5. 組織への適応力 (10.5%)	10. 目的意識 (3.9%)

この結果を見ると、卒業生の「教養と社会常識」については「良い」と考える企業が40%近くあり、「企業の経営成果の認識」についても「良い」が約20%となっている。しかし、「経済動向と企業行動」や「インターネット、プログラミングスキル」については「普通」と考える企業が約80%前後となっている。

このような卒業生の評価は、他の短期大学の卒業者に対しても同様かもしれないが、本学科としては社会人基礎力の養成に何よりもまず力を入れ、そのうえでビジネスに関する専門性を培う努力を重ねたい。コンピュータ力の養成については力点を置いているつもりであるが、評価は「普通」に留まっているので教育内容について検討したい。

卒業生の取得している資格について、就職後の仕事に役立っているかどうか聞いてみる

と、42%弱が「役立っている」と回答している。なかでも秘書技能資格、日商簿記資格、日商 PC 資格（文書作成）を取得した卒業生の評価が高い。「卒業生のキャリア志向や仕事力」については、「普通以上に身につけている」と回答する企業が約 52%に達している。具体的に挙げられているのは、明るさ・元気さ、社会常識（挨拶・礼儀）、素直さ、社員同士のコミュニケーションについてであって、これらは社会人基礎力の評価と重なっている。仕事観や仕事の正確さ、目的意識についての評価は高くない。インターンシップなどをおして、企業の期待するキャリア志向や仕事力の養成に努めることが課題となる。

アンケート調査では自由記述で本学に期待することも挙げてもらった。主な指摘は以下のとおりである。

- ・資格は多いことに越したことはありませんが、その資格を職場でどう活かすかの方に問題があるように感じられる。
- ・特に資格は必要ないが、商品に対する膨大な知識が必要である。
- ・積極的にインターンシップやアルバイトでの就業体験を勧めることで、企業が求める人材を育成できると考える。
- ・産学共同で企業と学生が触れ合う機会をより多く持って頂きたい。
- ・厳しい仕事にもめげず、真面目な姿勢で取り組める学生を育成してほしい。
- ・学生らしさ（素直さ・明るさ・元気さ）を失わず、基礎能力（読み・書き・計算）、一般常識（挨拶・礼儀）のある方を育成してほしい。

これらの指摘を受けとめて、キャリア意識を高める努力を学科として行っていきたい。四年制大学と同じことをしようとしても無理が生じるし、専門学校と同じように資格取得のみに力を注ぐことであっては意味が無い。他の高等教育機関ではできない短期大学ならではの教育に力を注いで卒業生を輩出していくことが、ビジネスライフ学科の課題である。

### 【こども学科】

卒業生の就職した幼稚園 50 園、保育所 20 園、施設 5 園ほどに、毎年 5～7 月の期間にキャリアセンター職員が訪問し、その働きぶりについて園長や指導的な立場の教員から聴取している。その際、本人との面談が可能であれば、体調や勤務の状況について直接話を聞き、悩みを抱えている場合には相談に乗っている。

訪問して聴取した卒業生の評価のなかから、8 例を以下に紹介する。なお、幼稚園・保育所名と卒業生名はイニシャルで示している。

#### ○A 幼稚園

Mは 14 年度卒業のKの指導を受け、明るく素直で、気遣いがあり他の職員と仲が良く、あとはピアノを頑張りたい。20 年度卒業のEは責任感が出てきた。19 年度卒業のYは保護者に評判が良く、職員の中心になるような存在である。

#### ○B 幼稚園

Mにはクラスに問題児がいて苦労があるが、気にせず授業を進めるように指導。また

隣のクラスに 17 年度卒業の Y を配して補助するように考慮。本人には先生としての資質があり期待している。R はピアノが不得意なので、行事ではその担当に決めて練習するように仕向けている。自分で考え実行するタイプで今後の努力に期待。

Y はピアノが上手になり言葉かけが優しく、職員にも人気があり中堅職員として頑張っている。

#### ○C 幼稚園

A はマイペースだが質問にはきちんと答えられ指導しやすい、大器晩成型である。21 年度卒業の S は 1 年間副担をやり通したことを自分なりに出しているの、素晴らしい先生になることを期待している。S は素直で先輩の意見を良く聞き頑張っている。

#### ○D 幼稚園

S は気づかいがあり、7 時には出勤して他のクラスの整理整頓までしている。ピアノは弾けるし期待している。21 年度卒業の M、17 年度卒業の M はリーダーとして動き、保護者の評判が良く園児に優しい。

#### ○A 保育所

Y は真面目で園児とのかかわりがよい。21 年度卒業の K は真面目で回転が速く、そつなく行動する。20 年度卒業の A は一時保育担当で毎日園児が変わるが、その予約などもきちんと処理出来ている。

#### ○B 保育所

男性の M は気さくで率先して行動し、職員の人気もある。本人は周りに迷惑を掛けないように頑張っている。17 年度卒業の R は 4 年目で落ち着きと優しさが備わり、良い保育士に育って来た。本人は自信が感じられ楽しく勤務している。

#### ○C 保育所

K は朝 7 時に来て庭の掃き掃除から始める。テキパキと行動して先輩と仲が良く、素直に指導を受け理解していると評判が良い。

#### ○D 保育所

M は明るく笑顔があり、ソフトで保育士に向いている。M は礼儀正しく言葉遣いが良い。二人とも職員との仲も良く素直に相談を受けている。

以上はほんの一部の紹介に過ぎないが、多くの幼稚園・保育所には卒業生が複数いて、互いに励まし合ったり教え合ったりして教育・保育に取り組んでいるようである。また園長などはそれぞれの職員の状況をつぶさに掌握し、保護者の期待に応えようと現職教育に努めている。中途退職者が出て迷惑をかけているところもあるので、就職先とは絶えず連絡を取り合って速やかな対応を取って行きたい。

就職先から聴取した情報は個人ごとに記録し、就職部会の資料として教員に配布して学習成果の点検を行い、卒業生支援に活用しているが、全教員に配付して授業に活かせるよう努めたい。

#### (b) 課題について

卒業後評価を活用してキャリア教育の充実に努めるとともに、早期に退職して就職先に迷惑をかける卒業生がいるので、学生の就職指導は用意周到に行うこと。

## 基準Ⅱ-B 学生支援

### (a) テーマ全体の要約

教員はシラバスに成績評価の基準を明記し、「学位授与の方針」に基づいて学習成果の評価に努めている。FD 会議では学習状況の芳しくない学生の情報交換を行い、休退学に進むことのないように対応している。授業評価は定期的実施し、その結果を授業改善に活かすように努め、「満足度調査」で定点観測をして学生の満足度を高めるための努力を重ね、また卒業生の意識調査も適宜行って教育の状況を点検している。教員相互に教育力を磨くために、授業事例研究会と相互授業参観を定例化して開催している。

新年度の当初には、教務部教員と学務課職員の連携により、印刷物を利用して、学習成果の獲得のための周到なガイダンスを実施している。また基礎学力の不足する学生あるいは進度の早い学生に対しては、教員が空き時間を利用してそれぞれ個別に学生の能力に対応した指導に努めている。また、全教職員は、保健室、カウンセリングセンターと連携して、個々の学生の悩みに対応する体制を整えている。

学生の生活支援は学生部の教員と学務課職員がその任にあたり、クラブ活動や学園行事、学生会活動などに学生が主体的に取り組むように側面から支援している。学生食堂や学生ホールは清潔に利用され、ゴミの分別収集も工夫して行っている。保健室とカウンセリングセンターは学生のメンタルヘルスケアに心を砕き、家計の厳しい学生の経済的な支援としては日本学生支援機構の奨学金制度を活用するとともに学園奨学金制度を設け、平成24年度から授業料減免制度も実施している。

就職支援については就職部会での就職状況の分析や検討をふまえて、一般企業や公務員の就職は大学と統合されたキャリアセンター（本室）で、幼稚園・保育所・小学校などの就職はキャリアセンター分室で綿密な年間計画に則って入学前教育の折から適宜行うとともに、就職後の卒業生の状況を企業から聴取するなど、就職先と連携する体制を築いている。資格取得や就職試験の対策としては、授業科目や特別講座の開設、インターンシップや教育・保育実習の活用、資格取得奨励金制度の設置などを行っている。就職状況については全教員が関心をもって、学生の夢の実現に力を注いでいる。

学生募集は、「入学者受入れ方針」に従い、入試広報委員会での検討を踏まえて入試広報センターが所轄し、オープンキャンパスの実施から多様な形態による入試に至るまで計画的に執り行い、全教職員が関わって定員の確保に努めている。学業特待生制度を設けて向学心のある学生の入学による授業の活性化を図るとともに、入学前教育についても高校生活から大学生活への円滑な移行に心を配って実施している。

### (b) 改善計画について

- ① 学生の授業評価に耳を傾けるとともに、授業事例研究会と相互授業参観を活かして授業改善に臨むこと。
- ② 学力の不足する学生にはその不足を補う対応を適切に行うとともに、向学心にあふれる学生を伸ばすために教育力の充実を図ること。
- ③ 定期的実施する「満足度調査」では、特に「本学に入学したこと・授業・先生との出会い・2年間の自分の成長」に対する満足度が高まるように、学習者の視点に立った教育に努めること。

- ④ 快適なキャンパスライフが送れるように学習環境の整備に努めるとともに、経済的支援やメンタルヘルスケアにも適切に対応すること。
- ⑤ 入学する学生が短大生活にスムーズに移行できるように、入学前教育の充実を図り、入学後もきめ細かな指導を行うこと。

## 基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している

### (a) 現状について

教員はシラバスに明示した成績評価基準の観点で、「学位授与の方針」を踏まえた学習成果の評価に努めている。平成 23 年度から学科会議の後に FD 会議をもち、学習状況の芳しくない学生についての情報を共有することになっている。ある授業科目で「芳しくない」と報告された学生であっても、意欲的に取り組んでいる科目がある。そのような場合は、同科目の担当者が適切に助言することによって全科目にわたって等しく勉学に励むように働きかけている。なお、同会議では非常勤講師からも情報を得て、学生の実態を多面的に捉えて、安易に休学や退学に入らないように対策を考えている。

FD 推進委員会が所轄して教育力を高めて学習成果を上げるために取り組んでいる試みには、以下の 4 つがある。

#### ① 授業評価アンケート調査

年 2 回もしくは 1 回、授業評価アンケート調査を行い、学生の視点で授業を見直して授業方法の工夫・改善に努めている。平成 23 年度末には、専任教員、非常勤講師が担当する 173 科目について 11 の観点で調査を行った。

#### ② 大学生活全般についての「満足度調査」

各学期末に満足度調査を実施して学生の満足度に耳を傾け、その結果の分析については委員長である学長が教授会で明らかにして、学生の満足度を上げる努力を全教員に求めている。

#### ③ 授業事例研究会

教授会終了後に年 4 回ほど「授業事例研究会」を実施し、学科や担当科目の枠を越えて授業の事例を報告し意見交換を行って、授業改善の示唆を得る機会である。

#### ④ 相互授業参観

毎年度後期のある時期に、2 週間程度の期間を設定して相互授業参観を実施し、非常勤講師の担当する授業も含め、学科や科目系列を問わず授業を参観して教育方法の工夫点などを参考にする機会である。

以下に、それぞれの取り組みの状況を述べる。

#### ① 授業評価アンケート調査

アンケートの項目は下記の 11 項目で、平成 15 年度から実施している。

- (1) この授業に遅刻や欠席をしないで、きちんと出席しましたか。
- (2) 予習や復習など、関連する勉強をしましたか。
- (3) この授業の内容に、興味や関心を持ちましたか。
- (4) 授業の内容と説明は、分かり易かったですか。
- (5) この授業は、講義要項の記載に沿って行われましたか。

- (6) この授業を履修した理由は何ですか。  
 (7) 授業は定刻に始まり、定刻に終了しましたか。  
 (8) 教員の授業に対する熱意が感じられましたか。  
 (9) 授業では、必要に応じて視聴覚機器やパソコン等が活用されていましたか。  
 (10) 使用した教室（体育館等を含む）の環境はどうでしたか。  
 (11) この授業の満足度は。

平成 18 年度前期から 23 年度後期までの授業評価アンケートの集計結果（両学科の全学生・学科ごとの全学生）は下表のとおりである。

【全体】 学生による授業評価アンケート集計結果（対照表）

	評 価 項 目 番 号								
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(7)	(8)	(9)	(11)
平成 18 年度前期	82.2	38.9	66.9	64.6	80.4	95.4	79.7	53.4	71.6
平成 18 年度後期	80.9	39.8	68.9	67.1	81.2	91.5	81.5	48.4	73.8
平成 19 年度前期	81.5	40.2	67.5	66.1	81.5	93.5	80.6	54.8	72.1
平成 19 年度後期	81.6	41.6	70.9	69.6	84.2	94.1	82.7	54.2	75.7
平成 20 年度前期	84.4	40.0	69.1	66.8	83.0	92.5	82.0	54.2	73.3
平成 20 年度後期	81.8	48.1	73.3	72.4	86.9	93.2	85.6	57.6	78.5
平成 21 年度前期	83.8	40.8	67.7	66.0	82.6	92.7	81.7	57.5	73.7
平成 21 年度後期	80.5	46.4	72.1	70.4	85.3	91.8	84.6	61.0	77.9
平成 22 年度前期	85.2	44.8	70.0	68.4	84.0	93.7	82.3	62.0	75.4
平成 23 年度後期	83.7	48.3	73.1	71.8	82.8	90.9	84.4	59.3	78.2

【ビジネスライフ学科】 学生による授業評価アンケート集計結果（対照表）

	評 価 項 目 番 号								
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(7)	(8)	(9)	(11)
平成 18 年度前期	75.9	38.9	64.1	64.1	81.6	96.2	79.6	46.4	71.4
平成 18 年度後期	74.6	40.0	65.9	66.5	81.5	94.6	79.3	54.6	73.6
平成 19 年度前期	75.8	38.4	64.0	64.1	82.6	93.8	78.2	45.8	71.0
平成 19 年度後期	73.9	44.2	68.5	68.6	86.1	94.6	81.8	51.1	74.9
平成 20 年度前期	78.5	36.9	64.3	63.7	81.6	92.3	79.5	47.4	71.1
平成 20 年度後期	75.6	43.1	69.7	68.8	85.7	93.8	82.4	54.1	75.7
平成 21 年度前期	81.7	36.0	62.0	62.4	82.9	92.9	79.0	43.2	70.3
平成 21 年度後期	79.2	43.3	68.9	68.3	84.3	92.9	82.3	56.2	75.4
平成 22 年度前期	82.2	42.6	65.7	66.2	83.7	94.2	80.8	53.1	73.1
平成 23 年度後期	81.1	49.2	70.2	69.2	82.9	93.5	82.9	58.6	74.8

【こども学科】 学生による授業評価アンケート集計結果（対照表）

	評 価 項 目 番 号								
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(7)	(8)	(9)	(11)
平成 18 年度前期	87.8	38.7	69.2	64.8	79.3	94.6	79.6	59.1	71.5
平成 18 年度後期	84.2	39.4	70.1	67.1	80.6	89.9	82.3	45.2	73.7
平成 19 年度前期	86.1	41.9	70.6	67.9	80.6	93.4	82.7	61.7	73.1
平成 19 年度後期	84.4	41.6	72.1	70.2	83.5	94.2	83.4	55.1	76.2
平成 20 年度前期	87.2	42.7	72.3	69.0	84.0	92.8	84.0	58.0	75.0
平成 20 年度後期	83.5	51.3	75.0	74.2	87.9	93.7	87.3	59.4	79.8
平成 21 年度前期	85.9	45.1	72.5	69.4	82.5	92.5	84.0	66.4	76.6
平成 21 年度後期	81.1	48.8	73.6	71.4	86.0	92.1	86.0	63.1	79.3
平成 22 年度前期	86.9	48.3	73.6	70.6	84.5	93.8	84.3	67.4	77.4
平成 23 年度後期	84.0	49.2	73.7	72.2	83.0	91.2	84.6	60.7	78.9

（注）網掛けは、過去最高点

評価点は全員が回答した時に 100 点満点になるように加重計算したものである。  
ただし、無回答の件数は含まれていない。

この授業評価によれば、全科目を均してみると学生の出席状況(1)は毎年度 80 点を超えていて、両学科のほとんどの学生がきちんと出席して授業を受けていることが分かる。しかし、予習・復習などをして授業に臨む姿勢(2)は 50 点を下回っている。授業内容に関する興味や関心(3)はビジネスライフ学科では 70 点を下回るが、こども学科では 70 点を超えている。授業がシラバスの記載に沿って行われていること(5)は 80 点を超え、授業が定刻に始まって定刻に終了していることについて(7)は 90 点を超えている。

この調査でいちばん関心をもたなければならないのは「教員の授業に対する熱意が感じられたかどうか」(8)である。この問いかけに対して、「教員の熱意を感じる」は 85 点近くに達している。この数値は年度によっても学科や学年によっても変わることはなく、学生の視点に立って全教員が教育にあたっていることが認められていると考えたい。総じての授業の満足度は 80 点に近く、この数値からも教員の授業に対する姿勢は学生に高く評価されていると受けとめられる。

「視聴覚機器やパソコンなどが活用されたかどうか」(9)についての評価は 60 点を下回っている。授業科目によってはそのような機器を用いて授業を行う必要性がない場合もあるので、この項目については科目の特性に鑑みて受けとめなくてはならないと考える。

各教員には科目ごとの評価結果を伝え、所属する学科の平均や本学全体の平均と比較する棒グラフを添えて示しており、学生の視点に立って自らの授業を見つめなおす格好の資料となっている。学生の評価を受けとめてどのような工夫を行って授業改善に努めるか、教員には毎回報告書(レポート)の提出を課している。学生には掲示板にそのつど学科ごとと両科合わせたデータを公表して知らせている。

この授業評価アンケート結果に対する教員の報告書から 4 例を次に掲げる。

平成 22 年度後期授業評価アンケート結果に対するレポート	
氏 名	内 容
中村 秀一 (ファッション ビジネス 論・ファッション 販売論担 当)	<p>2つの科目で高得点をいただき大変嬉しく思っております。</p> <p>両科目に共通する点は、共に課題と小テストを頻繁に行ったことです。学生はこれを負担に感ずるのではないかと、当初は考えておりましたが、逆に学生たちは充実感を感じたようです。</p> <p>ただ聞くだけの受け身の授業よりも、自ら考え、手を動かし、主体的にかかわる部分があった方がやりがいを感じるのだらうと思います。</p> <p>採点や管理が大変ではありますが、今後、他の科目でも、こうした課題、小テストの方法を取り入れたいと存じます。</p>
柳浦 恭 (英語担当)	<p>今回の結果をふまえ、今年度の授業方針につき以下にご報告いたします。</p> <p>1. 学生の現状について</p> <p>昨年のレポートでも申し上げた通り、学生の英語力は毎年劣化の一途をたどっています。今年の新入生をみると、中学 1 年生の 1 学期に学習する内容が全く分からないという学生が昨年度よりもさらにやや増えています。前期テストの誤答分析をしたところ、次の例文が正しく理解できなかった学生は全体の三分の一を超えています。</p> <p>There is a book on the desk.</p> <p>中学 2 年程度の学習内容となると、半数以上の学生に問題があります。先日の授業で受動態の文を扱いましたが、指名した学生のうちで受動分の意味を正しく理解できる学生はごく僅かでした。</p> <p>以上に加え、中学以来の挫折経験がトラウマとなり、指名されたときに間違えることを恐れ、思考が停止してしまう「フリーズ現象」が頻繁に観察されます。このような状態は数年前から目立つようになっていきます。</p> <p>2. 今後の対策</p> <p>以上の現状を改善するために、私の授業ではごく基礎的な学習事項に絞り反復による定着を図ります。また、情緒面での不安を緩和するために「教室で間違えても減点しないこと」、「知らないことがあっても叱りつけないこと」を学生に伝え、萎縮することのないように配慮しています。</p> <p>昨年来このやり方を粘り強く続けていたところ、少しずつ学生の積極的な姿勢を引き出せる場合も出てきました。限定的ではありますが、多少の効果が認められます。小さなハードルを設定し、成功体験を積み重ねていくことが苦手意識を克服するための、恐らくは唯一の方法ではないかと思えます。</p> <p>一人でも多くの学生が上達のきっかけを掴めるよう努力したいと思えます。</p>

磯村 陸子 (心理学担当)	<p>教育心理学での評価の低さが最大の問題である。特に、保育コースの2クラスのうち、1クラスで極めて評価が低かった。</p> <p>回答を分析してみると、全体的な満足度だけでなく、特に「分かりやすさ」に関する評価が低い。自由回答においても「難しかった」という記述がみられた。また、「後ろの方の私語が多い」といったような記述も目立つ。これらを考え合わせると、授業の進度についていけなくなってしまい、学期途中で意欲をなくした履修者が相当数存在していたのではないかと思われる。例年、前半に「いじめ」などのテーマでディスカッションを中心とした授業を行い、後半は理論的な内容を講義中心で扱うという構成にしているが、今年度は若干順序を入れ替え、前半に講義を中心とした授業も実施した。こうした順序と、学力差への配慮が足りなかったことで、学期の早い段階で学生に「苦手意識」が生まれてしまったものと思われる。また、教育心理学に関しては、再試験の対象者が例年の倍以上みられた。問題自体のレベルが極端に高度になったとは考えられなかったため、対象学生に対して聞きとりを行ったところ、授業のノートをとっていない、試験前に特に勉強していないという学生がこちらの予想を上回る割合でみられた。</p> <p>今後は、基本的な学習習慣が形成されていない学生が相当数存在するということを念頭に置き、授業内容・構成の工夫とともに、学習の仕方に関するガイダンスも適宜行っていく必要があることを痛感した。</p>
佐久間 美羊 (社会学担当)	<p>今回は「社会科概説」「社会学Ⅰ」「人間と社会A」がアンケート対象科目であった。</p> <p>前者のこども学科2科目に関しては高評価を得ることができたため、ここでの記述は割愛したい。一方、ビジネスライフ学科の授業「人間と社会A」は昨年来の学科平均を下回る低評価なため、早急な改善が求められる。昨年度の低い評価を受け、今年度は2点の改善を行っていた。①パワーポイントの導入。これは、大人数授業での板書による、黒板のスペース・時間・労力を抑え、授業の流れを滞留させないため、また、ビジネスライフの学生はパワーポイントを使った授業に慣れているであろうと思われたため取り入れた。このような意図によるパワーポイントの導入は、授業をテンポよく展開させ、視覚的にもより分かりやすい授業になっていると感じていた。②参考文献の配布：理解を深めるために、参考文献のプリントを毎回配布し、授業時に一緒に読み、確認しあった。①のパワーポイントで省けた時間を②に費やすことができた。以上の2点を通し、分かりやすさに努めたにも関わらず、評価が下がったことは重く受け止める。</p> <p>今後の対策として、11月の授業相互参観でビジネスライフ学科の同系統の授業を参観させていただこうと考えている。今までビジネスライフ学科の授業を拝見させていただいたことがないので、改善へのヒントを是非得たいと思う。</p>

## ② 満足度調査

最近の調査結果は下表のとおりである。上段が平成 23 年度後期、下段の「前回」は平成 23 年度前期末の数値である。

## ＜平成 23 年度 満足度調査結果＞

学科名	回 答 者 数	回答率	学 年	設問 1	設問 2-1	設問 2-2	設問 2-3	設問 2-4	設問 2-5	計 (学科毎)
ビジネスライフ学科	92	78.6%	2	65.4	63.7	71.4	84.8	60.2	69.4	69.1
(前回)	80	66.6%		57.6	57.5	62.6	78.4	55.6	-	62.4
ビジネスライフ学科	81	89.0%	1	66.5	63.5	68.7	82.8	61.0	-	68.5
(前回)	85	85.8%		65.2	60.8	63.5	77.2	62.6	-	65.9
こども学科 (初教)	38	71.6%	2	70.5	58.7	64.7	79.0	61.3	65.5	66.6
(前回)	45	83.3%		68.4	66.7	67.6	83.3	68.7	-	70.9
こども学科 (初教)	64	79.0%	1	63.3	60.5	62.8	86.1	64.4	-	67.4
(前回)	74	88.0%		69.3	66.0	66.4	82.2	62.3	-	69.2
こども学科 (保育)	113	83.7%	2	67.1	63.9	63.8	83.5	66.3	68.1	68.8
(前回)	124	88.5%		61.4	62.3	61.9	83.0	65.4	-	66.8
こども学科 (保育)	143	90.5%	1	55.6	58.0	57.7	86.3	64.6	-	64.5
(前回)	160	98.1%		64.9	59.9	63.2	89.1	64.7	-	68.3
平均 (設問毎)	531	83.6%		64.7	61.4	64.9	83.8	63.0	67.6	67.6
(前回)	568	86.0%		64.5	62.2	64.2	82.2	63.2	-	67.3

質問内容	設問1	本学に入学したことをどの程度満足していますか。
	設問2-1	授業について
	設問2-2	先生との出会い
	設問2-3	友人との出会い
	設問2-4	事務職員の対応
	設問2-5	2年間の自分の成長への満足 (2年次生のみ回答)

注) 設問欄の数値は、各設問について100%~0%の11段階で該当する満足度に○を付けさせ、その回答数を加重平均したものである。

この調査結果から分かることは、最近の2回に限らず毎回、「友人との出会い」(設問2-3)の満足度が80%を超えており、親しい友人との出会いが大学生活の充実感・満足感を感じる主な要因になっているということである。「本学に入学したこと」(設問1)、「授業」(設問2-1)、「先生との出会い」(設問2-2)の3項目の満足度はいずれも60%台に留まり、学生の視点に立った教育を追究する本学としては大きな課題として受け止めなければならない。卒業生に限定して行う「2年間の自分の成長」(設問2-5)の満足度は70%に近い数値を示しており、できれば80%台になることを期待している。これ

は、「入学して良かった、卒業して良かった」と充足感をもった2年間を送らせたいからである。この定点観測は引き続き行って本学の教育の成果を確認していきたい。

この調査では自由記述で率直な思いを書き綴ってもらっているので、主なものを以下に掲載する。今回（平成23年1月時点）の調査からの指摘である。

#### ビジネスライフ学科1年

- ・質問しようと思えるようになった。
- ・簿記検定の対策講座があって、初めての人でもやりやすかった。
- ・資格取得のサポートが充実している。検定試験前に特別講義をしてくれるのは毎回助かっている。
- ・先生が親身になって相談に乗ってくれるので、授業でわからないことがあってもすぐに解決する。

#### ビジネスライフ学科2年

- ・パソコンの台数が多いので、学校でレポートの仕上げがしやすい。
- ・初めは経済学に関心はなかったが、学んでいく中で関心を持つようになり、社会は経済で成り立っていることを知った。
- ・キャリアセンターの方が、親切にしてくれたため就職できたと思う。
- ・将来について真剣に考えることができた。物事を幅広く考えることができたこと。
- ・秘書学の授業を通し、入学以前よりマナーが身につき、検定試験にも合格できた。

#### こども学科（初教）1年

- ・意識の高い仲間に出会えて、今まで以上に頑張れることを嬉しく思っている。
- ・幼稚園教諭になりたいと思う気持ちが深まるような授業がたくさんあった。
- ・同じ志を持った友人と出会えたこと。それを全力で支えてくれる先生方と出会えたこと。
- ・ピアノ初心者だったのに弾けるようになった。こども造形教室で子どもと触れあうことができる。

#### こども学科（初教）2年

- ・知り合いの子どものお世話をするのがうまくなった。
- ・物事をいろいろな角度から見られるようになった。

#### こども学科（保育）1年

- ・施設実習に行った時、「この学校はしっかりしているね。今まで来た学生の中で一番しっかりしていると思う」と言われ、嬉しかった。
- ・さまざまなタイプの先生に出会えて、新しい視点が生まれた。
- ・論文型の課題が多くて大変だったが、長文に慣れることができてよかった。
- ・専門知識を豊富に持った先生がたくさんいるので、どんな質問をしても納得できる答えが返ってくる。
- ・今までの学校生活よりも数倍密度の高い日常を送っている。

#### こども学科（保育）2年

- ・実習などを通して、人を思いやることの重要性を学ぶことができた。
- ・こども造形教室で、実習以外の場でも子どもたちと関わり、指導や援助をする機会を

もてたことがよかった。

- ・今まで考えたこともない、独特な考え方なども学べた。
- ・授業や実習を通して様々な知識を得ることができ、経験を深めることができた。それによって自分の保育観を考えることができ、人生観も変化したと思う。人として成長できた2年間だった。

学生には、よりよい学校とするための提案も自由に記載させている。毎回、次のような要望があり、施設・設備に関することが多い。耳を傾けるべき点には耳を傾けて対応に努めたい。

- ・トイレを増やしてほしい
- ・トイレットペーパーを常に補充してほしい
- ・エレベータを設置してほしい
- ・暖房の故障を速やかに直してほしい
- ・騒がしい学生に対して厳しく指導してほしい
- ・急な休講はメールで知らせるようにしてほしい
- ・聞きにくいマイクを直してほしい
- ・学生食堂のメニューを増やしてほしい
- ・ピアノの調律を定期的に行ってほしい
- ・タバコの取り締まりを強化してほしい
- ・事務の対応をよくしてほしい
- ・座席の指定をやめてほしい

### ③ 授業事例研究会

平成17年度から始まった授業事例研究会は、24年度で一巡することになる。ビジネスライフ学科、こども学科の教員が交互に担当する科目の状況や、工夫している点について40分ほど発表し、その後20分ほど質疑を行い、異分野の科目の授業からも示唆を得て授業力を高めようとするものである。回を重ねるごとに両学科の教員の交流は深まり、「学生を育てる」という共通の目的に向かって教育力を磨き合う環境が整ってきている。

以下に、最近5年間の研究会のテーマを掲げる。なお、平成21年度には学園カウンセリングセンターの上田和子カウンセラーの講話を聞くプログラムも組み込んでいる。

開催日	テーマ	発表者	担当科目
平成19年 5月16日	授業内容について（教育方法Ⅱ）	中島准教授 （こども）	教職概説 教育方法Ⅱ
6月13日	授業の進め方について（ビジネス文書Ⅰ）	杉田教授 （ビジネスライフ）	文章表現法 ビジネス文書
11月14日	授業報告（スポーツ演習、基礎体育、健康科学概論 ほか）	斉藤（朗）教授 （こども）	スポーツ演習 健康科学概説
12月12日	授業報告（情報とインターネット）	玉置教授 （ビジネスライフ）	情報とインターネット Java 概説
平成20年 5月14日	授業方法について（各担当科目）	柏木講師 （こども）	社会福祉 養護内容

6月11日	授業報告（基礎ゼミ）	飯名教授 （ビジネスライフ）	基礎ゼミ 財務分析
11月12日	授業報告（教育心理学）	磯村准教授 （こども）	教育心理学 生活科指導法
12月10日	授業報告－保育原理の授業から	松田講師 （こども）	保育原理 環境指導法
平成21年 5月20日	心に問題を持つ学生への初期対応の留意点	上田カウンセラー （学園）	学園カウンセラー
6月17日	授業報告（保育内容総論）	野中講師 （こども）	保育内容総論 人間関係指導法
12月9日	授業報告（各担当科目）	井芹教授 （ビジネスライフ）	プログラミング基礎 自然科学概説他
平成22年 5月19日	授業事例研究（各担当科目）	千葉准教授 （こども）	こどもの福祉Ⅰ 保育実習指導他
6月9日	学生の文章力向上を目指す取り組み －学生自身による課題認識、考える手続きの定着－	高野講師 （こども）	文学と親しむ 国語学概説他
11月17日	授業紹介・司書課程 －「情報サービス概説」及び「レファレンスサービス演習」を中心に－	齊藤誠准教授 （ビジネスライフ）	情報サービス概説 図書館概論他
12月8日	授業事例研究報告（各担当科目）	佐久間美講師 （こども）	英語コミュニケーション社会学他
平成23年 11月9日	「こども造形教室」実践報告	三好准教授 （こども）	基礎造形 教職概説他

#### ④ 授業相互参観

授業相互参観は11月から12月の2週間を設定して、授業担当の無い時間帯に他教員の授業を参観して実際に学び合おうとするものである。事後には、参観する教員と授業を公開した教員とが忌憚なく感想を述べ合って意識を高めている。参観者には報告を求めているので、平成23年度の報告の中から4例を紹介する。

#### 【ビジネスライフ学科】

氏名	授業科目	感想
市岡 義章 (経済学担当)	基礎英語Ⅰ	「必修」という科目を授業することの難しさを改めて感じた。すなわち、全学生に同様の関心を持たせることの困難である。担当教員は、適度に間合いを取り、学生に発言の機会を与えるなど、授業の運営に工夫を行っていることはよく分かる。しかし、関心を集中できない学生をどのように授業に引き込んでいくのか、さらなる検討の必要がある。これは、参観者自身の必修授業にも言えることなのであるが。

澤村 孝夫 (会計学担当)	インターネット ワーキング 実習Ⅱ	パソコン会計の科目が削除されたことにより、実務簿記への橋渡しが、難しくなった。現在、机上で実施している簿記の処理方法をパソコンで実施できないかを考慮中です。従って、授業参観した授業内容を拝見して、導入可能性を確認することができました。実務でよく利用されている弥生式の会計ソフトで、次年度、試験的に導入してみたいと思っています。
------------------	-------------------------	---

## 【こども学科】

氏名	授業科目	感想
三上 修二 (体育担当)	基礎体育	寒い中での体育館での実技授業であったが、館内に響く大きな声に学生は圧倒されていた。言葉だけでの説明や指示だけではなく、正確な動きと間違った動きの両方を自らの動きで提示することは、実技指導者の鉄則であるがなかなかいつも出来るとは限らない。学生の見る視点を強調して、理解を深める工夫がされており、参考になった。ただ、教材の配当について、この時期でのマット運動は一考を要するのでは。
中島 千恵子 (幼児教育担当)	図画工作表現 演習	少人数で造形表現の力をさらにのばすことのできる授業内容だと思った。本時は陶芸で皿を作るという内容のものであったが、準備から基礎・応用の仕方まで丁寧に説明され、学生は熱心に聴き実践に努める姿が見られた。

学科会議後に行われる FD 会議では、学科の教育目標の達成状況についても意見交換し、特に就職状況については常に関心を払って学生に対応するように努めている。ビジネスライフ学科ではゼミの教員が、こども学科では相談教員が担当の学生の履修状況、進級、就職、卒業要件などに留意しつつ、同会議で掌握した学生の状況も踏まえて、適宜指導にあたっている。

学習成果についての所轄部局は学務課である。担当教員から報告されるデータを踏まえて学生の成績管理を行い、レポート提出や追再試の指示などを適切に行うとともに、履修に関しての学生の相談には随時対応して、教員には相談しにくいことなども聞き、円滑な履修ができるように努めている。中には甘い認識をもった学生がいるので、学則などで定められている事項については厳しく伝え、自らを律して学生生活を充実させるように接することもある。

事務職員の SD 活動については、SD 委員会を設置して職員の能力アップのための施策を具体的に検討して実施している。たとえば、学内外での自主的な研修の機会を増やすとともに、事務局内の定例会議などでは職員間の上下及び横の情報共有を促している。

学生に対する情報教育は、教員構成や施設・設備の面で充実して行われている。授業科目としては、ビジネスライフ学科では「PC リテラシー」等の基礎的な科目から「コンピ

「ユーターアート」など最新のコンピュータ技術を活用する科目までが多岐にわたって開講され、またこども学科では「教育情報処理」が開講されて教育・保育に必要な技術を教えている。

図書館では、学生の学習向上のために、年度当初にシラバスに記載された参考書や教員指定の講義用図書などの専門書を整備するとともに、一般教養を広げるための図書の充実にも力を入れている。経済不況と大震災によって就職が厳しくなる状況に鑑み、キャリアセンターと協力して就職活動に役立つ資料や資格取得に関する資料の充実にも努めている。

情報リテラシーの指導については、必要な図書や資料を迅速に入手して学習を深めることができるように、図書館ガイダンスや館内学習によって積極的に取り組んでいる。4月当初に実施される新入生対象のガイダンスでは図書館利用の仕方について説明し、図書館の施設案内をする。ビジネスライフ学科では5月に「基礎ゼミ」で図書館利用講習を行い、蔵書資料の調べ方、OPAC（蔵書検索パソコン）の使い方、配架資料の探し方、本学にない資料を探すための横断検索などを教えている。こども学科の「教育情報処理」では、図書館の資料を探して課題に応える学習を組み入れている。

図書館の専門事務職員（専任3名・非常勤4名）のうち6名が司書資格をもち、図書館を密度の濃い学習を進める場とするための専門的な知識とノウハウを備えている。教員には、図書館の自発的な利用を促すために、図書館の資料に当たってレポートを提出させるといった課題を適宜出すことを勧め、司書科目の授業では図書館を教室にして情報検索やレファレンスサービスなどを実際的に教えている。

平成23年度から春と秋の2回、学生ブックツアーを実施することになった。学生の中から選書委員（大学・短期大学部各4名）を選んで書店に出向いて読みたい本を選択させ、その本を購入して「紹介ポップ」とともに館内に展示し、一般学生の利用を促す取り組みである。同世代の学生が選んだ書物は多くの学生の興味と合致するようで、図書館の活性化につながる有効な試みとなっている。

コンピュータ教室の整備状況は次表のとおりである。

教室名	台数	備考
1号館 401 教室	40 台	授業用
電算棟 C11 教室	50 台	授業用
電算棟 C21 教室	42 台	授業用
電算棟 C31 教室	42 台	授業用
電算棟 C32 教室	8 台	ビジネスライフ学科自習室
A16 多目的演習室	11 台	ビジネスライフ学科自習室
A21 実習資料室	18 台	こども学科自習室

上記の授業用の4室は、授業で使用していない場合は自習用としても利用できる。いずれの教室からも保存した個人データを参照・更新できるため、学生は空き教室を見つけて自学自習ができる。教員は授業の準備や教材作成をコンピュータ室で行う場合を除いて、多くは研究室の設備を活用して行っている。

セキュリティ確保のため、教員の成績入力には学内のパソコンからのみ可能としていて、

シラバスなどのドキュメントは学内共有フォルダを利用して行っている。その他の校務関連の書類や資料の送付もメールで行っている。

学生に対する学内 LAN 及びコンピュータの利用を促進するために WEB ページを作成し、学生への情報発信に努めるとともに、学生には一人ひとりにメールアドレスを付与してメール利用を促進している。学内 LAN 上に作成されている学内共有フォルダは、教職員のみがアクセスできるものと学生からもアクセスできるものに区分され、後者は授業時の資料提示・教材配布・課題提出の際に利用するだけでなく、自習時間等に教材を入手したり課題を提出したりする際にも利用されている。

一般の授業科目においてもパソコンによるレポート作成やプレゼンテーション資料の作成を課して、パソコンの活用力を育てている。作成したドキュメントをメールで提出させたり、学内共有フォルダに提出させたりすることで IT 時代を生き抜く力の育成に努める科目もある。なかには学内 WEB 上に授業の資料や課題提出状況をアップすることで、学生のコンピュータ利用を促している教員もいる。プレゼンテーションソフトを使った授業やメール・共有フォルダを利用した課題の配布・回収を実施する教員は年々増加している。今後さらに増加することを期待している。

#### (b) 課題について

学生の授業評価を率直に受けとめ、学習者の視点に立って授業改善に努めるとともに、教員が相互に教育方法について学ぶ機会を活かして教育力を高めること。

### 基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に行っている

#### (a) 現状について

入学時のガイダンスでは、教務部の教員が学務課職員と連携して、学科の説明、履修コース・フィールドの説明、履修要項・手続きの説明を行っている。そのガイダンスで充分に理解のできない学生に対しては、後日、丸1日をかけて集中的に相談を受ける「履修相談」コーナーを開設し、遺漏なく学習が開始できるように配慮している。

印刷物としては、『学生便覧』（約160頁）、『授業要項』（約320頁）を配布している。『学生便覧』には学生生活に欠かせない各種案内、各施設案内、就職斡旋、定期試験、教務関係諸手続き、各学科の履修要項、学則を始めとする各規程等、学生生活に必要な情報を掲載している。『授業要項』には、各授業の内容をできるだけ分かりやすく説明したシラバスを収録し、科目選択の際に役立てられるようになっている。

補習授業は特に実施していないが、ビジネスライフ学科の「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」および「日本語表現Ⅰ・Ⅱ」、「総合ビジネス教養」については習熟度別クラス編成をし、学生の習熟度に応じた効果的な指導を行うとともに、各ゼミの指導教員は授業の空き時間を利用して、学習上の問題を抱えている学生に個別に対応している。こども学科では学生が教育者・保育者を志しているので、保護者や子どもたちにきちんとした対応ができ、教育実習・保育実習で適切な記録が残せるように、全科目で読み書きなどの指導に力を入れている。ゼミの教員や相談教員が学生との相談内容を学生相談記録簿として記録しているので、5名の教員の親身に相談に乗っている様子の一部を掲げる。

学生相談記録簿		相談教員	井芹 康統
月日	学生氏名	相談内容	助言内容
4月22日	学生 A	体調不良のため授業途中退出（4/19：プログラミング入門1）	配布プリントを渡す。授業中の課題および宿題について指示。
5月11日	学生 B	課題の不明点を質問（コンピュータ実習Ⅱ）	解答方法を解説
5/17～5/18	4名	就職関係個人面談 15～20分/人	現在の活動状況など
6月8日	学生 C	欠席が続いていた授業について相談	履修の意思確認、今後について注意、プリント等を渡す。
6/2～6/17	9名	進路関係個人面談 15～20分/人	卒業後の進路希望聴き取り、模擬試験結果配付など
8月16日	学生 D	公務員試験受験について	試験問題についてアドバイス
10月21日	学生 E	就職相談（地方公務員試験）	面接の受け方・心構えなどを話す。面接練習。
10月27日	学生 F	前期欠席多。後期の様子をヒアリング。	出席する科目を決めてできるだけ多く単位取得を目指す。
1月19日	学生 G	今年になって学校に来ていないため、学務課より連絡して呼び出し。	期末なので授業に出ることが重要と注意。基礎ゼミ（再）について指示。
1/23～1/31	学生 H	不明な点は質問に来るように伝えていたところ、研究室に数回現れた。（自然科学概説）	各質問について、詳しく説明して理解できるように指導した。

学生相談記録簿		相談教員	西川 篤志
月日	学生氏名	相談内容	助言内容
5月24日	学生 A	Microsoft Word の操作法について	横書きの文書の中に縦書きの文章を入れる方法や二段組みの方法などについて指導した。
6月14日	学生 B	Microsoft Excel の操作法について	Excel の計算式や関数の利用法について指導した。
7月7日	学生 C	未提出の課題について	就職活動のため欠席が多かったので、課題を渡し、授業欠席分を補うよう指示した。
7月22日	学生 D	未提出の課題について	課題の提出が遅れていたため、個別に指導した。
11月4日	学生 E	未提出の課題について	後期授業開始直後欠席が続いたので、欠席分のプリント、課題を渡して、個別に指導した。

11月10日	学生 F	プレゼンテーションソフトの利用法 (インターンシップ実習報告会)	プレゼンテーションソフトを利用して発表用のスライドを作成することについて指導した。
11月25日	学生 G	コンピュータ実習 I、専門ゼミ I のそれぞれの授業で作成した Web ページの整理、リンクについて	トップページに目次を作り、コンピュータ実習 I で作成したページとゼミで作成したページのリンクを分けるとよいことを助言した。
12月7日	学生 H	授業の欠席について	このところ専門ゼミや他の授業で欠席がちであったので、事情を聴き、励ました。
1月12日	学生 I	自宅のパソコンで作成したファイルやデータを、学校のパソコンで開くことができない	自宅と短大ではソフトのバージョンが違うので、保存するときファイルの形式を注意するとよい。
1月12日	学生 J	発展問題について	課題がすべて終了していたので、さらに課題を与え、発展的な学習を指導した。
1月27日	学生 K	再提出の課題について	課題が正しくできていなかったため、添削して返却し、修正すべき点や方法などを指導し、再度提出するよう指示した。

学生相談記録簿		相談教員	千葉 弘明
月日	学生氏名	相談内容	助言内容
4月27日	学生 A	公務員試験の受験対策について。	推薦する問題集及び参考書の紹介。今後の勉強方法について指導。
4月27日	学生 B	保育実習 II の自己目標の書き方について。	保育実習 I A の省察を踏まえること、保育実習 II の到達目標を踏まえながら目標設定するように指導。
6月1日	学生 C	指導案の作成について、保育実習 II へ向かう姿勢について。	後日、添削指導の日程を調整。挨拶、コミュニケーションの取り方について指導。
6月8日	学生 D	体調不良について (右耳が聞こえづらい)	実習ができるかどうか本人より確認。現在のところ実習には支障がないようなので、体調が悪化した場合、再度報告するよう指導。

6月17日	学生 E	公立保育所の受験について	公立保育所の受験を迷っているため、民間の保育所と就職の時期が重ならないこと、受験勉強しても就職した際にメリットが大きいことを説明。公立保育所の受験を勧める。
7月29日	学生 F	公立保育士の受験について。	志望動機、自己 PR などの文書指導。
10月18日	学生 G	エントリーシートの書き方と面接対策について。	エントリーシートの添削指導と面接内容について指導した。
11月25日	学生 H	現在の学生生活について（心身の状態）。	少し授業での課題が多く疲れていると報告。睡眠時間を確保するように助言した。
1月11日	学生 I	友人との関係について。	友人とのトラブルがあり相談を受ける。
1月17日	学生 J	就職試験の結果報告について	内定した旨の報告をうけ、就職に向けた準備など助言した。

学生相談記録簿		相談教員	高野 浩
月日	学生氏名	相談内容	助言内容
4月27日	学生 A	採用試験の論作文試験に向けての個別指導（個別添削）	執筆してきた論作文課題に対して、添削を行い、そのうえで助言を行った。
5月20日	学生 B	文章作成における構成の立て方について	学生が書いた作文を素材に、課題文の読み解き、主題の決定方法、構成の組み立て等について具体例を示した。
5月20日	学生 C	採用試験の論作文試験に向けての個別指導（個別添削）と次回研究室の来訪日時確認	執筆してきた論作文課題に対して、添削を行い、そのうえで助言を行った。また、次週のスケジュールを伝達。
5月23日	学生 D	語彙力を向上させる方法について	どのような文章を書きたいのかという点をふまえて、参考になる書籍等を紹介し、資料も貸し出した。
6月17日	学生 E	心理的な不安についての相談	状況を聴取したうえで、物事に区切りをつけて考えるように勧めた。
6月28日	学生 F	保育実習Ⅱの反省	保育実習における実習態度および今後の進路について話をした
7月15日	学生 G	編入学について	受験勉強方法についての指導
7月29日	学生 H	採用試験二次試験対策および提出書類の添削	文案の添削および面接対策、模擬授業対策

8月10日	学生 I	公立保育士採用試験対策	小論文指導
10月26日	学生 J	国語学の内容確認	不明点を中心に説明
12月	保育コース 2年生 10 名程度	採用試験関連の相談・文章 添削	進路指導・添削指導

学生相談記録簿		相談教員	松田 清美
月日	学生氏名	相談内容	助言内容
4月	学生 A	退学を希望	再考を促し、保育士資格のみ取得を目指すこととした
4月	学生 B	ピアノの学習について：初心者で進度が遅く、器楽 I を再履修する	高木先生に相談するよう助言した
5月	学生 C	授業の出席状況等について：全般的に出席状況が芳しくない	生活リズムを整え、状況を改善するよう助言した
6月	学生 E ほか	保育実習 II に関する相談	心構えや責任実習の内容について助言した
6月	学生 G	短大生活、特に授業について：初等教育コースの時と異なり、苦勞している	努力をねぎらい、励ました
7月	学生 H	授業の出席状況・幼稚園実習について	幼稚園実習に向けて励ました
8月	学生 I	幼稚園実習について：不安を感じており、実習を取り下げたい	話を聞き、横山先生にも相談するよう助言した
9月	学生 J	公務員対策講座について：通常の授業が大変で手が回りそうにないが、受講するほうがよいか迷っている	受講を促した
10月	学生 K	就職について・前期の不合格科目について	資格取得判定の精度について説明し、励ました。
10月	学生 L	知らない人に見られているようで気になる	友達と一緒に通学し、危険のないよう助言した。その後も折を見て様子を尋ねた

保健室には看護師 1 人が常駐し、学務課職員と連携して学生の健康上の異変に対応している。看護師は栄養師の資格も取得しており、身体や精神の不調を訴える学生に的確な対応を行っている。

学園にはカウンセリングセンターが設置されていて、週 4 日 4 名のカウンセラーが交替で勤務し、学生のさまざまな悩みのカウンセリングを行っている。同センターは大学・短期

大学部・高校の長・学生部長・センター長・学務課長などによって構成される運営委員会でその運営を適宜審議して、早期の適切な対応によって休学などの道を歩まないように努めている。以下に、直近3年間の利用状況を示しておく。

カウンセリングセンター利用状況

年度	利用件数
平成21年度	236件
平成22年度	160件
平成23年度	230件

年間に履修できる単位数は、ビジネスライフ学科では50単位、こども学科では56単位までと定められているため、意欲のある学生は限度一杯まで科目履修して専門性を広く磨いている。また、授業とは別に下記のような講座が設置され、資格・検定試験への挑戦や公立幼稚園・保育所合格を目指す学習を支援し、成果を上げている。

- ・日商簿記検定試験対策講座
- ・ビジネス文書検定試験対策講座
- ・ファイナンシャルプランナー試験対策講座
- ・秘書技能検定試験対策講座
- ・公務員試験対策講座

本学は千葉経済大学や県内他大学と単位互換協定を結んでおり、本学には開講されていない科目を学びたいという向学心富む学生には、他大学の科目を履修することができる。しかし、この制度の利用は本学の授業が過密なためなかなか難しいようである。

平成6年、海外の大学における教育体験・海外における生活体験・異文化の見聞を目的としてハワイ大学カウアイ・コミュニティ・カレッジと教育提携を調印し、以降、毎年10名～20名程度の短期留学生を送り出した。しかし、近年は経済状況の悪化などの事由によって参加希望者が激減したため、平成20年度から研修旅行に形を代えて実施するように改めた。カウアイ・コミュニティ・カレッジからも学生が平成18年には9名、19年には8名、24年には3名が教員の引率のもとに本学を訪問し、英語の授業に参加するなど本学学生との交流を深めている。

以上の他に、休業期間を利用して、国際交流の様ざまな取り組みが行われている。ファッションビジネスゼミは、学園祭でのセレクトショップの品揃えのために韓国などへ買い付け体験を行っている。スクーバダイビング部はグアム島で合宿を行っている。また、ドイツ語愛好会がヨーロッパに研修旅行を実施して、ドイツの幼稚園を訪問したりして異文化体験を積んでいる。

#### (b) 課題について

基礎学力の不足する学生に目を向けがちであるが、向学心があり教養をひろげながら上級の資格を取得しようと励んでいる学生への指導の充実にも力を入れること。

### 基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている

#### (a) 現状について

学生部会（教員 11 名）と学務課（職員 6 名：うち看護師 1 名）が中心になって、満足した学生生活が送れるように側面から支援している。新入生歓迎会、スポーツ祭、学園祭（とどろき祭）等の学園行事では、学生の主体性を尊重してその自主性を伸ばしながら、企画から会計に至るまでの支援体制を整えている。

自治活動に対する教員の支援については、学生の自主性を伸ばすためには最小限に留めるべきであるという主張と、社会性や企画力などを大学時代に育むためには積極的に支援していくべきだという主張がある。学生の実態に即して的確に対応していきたい。

クラブ活動は午後 8 時まで学内施設（体育館・部室等）の利用が可能であり、各クラブが自分たちの都合に合わせた時間帯で活動ができる。千葉経済大学のクラブ活動と交流をもつとともに、本学には設置していない同大学のクラブ活動への参加を認めて、学業以外のキャンパスライフの充実に努めている。在学期間が 2 年間であるので、年によって部員数に増減があり、活動が一定して継続できないという課題がある。

日本私立短期大学協会が催す「全国私立短期大学体育大会」には毎年参加し、スポーツをとおして全国の学生と交流を図っている。同大会への参加やクラブ活動に対しては、保護者のつくる後援会が適切に援助を行っている。

平成 24 年度のクラブ・同好会活動は以下のとおりである。

#### ○体育系クラブ

クラブ名	学生数
硬式テニス	4
バスケットボール	27
バドミントン	17
バレーボール	16
スクーバダイビング	23

#### ○文化系クラブ

クラブ名	学生数
小原流華道	1
日本古流華道	5
合唱	11
軽音楽	32
ドイツ語	15
FPサークル	52

#### ○同好会

クラブ名	学生数
書道	6
フットサル	27
ピアノ	5

ダンス	13
Sportsサークル	10
スポーツ観戦	27

学友会は2学科約650名の学生によって組織され、自治的な活動に取り組んでいる。学友会執行部は、学園祭、スポーツ祭、およびクラブ活動・同好会の企画・運営・管理を行い、年間予算は約450万円である。授業時間が過密で、アルバイトに時間が取られることの多いなかではあるが、執行部役員を希望する学生はこども学科の学生が中心となっていて、自主的な活動を主体的に行おうとする気運が高まっている。執行部役員の数は平成23年度が1、2年次生合わせて約60名にのぼり、平成24年度の新役員となった2年次生は29名である。

学園祭（とどろき祭）は毎年10月下旬から11月中旬の2日間にわたって開催され、クラブ・同好会やクラス・ゼミ等が主催する発表会や催し物を始め、外部からお笑いタレントを招いたイベント等が行われる。併せて、当日は模擬店も数多く出店され、他大学の学生や高校生、近隣地域の住民や子どもたちが訪れてにぎやかに開催されている。

スポーツ祭は新生を中心に5月下旬から6月上旬に開催され、ソフトバレーボール・大縄跳び・綱引きなどの種目でゼミ単位、相談教員クラス単位で結束しながら競い合っている。教職員もチームをつくって学生と対戦して親睦を図り、立場や学科、学年を超えての交流が生まれている。

「学生ホール」は2階建てで、液晶テレビを設置する1階ホールは自由なコミュニケーションの場とされ、2階は静かに自習が出来る空間になっている。コンピュータ教室は授業で使用されていない時間帯には自由に利用でき、レポート作成などに活用されている。

「学生食堂」には140席を確保し、手ごろな価格で食事ができる。道を隔てたキャンパスには千葉経済大学の学生ホールや学生食堂、売店があって、学生は自由に利用できるようになっている。

クラブ・同好会の部室（18室）は「短期大学部体育館」の1階に設けられていて、活発に利用されている。ゴミの分別収集については、「清潔なキャンパス」という観点から設置する場所には配慮し、十分に分別に対応したゴミ箱の設置に努めるなどの工夫をしている。

遠方出身の学生が下宿を求める場合には、信頼できる不動産業者の紹介を行い、学生寮等は設置していない。本学はJR総武線「西千葉駅」から徒歩で13分、路線バスで5分（100円）、また千葉都市モノレール「作草部駅」「天台駅」からはいずれも徒歩5分で交通の利便性は高い。自転車通学者のために100台程度置ける自転車置場を設けているが、自動車やバイクでの通学は安全上の観点から禁止している。

日本学生支援機構の奨学金制度（第1種、第2種）の利用者は増加している。また、千葉経済学園の奨学金制度については、毎年約15名程度（平成22年度より10名程度から増加）の学生に750,000円（平成23年度より500,000円から増額）を限度に無利息融資が行われており、希望者は多い。

リーマンショックや東日本大震災などにより我が国の家計の状況は厳しさを増しているため、今後とも奨学金制度の充実に努めたい。上記の奨学金の受給者は次表のとおりで、

希望者のほぼ全員が受給できている。

	平成21年度	平成22年度	平成23年度
	受給者数	受給者数	受給者数
日本学生支援機構（第1種）	17	25	22
日本学生支援機構（第2種）	69	83	100
千葉経済学園	11	16	17

（注）当該年度に新規採用（予約採用を含む）された者の数

平成 24 年度から授業料減免制度を新たに設けた。家計の事由で入学金が納められずに入学を辞退したり、授業料等が納入できずに休退学せざるを得なくなったりする者を支援する制度である。学費負担者を含む世帯全員の総収入が規程の示す基準以下で、人物に優れた勉学意欲がある学生は、学内審査員会の選考を経て入学金及び授業料の全額もしくは半額が免除される。

平成 23 年度の秋、卒業後 1・2・3 年目の卒業生に下記の項目でアンケート調査を行い、116 名から回答を得ることができた。アンケート項目は下記のとおりである。

- （1）学生時代のことで最も心に残っていることは、何ですか。
- （2）短大時代のご自身の勉学について、今どのように感じていますか。
- （3）短大時代に授業等を通じて学んだことは、現在の仕事や生活に役立っていると感じますか。
- （4）短大時代にもう少し学んでおけばよかったと思っている事柄はありますか。
- （5）短大時代を振り返って、全体として本学での教育に満足されていますか。
- （6）本学の教育をよりよいものにするために、今後改善すると良い点（開設した方がよいと思う科目を含めて）など、本学へのアドバイス、提言があればお願いします。在学中の後輩に対するメッセージ、アドバイスでも結構です。
- （7）卒業後、本学のホームページを見ることはありますか。

複数回答による「学生時代のことで最も心に残っていること」では、「友人との交流」が最も多く 63%を示し、「授業・ゼミ」が次いで 51%、「教育実習・保育実習」が 32%となっている。2 年間という短い年月であるが、親しい友人と出会えたことがかけがえのないものとなっているようである。この数字は前掲の在学中の満足度調査の結果と一致する。

「短大時代の勉学についてどのように感じているか」の問いでは、「大いに学んだ・どちらかといえば学んだ」の両方で 83%を示している。「授業等を通じて学んだことが現在の仕事や生活に役立っていると感じているか」の問いでは、「役立っている・どちらかと言えば役立っている」の両方で 79%、「本学の教育の満足度」は「とても満足・どちらかといえば満足」の両方で 81%を示している。サンプル数が少ないという制約があるが、有難く受けとめたいと思う。

これに対して、「もう少し学んでおけばよかったと思っている事柄はありますか」の問

いには、67%の卒業生が「ある」と答えている。卒業生には在学時をふり返って、このような後悔があることを在學生に伝えて、かけがえのない学生時代を送っていることを認識して勉学に精励するように促したい。自由記述のなかから、主だった感想を以下に列挙する。

- ・ あっという間の2年間だった。とても濃い2年間だった。
- ・ 同じ夢に向かって友だちと励まし合いながら頑張った。
- ・ 教育実習で厳しさを学んだ。
- ・ 現在でも一番仲の良い友達と出会えた。
- ・ 今でも仕事上の悩みを話せる大切な友人ができた。
- ・ 現場に入って実際に働くと、まだまだ未熟だと感じるものがたくさんあった。
- ・ 就職活動に一生懸命で、学生の本分である勉強をおろそかにしていた。社会に出て、知識不足を痛感している。
- ・ 人前で何かをするのは苦手だったが、それを克服できた。
- ・ もともと人見知りだった性格が、短大に入学してからは明るくなったと周囲に言われるようになった。
- ・ 実習記録を読み返して役立てている。実習生を迎える立場となり、助言の仕方を学ぶことができた。ピアノの楽譜は今も使っている。
- ・ 結果はどうであれ、いろいろと挑戦することの大切さを知った。
- ・ 仕事をしていると、教科書を見返すだけでは答えが出ないことが多々ある。そんなとき、先生方に質問しておけばよかったと思う。

社会人を正規の学生として入学させる制度は本学にはないが、「科目等履修生」制度を利用して毎年多くの社会人が図書館司書資格や小学校・幼稚園教諭免許、保育士資格（本学こども学科保育コース卒業生のみ）を取得している。なお、本学は開学以来外国人留學生の特別選抜は実施しておらず、今後もその予定はない。

科目等履修生の受け入れ状況は次の通りである。

	総人数	資格別人数 *(人)			
		図書館司書	小学校教諭	幼稚園教諭	保育士
平成 18 年度	65	10	38	10	
平成 19 年度	49	16	31	5	
平成 20 年度	40	15	22	6	
平成 21 年度	48	19	26	2	1
平成 22 年度	38	15	21	2	0
平成 23 年度	25	7	14	4	1

障がい者に対しては、2号館入口にバリアフリーのスロープをつけて車椅子で出入りできるように配慮し、短期大学部体育館1階には障がい者用トイレを設置している。弱視の

学生に対しては、授業配付資料の拡大・掲示物の配付・定期試験時間の延長など、学習上の配慮を行っている。

本学は地域に開かれた大学として積極的な地域貢献活動を行っており、学生の地域活動、ボランティア活動についても、学生自身の主体性の下で積極的に推進されることを期待している。こども学科では千葉県教育委員会が提唱する「教職・たまごプロジェクト」に参画して小学校でのボランティア活動を行う学生に「教育・保育ボランティアⅠ～Ⅳ」の単位認定をしている。

ボランティア活動をするという特別な意識はないものの、地域の子どもたちにスポーツを指導したり、老人ホームで簡単な手伝いをしたりといった活動は、この他にもかなり行われているのではないかと思われる。

なお、社会活動その他の分野で他の学生の模範となる活動を行った学生個人及び団体については、その活動を称えて奨励するために「とどろき奨励賞」という制度を設けている。詳細については、「選択的評価基準」での記載内容を参照されたい。

#### (b) 課題について

快適なキャンパスライフを過ごすことができるようにより一層の改善に努め、経済的な支援やメンタルヘルスケアの充実を期すること。

### 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている

#### (a) 現状について

教授会のもとに設置されている就職部会はビジネスライフ学科3名（就職部長を含む）、こども学科6名（就職副部長を含む）の教員で組織し、現今の就職状況について研究・調査・分析を行い、学生のキャリア意識の向上と就職支援のための企画・立案・実施に取り組んでいる。

事務局には大学と短期大学部を統合したキャリアセンターを設置し、平成22年度に相談員1名と企業の開拓専門職員1名を追加して、室長を含めた9名の職員で就職支援にあたっている。同センターでは、学生の一般就職の相談、求人企業の開拓、各種ガイダンス、資格取得等のための課外講座などを企画・運営し、学生のニーズに応じた就職支援を実施している。

平成21年度には、文部科学省の大学教育・学生支援推進事業で「模擬試験・就職対策講座などを活用したきめ細やかな支援システム（就職につながる知識の獲得とその向上を目的として就職模擬試験を実施し、その結果を踏まえてキャリアデザインの授業、各教員が担当しているゼミや総合演習、相談教員（こども学科）、キャリアセンターとが就職に関わる情報を共有しながら連携して支援活動を適切に指導する）」が採択され、これを契機として、適職探しの支援・指導の充実に努めている。

平成22年度からは、ハローワークと本学との連携による未内定者の就職支援という観点から、週1回、千葉ハローワークに相談員の派遣を依頼し、求人情報の紹介や就職アドバイスを実施している。また、企業の採用担当者と本学教職員及びキャリアセンターとの意見交換ないしコミュニケーションを図ることを目的とした情報交換会を開催している。

平成 18 年 9 月には、従来の「就職課」を「キャリアセンター」に改称した。同センターは、大学及び短期大学部における「就職部」の事務局としての機能を果たしており、また大学・短期大学部の「就職部会」と密接に連携しながら、入学時から学生のキャリア意識を育成するための支援を行っている。

一般就職や公務員を希望する学生の就職支援はキャリアセンター本室（大学校舎内）において、教職や保育士を希望することも学科の学生の就職支援は、短期大学部内に設置するキャリアセンター分室（こども学科専用）で行っている。

キャリアセンター本室には、室内に 4 台のパソコンを設置しており、インターネットを通じていつでも自由に就職情報や会社情報を収集できるように整備するとともに、DVD による会社情報の閲覧もできるように環境を整えている。公務員を希望する学生に対しては、公務員試験対策講座を開設して対応している。

また、分室では、2 名の職員によって公立・私立の幼稚園や保育所の雇用環境についての情報や採用試験情報などの収集・分析が行われ、教師・保育士への就職相談ができる体制を整えている。

なお、平成 21 年度には短期大学部内に新たにキャリア支援室を設置し、参考書（226 冊）、パソコン（3 台）、コピー機（1 台）を整備し、22 年度からは同室に職員を常駐させ、特にビジネスライフ学科の学生の就職や進学等について、いつでも身近に相談できるようにした。

短期大学は 2 年間という短い修学期間のなかでキャリア意識を向上させて、適職選択、就職決定へと繋げなければならないので、入学時から計画的に支援活動を遂行するように努めている。ビジネスライフ学科では「入学前教育」のプログラムに「就職をすること」という講話を組み入れて、キャリア意識をもって入学するよう促している。入学後には一般常識テストを実施し、「キャリアデザイン」や「基礎ゼミ」等の授業科目においてその結果を就職指導の参考資料として活用している。

一般企業への就職はビジネス領域の多様さも関わり、様々な志望を抱いて入学する学生の個々に適した将来設計のプランを作ることは極めて難しい。ビジネスライフ学科ではカリキュラムの中核に「キャリアデザイン」の授業を置き、5 つの専門フィールドと図書館司書課程を通じて自らの進路を探る教育課程の編成に努めている。1 年次の 10 月中旬には「就職活動スタートセミナー」を実施し、企業の採用担当者から企業情報、採用情報についての講話、2 年次生の就職内定学生から具体的な就職活動についての経験談を聞き、就職活動のスタートを切る機会を設定している。

こども学科の「入学前教育」では教師・保育士として採用されるまでの 2 年間の道筋を示し、入学後は早々に基礎学力テストを行って、教師・保育士に必要な教養を幅広く身につけることの重要性を意識させている。その後は個別相談を随時行って、保育実習・教育実習と連携させながら卒業後の進路を描かせている。

10 月中旬に行われる「就職活動スタートセミナー」では、幼稚園の園長の講話や幼稚園・保育所・小学校で活躍している卒業生から就職が決定するに至るまでの体験談を聞く機会をつくり、就職への意識高揚に努めている。その頃になると学生は居住地近辺の幼稚園や保育所などに足を運んで観察したり、採用試験の過去問題を確認したりする姿が見られるようになってくる。学生のそのような変容をとらえて、公立保育所・公立幼稚園の試

験対策講座や論作文講座などを開催して支援の強化に努めている。

2年次になると、教育委員会の担当者による小学校教員採用に関する説明会の開催、模擬試験や願書の書き方の指導など、採用試験の実際に関わる指導の機会が適宜設けられる。幼稚園・保育所などの求人情報の入手、受験の手続き、必要書類の申請等についても必要に応じてきめ細かい対応に努め、採用試験では面接の比重が高いことを踏まえて、模擬面接による指導に時間をかけている。なお、学生には職場になじむことができないことを理由に退職を安易に選択せず、もし勤務上の悩みが生じた場合には早期にキャリアセンターに一報を入れて相談するように指導している。

ビジネスライフ学科の就職支援については、以下のような年間計画に沿って教職員が連携を取りながら実施し、専門的なプログラムには学外の適任者を招いて支援を行っている。

学年	時期	学内での支援および就職活動の流れ	内 容
1 年 次	4月	就職ガイダンス	入学時から卒業後の進路を考える
		就職常識テスト	入学時
	前期	キャリアデザインⅠ	必修授業 キャリアプランニングとは何か 社会・企業とのかかわり 自己分析・職業観など
	6月	個人面談	入学時の学力検査の結果を踏まえ、ゼミの教員と面談しながら在学中の計画を立てる
	後期	キャリアデザインⅡ	必修授業 キャリアプラン・自己分析 履歴書の書き方指導 就職心得と面接マナー グループディスカッションなど
		総合ビジネス教養	基礎学力向上と採用試験に向けてSPⅠの対策
	10月	就職活動スタートセミナー	企業人事担当者の講話 内定学生の体験発表など
		進路登録カードの提出	在学生全員
	11月	個人面談	ゼミ教員およびキャリアセンター職員による学生個人の進路に合わせた指導
	12月	各種就職サイトグラウンドオープン	各種就職サイトエントリー開始
	1月中旬	採用直結会社説明会スタート	順次参加
	2月	採用試験スタート (内定決定まで)	書類選考・筆記試験 面接・身体検査など

		就職模擬検査	就職能力試験・就職常識試験 就職適性診断 他
		就職対策講座	履歴書・エントリーシートの書き方 面接練習など
		学内会社説明会	企業人事担当者との面談
2 年 次	4月	就職活動指導・適職指導	
	前期	キャリアデザインⅢ	選択科目 前半は面接練習を中心に、後半は社会人になるうえの心構えなど
	以降 随時	個人面談	ゼミ教員およびキャリアセンター職員による面談
		内定	内定報告書の提出
		結果報告	受験報告書の提出

上記のプログラムのほかにも、授業科目やゼミのなかで就職の現況や企業について情報を適宜提供し、学生のニーズに応じたガイダンスを実施している。

就職（進路）に関して実施してきたさまざまな支援の評価を確認するために、平成 21 年度から卒業直前の学生にアンケート調査を実施し、その回答の結果を次年度の計画に活かすように努めることにした。23 年度の結果は下表のとおりである。

実施時期	内 容	評価および割合(%)
1年 4月	入学時学力試験	役立った(19.5%) 普通(70.7%) 役立たなかった( 9.8%)
1年 前期	キャリアデザインⅠ	役立った(63.5%) 普通(35.3%) 役立たなかった( 1.2%)
1年 後期	キャリアデザインⅡ	役立った(63.1%) 普通(35.7%) 役立たなかった( 1.2%)
1年 10月	就職活動スタートセミナー	役立った(45.9%) 普通(49.6%) 役立たなかった( 4.5%)
1年 秋	自己分析・表現力UPセミナー	役立った(65.4%) 普通(34.6%) 役立たなかった( 0.0%)
1年 秋	就職サイトの使い方&エントリー会	役立った(43.6%) 普通(52.6%) 役立たなかった( 3.8%)
1年 秋～冬	リクルートメイク講習	役立った(73.1%) 普通(26.9%) 役立たなかった( 0.0%)
1年 2月	学内会社説明会	役立った(44.4%) 普通(51.9%) 役立たなかった( 3.7%)
1年 2月	SPI 対策講座	役立った(40.0%) 普通(54.3%) 役立たなかった( 5.7%)
1年 2月	面接練習・自己表現・履歴書・エントリーシートの書き方講座	役立った(59.7%) 普通(38.9%) 役立たなかった( 1.4%)

2年 前期	キャリアデザインⅢ	役立った(58.2%) 普通(39.5%) 役立たなかった( 2.3%)
2年 前期	学内会社説明会	役立った(52.6%) 普通(43.9%) 役立たなかった( 3.5%)
在学中	キャリア支援員(キャリア支援室)による面談	役立った(67.6%) 普通(28.2%) 役立たなかった( 4.2%)
在学中	ゼミ教員による面談・相談	役立った(54.3%) 普通(43.2%) 役立たなかった( 2.5%)
在学中	キャリアセンター職員による各支援(求人斡旋・相談・書類作成等)	役立った(62.5%) 普通(36.1%) 役立たなかった( 1.4%)
在学中	FP検定試験講座	役立った(52.9%) 普通(47.1%) 役立たなかった( 0.0%)
在学中	秘書技能検定 準1級面接練習	役立った(100.0%) 普通( 0.0%) 役立たなかった( 0.0%)
在学中	簿記検定試験講座	役立った(83.3%) 普通(16.7%) 役立たなかった( 0.0%)
在学中	ビジネス文書検定講座	役立った(100.0%) 普通( 0.0%) 役立たなかった( 0.0%)

このアンケート結果によると、1年次における就職支援(「入学時の学力試験」から「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」「就職試験スタートセミナー」「学内会社説明会」「エントリーシート書き方」等に至るまで)の評価は、「役に立った」「普通」という評価が90%を超えている。就職支援は学生のニーズに添って行われていると判断したい。

2年次の就職支援においても、それぞれの支援活動が90%以上の評価を得ている。下記の自由記述による回答を見ると、「キャリアデザイン」の授業とキャリアセンターの職員の親身な支援に学生は感謝しているようである。それにしても、就職状況を好転させなければならぬので、全力を挙げて学生の期待に応じていきたい。

学生が高く評価する点は、以下のとおりである。

#### ●キャリアデザイン

- ・キャリアデザインの授業 (9)
- ・キャリアデザインは苦手な授業だったけれども役立つことを学べた
- ・キャリアデザインの先生の発言や相談 (2)
- ・毎回のグループディスカッションの練習が対策になった

#### ●キャリアセンター職員および教員の支援

- ・キャリアセンターおよびキャリア支援室での面談や支援 (18)
- ・キャリア支援室の環境や先生が話しやすく相談しやすかった (14)
- ・ゼミ教員による面談 (2)
- ・進路以外にもいろいろと相談することができて良かった

#### ●ガイダンス等

- ・履歴書の書き方を詳しく教えてもらえて良かった (2)
- ・就職試験直前の各ガイダンス

- ・ 学内会社説明会 (3)
- ・ SPI 対策講座 (2)
- ・ 自己分析・表現力 UP セミナーは少人数でより深く出来て良かった
- ・ リクルートメイク講習 (2)
- **その他**
- ・ 全体をとおして、いろいろな先生方や支援員の方に相談の乗っていただけなのが、とても心強かった (2)
- ・ 定期的に就職活動を意識させるような内容があったのは良い
- ・ 知らないことを知ることができた

在学中にしてほしかった就職(進路)支援については、以下のような回答があった。もっともと思われる指摘があるので、検討して対応に努めたい。

- ・ 就職支援は必要ないと感じる。短大は大人なので、自分の就職先やこれからの事は自分で選択して決めれば良いと思う
- ・ 長期間の就職試験対策
- ・ もっと SPI 対策を増やすと良い
- ・ 業種、職種の紹介 ◆キャリアデザイン I の授業で対応済み◆
- ・ 作文の見直しをしてほしかった
- ・ 公務員用の面接練習を増やしてほしい ◆公務員試験対策講座で対応済み◆
- ・ 千葉、東京以外の就職を希望している人対象のガイダンス
- ・ 千葉市以南地域の就職支援
- ・ 面接練習を増やしてほしい (2)
- ・ 学内会社説明会をもっとしてほしい
- ・ SPI の授業 ◆総合ビジネス教養で対応済み◆

以上とは別に、就職（進路）支援について以下のような指摘がある。

- ・ キャリアセンター職員やゼミの先生にたくさん話を聞いてもらえました。その温かいご支援が内定につながったのだと思います。本当にありがとうございました。
- ・ 各地域のハローワークとも連携した地元就職者用の指導が欲しかった  
◆ハローワークと共同で求人紹介のセミナー開催で対応済み◆
- ・ 各講座やセミナーが授業や資格講座と時間が重ならないようにしてほしい
- ・ もっと求人が欲しい
- ・ 自己分析のセミナーはもっとたくさんしても良いと思う
- ・ キャリア支援室の混雑改善をお願いしたい。一層強化していただきたい。

一方、こども学科の就職支援は、次のような年間計画に沿って行っている。

月	プログラム	内容
<b>1 年 次 生</b>		
4 月	進路ガイダンス (2 ヶ年の方針・ガイドブック配布) 個別試験	就職の状況、進路決定、2 年間の就職対策について 個別学力試験
5 月	個別面談	相談教員との面談
6 月	第 1 回就職セミナー (小学校希望者)	採用試験の内容について 計画的な勉強の仕方
7 月	第 2 回就職セミナー (幼稚園・保育所等希望者) マナー講座	公立および私立の受験対策について 社会人としての一般常識・マナーについて
10 月	就職活動スタートセミナー (先輩の声・園長先生等採用者による講演)	具体的な採用の条件と試験の実際 各職場で活躍する先輩からのアドバイス
11 月	公立受験対策講座 (～12 月)	一般教養・作文の指導
12 月	作文指導	業者による作文添削指導
1 月	小論文対策講座 採用試験対策特別講座 (教員採用試験・保育士採用試験・私立受験)	具体的な進路に向けて 小学校・公立幼稚園・公立保育所 私立幼稚園・私立保育所
<b>2 年 次 生</b>		
4 月	第 1 回就職ガイダンス (進路に応じた就職の取り組み) 就職個人面接 教育委員会担当者による講演	2 年次生になっての具体的な就職活動とその対策について 相談教員との面談 千葉県の教員採用試験について
5 月	第 1 回就職セミナー (幼稚園・保育所) 個人指導 (願書の書き方) 模擬試験 (小学校・幼稚園・保育所)	進路の決定・進路一覧の作成 小学校・公立幼稚園・保育所・施設等の願書の書き方指導 業者による模擬試験 (希望者)
6 月	個人指導 (採用試験面接指導)	
7 月	第 2 回就職セミナー (幼稚園・保育所) (面接指導・求人票の見方・夏休み中の情報) 各種講座の紹介	求人情報の入手、受験の手続き・方法等について
8 月	個人指導 (採用試験面接実技指導)	
10 月	第 3 回就職セミナー (幼稚園・保育所) 進路希望調査・個別指導	教育実習後の進路調査 面接・実技
11 月	受験対策指導 個別指導	提出書類記載・面接・実技指導
12 月	求人情報・個別指導	提出書類記載・面接・実技指導
1 月	就職内定調査・求人情報・個別指導	提出書類記載・面接・実技指導
2 月	第 2 回就職ガイダンス (最終進路調査) 個別指導	進路一覧作成 卒業後の就職連絡の有無
3 月	個別指導	

1年次の7月に実施するマナー講座では、幼稚園園長などから教育実習生に求められるマナーや保護者に好印象をもたれるマナー等について講話がある。公立受験対策講座（11月以降）では一般教養の問題に立ち向かうために広く知識を養うための勉強法を、また採用試験対策特別講座（1月）では筆記試験に向けての勉強法を、そして作文指導（12月）と小論文対策講座（1月）では自分の意見を論理的に記述するための指導を行っている。

上表に掲げられたプログラムとは別に、授業科目として「教育学演習」「社会科教育演習」「指導要領・教育要領演習」「論文演習」「理科総合演習」が開設され、受験対策を兼ねながら教養を広げる機会として活かされている。

ビジネスライフ学科では、平成13年度から職業観や就職観を養うために「インターンシップ」を選択科目として開講した。企業などで行う就業体験は、仕事や企業に対する理解を深めさせるとともに実社会への対応力を身に付けさせ、キャリアデザインを明確にするうえで非常に大きな意味をもっている。インターンシップ体験に赴く前には、エントリーシートの書き方や企業調査、ビジネスマナー、グループディスカッションについての指導を行い、実施後には報告書を作成させて実習報告会や座談会を開催するなど、その貴重な体験を就職活動に活かすようにさせている。

平成23年度のインターンシップでは、35名の学生が以下の23の企業と団体で実習を行った。

平成23年度インターンシップ先

千葉県庁	(財)千葉県産業振興センター
銚子市役所	千葉県がんセンター
トヨタカローラ千葉(株)	千葉経済大学総合図書館
(株)千葉ロッテマリーンズ	四街道市立図書館
東葉高速鉄道(株)	千葉県立中央図書館
千葉県信用保証協会	我孫子市民図書館 アビスタ本館
(財)ちば県民保健予防財団	市原市立中央図書館
ちば興銀コンピュータソフト(株)	(株)ハミルトン
(株)JTБ 法人東京	JFE スチール(株)
(株)幕張メッセ	現代産業科学館
NPO 法人 千葉自然学校	米屋(株)
(株)三省堂書店	

過去3年間のインターンシップ参加者数は、平成21年度36名、22年度17名、23年度35名で、24年度は51名が希望している。

インターンシップを終えて書かれた報告書の中から、学生の意識の変容についての記述を次に掲げる。

- ・ アパレル関係は華やかなイメージですが、実際は肉体労働も多くて大変な仕事であることを知った。
- ・ 相手のことを考えて動くことの大切さや笑顔で接することで相手も変わることを感じ

た。

- ・挨拶できるようになり、気持ちが前向きになり、仕事にも積極的になれた。
- ・自分の長所・短所を知ることができ、長所をさらに伸ばし短所は改善しようと思った。
- ・就活に対するモチベーションが高まり、セミナーなどに積極的に参加しようと思う。
- ・これまでテレビ欄しか見なかったのが、経済欄も読むようになった。
- ・社会人になってもやっぱり勉強は続けなければならないことを知りました。
- ・障害者サービスを実際に体験する機会があり、障害者サービスの大切さを実習できたことは大きな収穫でした。
- ・就活時の競争相手は四大生であることを再認識しました。
- ・インターンシップをとおして、何か地域に貢献できるような仕事に就きたいという思いが芽生えてきたことは収穫でした。
- ・初対面の人たちにも、少しずつ自分の意見を言えるようになったのは成果であり、貴重な体験でした。
- ・「形から入る」というスーツ着用はよいと思います。
- ・敬語・マナー・コミュニケーション能力・そしてパソコンや文書の書き方などの必要性を実感した。
- ・接客や裏の仕事など、いろいろな場面に接して勉強になった。

この就業体験はアルバイトと大きく異なって、一つの仕事を遂行する背後に働いている「プロとしての意識」を学生に実感させる。インターンシップに参加するにあたって、ある学生は「何度か事前に会社を見学に行って、職場の雰囲気やどのような服装で勤務しているか確かめた」と語る。WEB ページで会社の状況をいろいろと調べて出向いたとも述べる学生もいる。このような心構えをもって臨むことになる就業体験である。

受け入れ先の都合で4日から7日という短い期間に限られるが、会社を外側から見ていたこれまでの立場から内側に入ってお客様と接する立場が変わることで、表から見ていたのとは異なる別の流れがあることを肌で知り、大学での勉学に臨む姿勢が根底から変わってくる。インターンシップのかけがえのない意義がここにある。

こども学科の教育実習・保育実習は、ビジネスライフ学科のインターンシップと同じ意義をもつ、教員養成・保育士養成の核となる体験学習の機会である。同学科の教育実習は小学校と幼稚園に分かれて2年次の9月に4週間の日程で実施され、平成23年度の実習校は小学校8校、幼稚園121園である。一方の保育実習は保育所と施設において2週間の単位で実施され、時期は1年次の2月、3月と2年次の6月の3回で、23年度の卒業生の実習先は2月は保育所118園、3月は施設77園、6月は保育所78園、施設28園であった。学生は大学での座学と実習での体験を重ねながら教育や保育についての理解を深め、教育者、保育者としての意識を高めている。

教育・保育実習の体験は、実習記録集『ひろはら』にまとめられ、実習後指導の総括を行う役割を果たしている。「教育実習記録集『ひろはら』を核とした教員養成」は平成17年度の特徴ある大学教育支援プログラムに採択され、同記録集に関わる教育活動はその意義が認められた。実習を終えた学生に対しては毎年度意識調査を行い、その結果は『ひろはら』に収録されて公表されている。

「意識調査」の内容は、小学校・幼稚園・保育所の実習生で若干の表現は異なるが、次の8項目で行われている。

- (1) あなたは教育実習（保育実習）にどのような心構えで臨みましたか。そのためにどのような準備をしましたか。
- (2) 教育実習（保育実習）を終えた今、就職に対する志望は次のいずれにあたりますか。また、その理由は何ですか。
  - A どうしても教職（保育職）に就きたい。
  - B 教職（保育職）に就きたいが、場合によっては他の職業でよい。
  - C 教職（保育職）でも他の職業でもどちらでもよい。
  - D 教職（保育職）以外の職業に就きたい。
- (3) 教育実習（保育実習）を終えた今、子どもの見方はどう変わりましたか。
- (4) 教育実習（保育実習）を終えた今、教師（保育士）に対する考え方はどう変わりましたか。
- (5) 実習前に大学において指導してほしいことはどんなことですか。
- (6) 教育実習（保育実習）を終えて、どんな問題を感じましたか。
- (7) 実習後、どんなことを研究していきたいと考えていますか。
- (8) 教育実習（保育実習）を終えて印象に残ったこと、感じたこと、いろいろとあると思います。思いのままに書き綴ってください。

上記（2）項に対する直近3年間の回答結果を以下に示す。

(A~D %)	平成 21 年度			平成 22 年度			平成 23 年度		
	小	幼	保	小	幼	保	小	幼	保
A どうしても教職に就きたい	78.6	42.3	33.0	63.6	46.2	33.6	93.4	37.2	31.2
B 教職に就きたいが、場合によっては他の職業でよい	16.7	40.0	41.0	27.3	28.6	39.1	3.3	35.8	44.5
C 教職でも他の職業でもどちらでもよい	4.7	9.2	15.0	9.1	19.3	21.9	3.3	22.6	19.5
D 教職以外の職業に就きたい	0.0	8.5	11.0	0.0	5.9	5.4	0%	4.4	4.8
実習生総数	42	130	91	33	119	128	30	137	126

実習を経験して「どうしても教職に就きたい」と考える学生は、小学校実習者には圧倒的に多いが、保育所実習者は30%台に留まっている。保育所での保育士の仕事を目の当りにして、その大変さを痛感してのことであるかもしれない。A・B合わせての数値を見ると、やはり小学校実習者の思いはもっとも強く90%台に達しているが、幼稚園・保育所実習者は70%台に留まっている。それでも幼稚園教諭・保育士をみざす思いは捨てきっていないようである。そのことは、卒業後の就職状況から明らかである。

なお、幼稚園実習者について見ると、上記の数値は平成21年度には82%を示しているが、23年度には73%まで落ちている。この数値は単年度の特有のものであるのか、それとも幼保一体化で総合こども園が設置される動きの影響で、状況を見守りたい。

教育実習で学生が何を学んでくるかは、資質を磨く基礎教育が充実して行われているかどうかでかなり左右される。本学科は実地に学ぶ力を身につけさせて実習に臨ませ、実習後にはその実践力をどのように磨いていくかに力を注いでいる。教育実習を核に置いた教員養成が本学科のモットーである。

平成 23 年度に実習を行った学生が意識調査のなかで書き記す、実習体験をとおして学んだことを以下に列挙する。

- ・教師はその子にしかないものを活かすことが役割と感じた。
- ・悪さをする子どもであっても、根本は素直でまじめな部分をたくさんもっていることを知った。
- ・勉強のできる子どもでも意外と知らない知識もあって、一概に判断できないと感じた。
- ・子どもに伝えたくても伝えきれない、自分の言語力の低さを知った。
- ・たくさんの子どもが輝くことのできる指導をしたい。
- ・子どもたちからの言葉に助けられ、嬉しい言葉ももらった。
- ・クラス全員で一つのものを作り上げる喜びを感じた。
- ・昨日できたことでも今日できるとは限らない。毎日の変化を見ることができた。
- ・思ったことをすぐに口にしたり行動したりするところに純真さを感じた。
- ・子どもの発想が豊かだったので、さらに多くの幼児の考えを聞きたいと思った。
- ・降園後も電話で子どもの健康状態に気を配っている教師の姿があった。
- ・間違えることを恐れずに積極的に指導することの重要性を知った。
- ・職員室でも子どもの成長を喜ぶ先生たちから、本当に子どもを思う気持ちが伝わってきた。
- ・子どもが今どう思っているのかを考え、保育者の目線で接するようになった。
- ・子どもと誠実に向き合い、自分の思いをしっかりと伝えれば、子どもは理解してくれることを知った。

実習で感じ取ったこのような思いをもちつづけてその資質をのばし、教育・保育の仕事に突き進むことを期待したい。実習記録集を「ひろはら」と銘打ったのは、教育・保育のはてしない「ひろはら」に学生が第一歩を踏み入れた足跡が記録されていると認識してのことである。

ビジネスライフ学科では資格取得に力を入れている。授業科目で資格取得を目標としているのは簿記検定、秘書技能検定、ビジネス文書検定、日商 PC 検定、ファイナンシャル・プランニング技能士検定、ファッションビジネス能力検定、ファッション色彩能力検定、ファッション販売能力検定の 8 検定である。そのうち簿記検定、ビジネス文書検定、ファイナンシャル・プランニング技能士検定については、特別講座も開設して検定合格に備え、資格取得数は増加している。

就職試験対策としては、履歴書・エントリーシートの書き方講座・公務員試験対策講座を設け、「総合ビジネス教養」の授業では「SPI 試験対策」を意識した指導を組み入れている。平成 22 年度から資格取得奨励金制度を設けて、高度の資格取得に積極的に取り組

むことを奨励している。同制度の概要は次のとおりである。

### 千葉経済大学短期大学部 資格取得奨励金に関する定め

本学学生の資格等の取得を奨励するため、本学が定める資格等に対して、在学中に受験し取得した場合は、下記のとおり奨励金を支給する。

- (1) 受験料  
受験に要した受験料・全額
- (2) 資格取得奨励金  
原則として、取得した資格に応じて、A・B・Cの3ランクに分けて支給する。  
Aランク・・・5万円  
Bランク・・・3万円  
Cランク・・・1万円

#### 対象資格等

資格等名	Aランク	Bランク	Cランク	備考
国家公務員採用試験	Ⅱ種			
地方公務員採用試験 (都道府県及び政令指定都市)		中級 資格免許 職	初級	(小学校教諭)
地方公務員採用試験 (上記以外)			中級 資格免許 職	(一般市町村職員) (幼稚園教諭・ 保育士)
簿記検定(日商)	1級	2級		
秘書技能検定	1級	準1級	2級	
ビジネス文書検定	1級	2級		
日商PC検定(文書)		1級	2級	
日商PC検定(データ)		1級	2級	
販売士(日商)	1級	2級	3級	
ファウンショナル・プランニング技能士	1級	2級	3級	
ファッションビジネス能力検定		1級	2級	
ファッション色彩能力検定		1級	2級	
ファッション販売能力検定		1級	2級	
日本漢字能力検定	1級	準1級		
TOEIC	730～	600～	470～	
実用英語技能検定	1級	準1級	2級	
ITサポート試験			○	旧初級システム アドミニスト レータ
シスコ技術者認定試験 (CCNA)		○		
【SJP-S】sun認定 JAVAプログラマ試験		○		

平成21年度以降の公務員合格者数と資格試験の合格者数は次表のとおりである。なお、資格取得奨励金の対象資格は網掛けで示している。

資格等名	級	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
国家公務員採用試験	Ⅱ種	0	0	0
地方公務員試験	中級	0	0	0
	資格免許 職			
	小学校	2	1	2
	幼稚園 保育所	0 8	1 0	0 6
	初級	0	2	0
簿記検定（日商）	1級	0	0	0
	2級	0	4	1
	3級	8	3	9
秘書技能検定	1級	0	0	0
	準1級	1	2	4
	2級	33	26	31
	3級	75	63	43
ビジネス文書検定	1級	0	0	0
	2級	2	3	3
	3級	0	0	2
日商 PC 検定 （文書作成）	1級	0	0	0
	2級	5	7	4
	3級	32	10	26
日商 PC 検定 （データ作成）	1級	0	0	0
	2級	3	0	2
	3級	6	3	5
販売士（日商）	1級	0	0	0
	2級	0	0	0
	3級	0	0	0
ファッション・プランニング 技能士	1級	0	0	0
	2級	1	2	0
	3級	7	8	5
ファッションビジネス能力検定	1級	0	0	0
	2級	4	7	1
	3級	21	18	5
ファッション色彩能力検定	1級	0	0	0
	2級	3	1	7
	3級	17	3	15
ファッション販売能力検定	1級	0	0	0
	2級	6	5	3
	3級	20	22	9
日本漢字能力検定	1級	0	0	0
	準1級	0	0	0
TOEIC	730～	0	0	0
	600～	0	0	0
	470～	0	0	0
実用英語技能検定	1級	0	0	0
	準1級	0	0	0
	2級	0	0	0
ITサポート試験		0	1	0
シスコ技術者認定試験 (CCNA)		0	0	0
【SJP-S】sun 認定 JAVA プログラム試験		0	0	0
リトミック	1級	34	59	65
	2級	52	13	8
レクリエーション・インストラクター		49	34	62

上表の最下段にあるように、こども学科では小学校・幼稚園・保育士の資格取得のほかに、「リトミックⅠ・Ⅱ」の単位取得によってリミック指導資格２級・１級が取得できる。また、「レクリエーション概論」「レクリエーション実技」の単位取得によって、レクリエーション・インストラクターの資格取得ができ、かなりの数の卒業生が取得した資格を就職後に活かしている。上表にはないが、児童指導員・社会福祉主事の任用資格も指定された科目の履修によって、その道が開かれていく。

司書課程を履修して図書館司書資格を取得した学生数は、次のとおりである。

	ビジネスライフ学科	こども学科	合計
平成 21 年度	19	1	20
平成 22 年度	16	6	22
平成 23 年度	24	3	27

両学科の就職状況は下表のとおりである。

【ビジネスライフ学科】

	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	
	人数 (人)	割合 (%)								
卒業者 (a+b+c+d)	161	100.0	144	100.0	128	100.0	147	100.0	111	100.0
就職希望者 (a+b)	133	82.6	98	68.1	110	85.9	131	89.1	83	74.8
内定者(a)	119	73.9	85	59.0	68	53.1	89	60.5	75	67.6
未定者(b)	14	8.7	13	9.0	42	32.8	42	28.6	8	7.2
進学者(c)	5	3.1	9	6.3	2	1.6	1	0.7	4	3.6
その他(d)	23	14.3	37	25.7	16	12.5	15	10.2	24	21.6

業種別就職状況は下記のとおりである。

	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
農業・理業						
漁業						
鉱業・採石業・砂利採取業						
建設業	3	4.4	2	2.3		
製造業	8	11.7	10	11.2	6	8.0
電気・ガス・熱供給・水道業	1	1.5			1	1.3
情報通信業	1	1.5	1	1.1		
運輸・郵便業	2	2.9	2	2.2	3	4.0
卸・小売業	24	35.3	32	36.0	23	30.6
金融・保険業	4	5.9	2	2.2	5	6.7
不動産・物品賃貸業	1	1.5	6	6.8	8	10.7
学術研究・専門・技術サービス業			3	3.4	5	6.7
宿泊・飲食サービス業	2	2.9			3	4.0
生活関連サービス・娯楽業	7	10.3	7	7.9	3	4.0
教育・学習支援業	3	4.4	1	1.1	2	2.7

医療・福祉	7	10.3	12	13.5	6	8.0
複合サービス事業	1	1.5	2	2.2	1	1.3
サービス業	4	5.9	8	9.0	6	8.0
公務			1	1.1		
その他					3	4.0
合計	68		89		75	

ビジネス領域の職業選択に向けた指導は大変に難しい。職業意識をもって入学してくる学生は極めて少ないので、1年次前期の「キャリアデザイン」の授業では就職意識のモチベーションを高めながら明確なデザインを描かせることを授業の主眼に置いている。

近年、ビジネスの種類を企業名や業種、業態等によって区分することはきわめて難しくなっており、学生に人気のある業種・業態も、従来の金融業特に銀行業から、流通、生活関連サービス、医療福祉、接客業など多様化する傾向が見受けられる。この動向は今後も変わることはないものかどうか慎重に見極め、学生の就職ニーズに即した就職支援を行ってきたい。

### 【こども学科】

	平成 19 年度		平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	
	人数 (人)	割合 (%)								
卒業者 (a+b+c+d)	195	100.0	193	100.0	174	100.0	176	100.0	182	100.0
就職希望者 (a+b)	169	86.7	173	89.6	162	93.1	155	88.1	159	87.4
内定者(a)	166	85.1	172	89.1	162	93.1	155	88.1	153	84.1
未定者(b)	3	1.5	1	0.5	0	0.0	0	0.0	6	3.3
進学者(c)	12	6.2	4	2.1	3	1.7	6	3.4	12	6.6
その他(d)	14	7.2	16	8.3	9	5.2	15	8.5	11	6.0

業種別就職状況は下記のとおりである。

	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度	
	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)	人数 (人)	割合 (%)
小学校教諭 (学童含む)	14	8.7	5	3.2	10	6.5
幼稚園教諭	68	42.0	78	50.3	71	46.4
保育士	60	37.0	48	31.0	44	28.8
福祉	10	6.2	13	8.4	9	5.9
事務職	0	0.0	3	1.9	8	5.2
販売職	8	4.9	6	3.9	4	2.6
その他	2	1.2	2	1.3	7	4.6
合計	162		155		153	

こども学科の就職支援は、子どものことを学び、子どもに関わる仕事がしたいと思って入学してきた学生たちの夢を叶えることである。保育士希望者に対しては、できる限り公

立保育所勤務ができるように、市町村の採用試験情報や試験問題を公表して、多くの学生がチャレンジして合格することを目途として各種対策講座を開講している。

教育実習や保育実習を経験して「教員には向いていない、子どもと関わらない仕事のほうが合っている」と感じる学生が毎年出てくるので、教職以外の職種についてもひろく紹介している。「子どもは好きだが保育することには向かない」と感じた学生には、子供服の販売やおもちゃ、玩具関係の会社など、間接的に子どもと関わる仕事もあることを伝え、数は少ないがその進路を選択する者もいる。

実習を終えて「小学校教員として責任をもって職務を全うする自信がない」と感じる学生には、学童保育の指導員の道を紹介し、その経験を重ねるなかで小学校教師を希望することになれば、その時点で教員採用試験に挑戦するように指導している。幼稚園、保育所の仕事に不安感を抱く学生には、その補助的な仕事や延長保育の仕事を紹介している。

編入学については入学時のガイダンスで説明し、さらに9月と12月にもガイダンスを実施し、希望者には各大学の特徴や入試内容（指定校推薦も含む）を伝えて支援している。千葉経済大学への編入学については1年次の3月に志望者の学内選考を行い、学業に心配のない学生には検定料と入学金を免除して編入学を認めている。編入学を希望する学生は下記のように激減している。

	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
	人数(人)	人数(人)	人数(人)	人数(人)	人数(人)
千葉経済大学への特別編入	0	4	0	0	0
千葉経済大学への一般編入	2	2	0	0	1
他大学への編入	5	3	2	2	4

## (b) 課題について

幼稚園教諭・保育士の就職は毎年度ほぼ 100%に達しているが、ビジネスライフ学科の就職状況は芳しくないので、キャリアセンターの機能を強化するとともに、学科として真剣に就職支援に取り組むこと。

## 基準Ⅱ-B-5 入学者受入れの方針を受験生に対して明確に示している

### (a) 現状について

学生募集要項には、「入学者受入れの方針」を示し、A0 入試、推薦入試、一般試験入試の入試区分毎に、推薦受験、試験科目、選抜方法などを明示している。

受験の問い合わせに対しては、入試広報センターが窓口となって適切かつ丁寧に対応している。センターの職員7名（短期大学部3名、大学4名）は、窓口での広報・入試業務を行うとともに、高校訪問や進学相談会の要請に対応している。

本学の入学者選考では、A0 入試、推薦入試（指定校・一般・特別）、一般試験入試が実施されている。入学試験問題の作成、管理、採点にあたっては、文部科学省通知「入学者選抜における出題・合否判定ミスの防止について」の徹底に努めている。面接試験については、試験のたびに「面接委員事前打合せ」を開催し、実施方法・評価のポイント・留

意事項などについて確認を行うとともに、面接委員の意思統一を図り、公正かつ正確に実施するように努めている。

入学手続き者を対象に「入学前教育」を12月から2月にかけて3回実施している。その目的は高校から短期大学への学習ならびに学園生活に関する移行を円滑にするとともに、入学後の教育効果を高めることである。ビジネスライフ学科の入学前教育では①入学までの期間の活用法（勉学や生活に関して）の講述、②本学での学習や生活のガイダンス、③本学科の授業の体験的学習、④友人関係の構築を促すための機会の提供（自己紹介や各種のゲーム）などを行い、こども学科では、①教員免許と保育士資格取得、就職試験、②本学での学習の仕方、③キャンパスライフについての講述があり、文章作成能力向上講座と教師・保育職のためのピアノ入門講座を実施している。

入学者に対するオリエンテーションは、毎年度、4月初頭に実施し、教務部、学生部、就職部の教員が中心となって担当し、履修方法、学生生活、就職活動などについて、入学式を挟んで3日間にわたり詳細かつ具体的に説明している。同時期に両学科は「新入生歓迎会」を開催し、入学者が学園生活に速やかに適応できる機会を提供している。

**(b) 課題について**

入学前教育の重要性が増してきている状況に鑑み、高校生活から大学生活への橋渡しを適切に行い、入学時から意欲的に勉学に励めるようにその教育の充実を図ること。

**基準Ⅱについての特記事項**

入学試験にあっては学業特待生の制度を設け、向学心のある入学生を優遇して在学中心置きなく勉学に励ませるとともに、特待生と学ぶことで一般学生に向学心が芽生え、キャンパスが活気づくように努めている。過去3年間の学業特待生数は以下のとおりである。

入学後に各年度で学業成績が特に優れた学生には、その年度の授業料を半額返還する制度もあって、過去3年間では下表の数の学生がこの榮に浴している。

**【入学試験時の学業特待生】**

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
ビジネスライフ学科	2	1	2
こども学科	4	1	9
合 計	6	2	11

**【入学後の学業成績が特に優れていることによる学業特待生】**

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
ビジネスライフ学科	1 年次生	2	2	2
	2 年次生	2	2	2
こども学科	1 年次生	4	4	5
	2 年次生	4	4	4
合 計		12	12	13

### 基準Ⅲ 教育資源と財的資源

#### (a) 基準Ⅲの要約

人的資源としての教員組織は「教育課程編成・実施の方針」に沿って構成され、専任教員は短期大学設置基準の示す必要数を超えて配置し、両学科の専門教育を担っている。専任教員の採用・昇任は「教員資格審査規程」に基づいて厳格な審査にて決定し、教員の研究活動はホームページで公表するとともに、さまざまな規程を整備して研究助成に努めている。FD活動としては、教育力をみがくために授業事例研究会と相互授業参観を恒例化している。

事務局組織は大学・短大を統合した組織に改組し、学務課以外は一本化してその効率化と合理化を図り、事務職員はSD活動の機会を活用して研鑽に努めている。教職員の就業に関する規程は「千葉経済大学短期大学部規程集」に整備して周知され、規程に則った勤務に従事している。

物的資源としての校地・校舎面積はいずれも短期大学設置基準を十分に満たしており、運動場・体育館・講義室・演習室・実習室・図書館等の学習環境も「教育課程編成・実施の方針」に基づいて適切に整備されている。コンピュータシステムも十分に整備され、セキュリティ対策に万全を期している。火災・地震・防犯対策は定期的に点検、訓練を行い安全・安心に努めている。情報システム資源については、平成16年にコンピュータネットワークの再構築を行い、光ケーブルで連結して高速化（1ギガ）を実現するとともに、プロバイダーへのネットワークも高速化を図って利便性を大幅に向上させている。

財的資源としては、短期大学部門の資金収支はやや減少しながらも黒字の状態に推移し、消費収支もほぼ収支均衡の状態に推移している。教育研究費は帰属収入の20%を超え、教育研究用の施設設備及び学習資源についての資金配分も適切である。定員充足状況はビジネスライフ学科で芳しくないため、その状況に相応した財務体質の維持に努めている。

両学科の将来像については、社会や時代の要請を見据えながらそれぞれの学科の強みと弱みを分析して、経営改善計画の策定に努めている。経営情報についてはホームページに公開しており、教職員は学生確保の状況に接して危機意識を共有している。

#### (b) 行動計画について

- ① ビジネスライフ学科の定員確保を実現すること。
- ② 新耐震基準施行前に建築した校舎については、学園創立80周年、短期大学部創立45周年を機会として、新基準に適合するのみならず、時代のニーズに即応する建物として建築する方向で検討すること。

### 基準Ⅲ-A 人的資源

#### (a) テーマの要約

本学の教員組織は両学科の「教育課程編成・実施の方針」に沿って構成され、専任教員は短期大学設置基準の示す必要数を超えて配置し、各学科の専門教育を担っている。専任教員で補えない科目等については、非常勤の適任者を採用して対応している。教員の採用・昇任は「教員資格審査規程」に基づいて厳格に審査を行っている。

専任教員の研究活動はホームページで公表し、研究紀要は年1回刊行され、その論文は国立情報学研究所電子図書館サービスのデータベースに登録して公開されている。教員の

研究については、さまざまな規程を整備してその助成に努めている。FD活動としては授業事例研究会と相互授業参観を恒例化して教育力をみがき、事務局職員はパソコンを活用して教員と連携を密にしながら、SD活動の機会を活用して研鑽に努め学習支援を行っている。

教職員の就業に関する規程は「千葉経済大学短期大学部規程集」に整備して周知され、規程に則った勤務に従事している。

(b) 改善計画について

- ① FD推進委員会が中核となって、教育力をみがく機会の充実に努めること。
- ② 専任教員の研究活動を促進するため、環境を整備するとともに諸規程の整備に努めること。
- ③ 就業規則に則った人事管理の徹底に努めること。

基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している

(a) 現状について

本学の教員組織は各学科の「教育課程編成・実施の方針」に基づいて編成されている。ビジネスライフ学科ではエコノミクス・アカウンティング・ビジネスマネジメント・インターネット・コンピュータマスターの5つの専門フィールドを中心とした教員組織となっており、こども学科では小学校教諭・幼稚園教諭2種免許状、保育士資格を取得するための教員組織とし、教職課程認定基準、指定保育士養成施設の規程基準を満たした教員組織となっている。

短期大学設置基準に定める本学の学科の種類及び規模に応じる専任教員数(イ)はビジネスライフ学科7名、こども学科11名、また短期大学設置基準に定める短期大学部全体での入学定員に応じる専任教員数(ロ)は5名で、全体で23名となるが、下表のようにビジネスライフ学科12名、こども学科17名、合計29名を配置し、短期大学設置基準に定める教員を充足している。

専任教員数		平成24年5月1日現在 (人)					
学 科	専任教員数					設置基準で定める教員数	
	教 授	准教授	講 師	助教	計	〔イ〕	〔ロ〕
ビジネスライフ学科	10	2	—	—	12	7	} 5
こども科	7	8	2	—	17	11	
小 計	17	10	2	—	29	18	—
〔ロ〕						—	5
合 計	17	10	2	—	29	18	5

教員の採用及び昇任については「教員資格審査規程」に基づいて資格審査を厳格に行っ

ている。同規程の定める教授、准教授、講師及び助教の資格規程は下記のとおりで、短期大学設置基準の規定を踏まえたものとなっている。

- 1 教授の資格は、原則として次の基準による。
  - (1) 大学教授の経歴を有する者
  - (2) 研究上、教育上顕著な業績があり、かつ満7年以上大学（短期大学を含む）准教授の経歴を有する者
  - (3) 芸術及び体育については、権威ある演奏会、展覧会及び競技会等において、技能優秀の評価を得た者で、特に優れた教授能力及び研究・教育業績があるもの
  - (4) 前各号と同等以上の学識経験を有すると認められる者
- 2 准教授の資格は、原則として次の基準による。
  - (1) 大学准教授の経歴を有する者
  - (2) 研究上、教育上の業績が優秀であって、かつ満3年以上大学（短期大学を含む）専任講師の経歴を有する者
  - (3) 芸術及び体育については、権威ある演奏会、展覧会及び競技会等において、技能優秀の評価を得た者で、教授能力及び研究・教育業績があるもの
  - (4) 前各号と同等以上の学識経験を有すると認められる者
- 3 専任講師の資格は、原則として次の基準による。
  - (1) 大学専任講師の経歴を有する者
  - (2) 研究上の業績が優秀であって、博士課程又は修士課程を修了した者
  - (3) 研究上の業績が優秀であって、満3年以上大学（短期大学を含む）助教の経歴を有する者
  - (4) 芸術及び体育については、権威ある演奏会、展覧会及び競技会等において、技能優秀の評価を得た者で、教授能力及び研究・教育業績があるもの
  - (5) 前各号と同等以上の学識経験を有すると認められる者
- 4 助教の資格は、原則として次の基準による。
  - (1) 修士課程を修了し、成績が優秀な者
  - (2) 芸術及び体育については、権威ある演奏会、展覧会及び競技会等において、技能優秀の評価を得た者
  - (3) 前各号と同等以上の能力を有すると認められる者

両学科とも専任教員は主として専門分野に配置し、専任教員では対応できない科目には非常勤教員を配置している。少人数のクラスで編成する実習、演習等は専任教員と非常勤教員によって適切に対応できているので、補助教員は配置していない。例外として、こども学科の「子どもの食と栄養」については、調理の授業であるため、安全を期して非常勤の実習助手を配置している。

教員の採用は規程上では「学長が推薦」することとしているが、学長は学科長はじめ各専門分野の教員と相談したうえで、最適と考えられる人材を候補者として推薦している。採用にあたっては「教員資格審査規程」に基づいて主査1名、副査2名で構成する資格審査委員会を設置して厳格に審査を行い、その審査報告を受けて学科会議、教授会で慎重に

審議して決定している。

(b) 課題について

今後とも、学科の中心となる科目には専任教員を配置した体制で臨むこと。

基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている

(a) 現状について

専任教員の研究活動は下表のとおりである。

平成 19 年度～23 年度 専任教員の研究実績表

学科等名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作 数	論文 数	学会 等発 表数	その 他			
ビジネス スライ フ 学科	赤池 隆雄	教授	0	0	0	0		無	
	井芹 康統	教授	0	4	4	2		有	
	市岡 義章	教授	0	2	0	1		有	
	小澤 慶和	教授	0	0	0	3		有	
	澤村 孝夫	教授	0	3	0	0		有	
	杉田あけみ	教授	3	11	4	2		有	
	玉置 友一	教授	0	0	1	0		有	
	中村 秀一	教授	0	0	0	0		有	
	西川 篤志	教授	0	1	3	1		有	
	柳浦 恭	教授	1	0	1	0		有	
	江上 邦博	准教授	0	2	0	1		有	
	齊藤 誠一	准教授	2	6	6	76	有	有	
こども 学科	大沼 徹	教授	0	0	0	1		有	
	齋藤 朗	教授	0	0	0	0		有	
	佐久間勝彦	教授	0	0	0	2		有	
	高木 誠	教授	3	1	0	10		有	
	三上 修二	教授	16	0	0	0		有	
	中島千恵子	教授	6	2	9	38		有	
	横山 洋子	教授	21	0	0	43		有	
	磯村 陸子	准教授	3	1	3	0		有	
	絹川 文仁	准教授	0	10	0	46	有	有	
	柏木 恭典	准教授	2	16	4	5	有	有	
高野 浩	准教授	1	4	1	1		有		

	千葉 弘明	准教授	2	2	2	1		有	
	松田 清美	准教授	3	0	2	0		有	
	三好 理夫	准教授	0	0	0	1		有	
	吉村 香	准教授	4	2	3	9	有	有	
	小倉 定枝	専任講師	1	1	1	0		有	
	佐久間美羊	専任講師	0	2	1	2	有	有	

特に事情のある一部の教員を除いて、研究活動は活発に行われている。専門とする分野の特性によって著書、論文、学会発表等の数は異なるが、その成果は教科書や教育啓蒙雑誌の執筆にも生かされ、学生の教育に役立てられている。社会的活動としても審議会委員、学会役員、研修会講師、ボランティア活動等での貢献が見られる。本学は職業や実生活に必要な能力の育成を中心として教育を行う短期大学であるため、国際的な研究活動は活発でないが、国際的な交流活動も今後は奨励していきたい。

研究紀要『千葉経済大学短期大学部研究紀要』等に掲載された論文、研究ノートについては、ホームページに掲載し公表している。研究活動や業績については年度末にその実績の提出を全教員に求め、「研究業績書」を作成している。同業績書は外部から問い合わせがある場合に資料として活用している。

過去5ヶ年（平成19年度～23年度）の専任教員の科学研究費補助金及び外部研究費等の獲得状況は下記のとおりである。

外部研究資金の申請・採択状況(平成19年度～23年度) (件数)

外部資金調達先等	19年度		20年度		21年度		22年度		23年度	
	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択	申請	採択
科学研究費補助金	新規1	新規0 継続1 ※1	新規2	新規1 ※2 継続1 ※1	新規1	新規0 継続2 ※1 ※2	新規1	新規0 継続1 ※2	新規1	新規0 継続1 ※2
外部研究費等	0	0	0	0	0	0	新規1	新規1	0	継続1
合計	1	1	2	2	1	2	2	2	1	2

科学研究費補助金内訳

※1 研究代表者 平成18年度～21年度	研究者	杉田あけみ
	研究課題	ダイバーシティ・マネジメントの観点からみた企業におけるジェンダー平等戦略
※2 研究分担者 平成20年度～24年度	研究者	齊藤誠一
	研究課題	地域社会の課題解決を支援する公共図書館のサービス・研修モデルの構築に関する研究

ここ数年、科研費等の申請・採択は芳しくない。教育の比重が高まるなかで研究に割かれ

る時間は限られざるをえないが、よりよい教育を目指す上で研究者の協力による規模の大きい研究プロジェクトに参画することも意義深いので奨励していきたい。

専任教員の研究活動については、以下の諸規程に基づいて助成している。

- ・千葉経済大学短期大学部研究助成費取扱規程
- ・専任教員に対する研究活動助成について（内規）
- ・千葉経済大学短期大学部学術図書刊行助成規程
- ・千葉経済大学短期大学部在外研究員規程
- ・千葉経済大学短期大学部在外研究員規程施行細則

『千葉経済大学短期大学部紀要』は年1回発行し、同紀要に掲載された全ての論文等は、国立情報学研究所(NII)電子図書館サービスのデータベースに登録して公開され、本学のホームページからも同紀要が参照できるように公開されている。「学術図書刊行助成金規程」により学術図書を刊行する場合は、1件につき150万円の範囲で毎年度原則2件に対し助成する制度が設けられており、平成19年～23年では下記1件が採択され、刊行されている。

学術図書刊行助成図書一覧

年度	書名	著者
平成19年度	離婚家庭の子どもの援助(同文書院刊)	柏木 恭典

教員の研究室は39室あって総面積は545.13㎡である。専任教員数は現在29名で1人1室を使用しているが研究室の広さは一様でないため、退職者があれば広い研究室への移動を講じている。

研究室の室数及び広さ

名 称	室数	面積㎡
<b>1号館2階</b>		
研究室	1	19.21
研究室	4	計 47.07
研究室	4	計 35.95
研究室	1	10.97
研究室	1	13.78
研究室	1	13.27
研究室	1	13.27
研究室	1	12.72
<b>2号館A棟1階</b>		
研究室	5	計 64.00
研究室	1	25.58
研究室	3	計 41.25

研究室	2	計 25.30
<b>2号館A棟 2階</b>		
研究室	1	33.24
研究室	1	30.36
研究室	1	21.75
研究室	2	計 22.56
研究室	8	計 89.28
<b>2号館A棟 3階</b>		
理科学研究室	1	25.57
<b>合計</b>	<b>39</b>	<b>545.13</b>

専任教員は1週のうち授業のために2日～3日、会議日として1日をあてて勤務しており、それ以外は研究活動の時間として活用できるようになっている。なお、教員の「服務上の心得」では会議日を含めて週4日以上出校し、授業は週6コマの担当が標準とされている。

専任教員が外国で学術の研究、調査等を行うために学園から補助を受けて派遣される場合は、在外研究となる。その際の待遇等については「千葉経済大学短期大学部在外研究員規程」「千葉経済大学短期大学部在外研究員規程施行細則」に定められている。国際会議に出席する場合は「服務規程」の出張伺いにより、学長の承認を得ることとなっている。

FD活動は「千葉経済大学短期大学部FD推進委員会規程」に則って、FD推進委員会が所轄して行っている。授業事例研究会・授業相互参観・授業評価アンケート・満足度調査の実施が主な活動で、全教員が教育力の組織的な向上に努めている。

専任教員は校務分掌として教務部会、学生部会、就職部会の三つの部会と入試広報委員会などの九つの委員会のいずれかに所属し、事務局の学務課、キャリアセンター、入試広報センター等の各部署と協力して、学生の学習成果を向上させる諸施策を遂行している。

#### (b) 課題について

専任教員の活動の力点は学生の教育に置かれているが、研究活動を促進するための環境整備にも力を注ぐこと。

### 基準Ⅲ-A-3 学習成果を向上させるための事務組織を整備している

#### (a) 現状について

開学以来、大学、短期大学部は独立して事務組織を設置していたが、職務の遂行にあたって効率化と合理化を図るため、平成12年に大学・短期大学部事務局に改組し事務の一体化を図った。現在は、事務局長のもと、庶務課・大学学務課・短大学務課・キャリアセンター、入試広報センター、図書館課及び情報企画で構成され、それぞれの分掌は事務分掌にまとめられ、各部署の責任体制は明確になっている。

事務局の運営は下記の規程に基づいて、適切に行われている。

- ・千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部事務組織規程
- ・職員服務規程
- ・学校法人千葉経済学園公印取扱規程
- ・千葉経済学園・千葉経済大学附属高等学校文書取扱規程
- ・千葉経済学園非常勤職員勤務規程
- ・千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部SD委員会規程

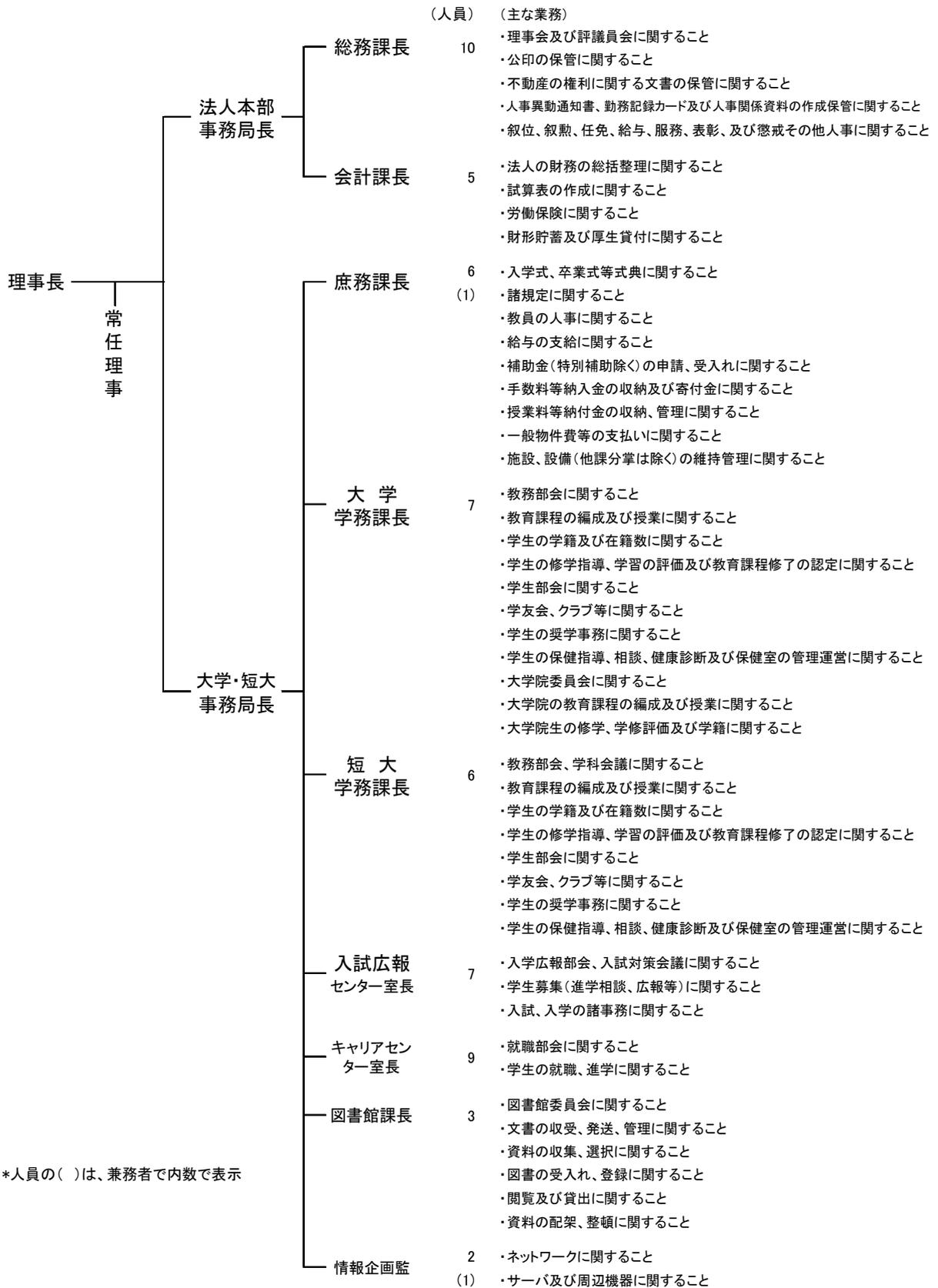
全事務職員にパソコンを貸与し、メール、ファイルサーバの利用、グループウェア機能等の事務合理化システム及び教務システム等の学生支援システムが利用可能となっている。情報システムの外部からの不正アクセス対策としては、ファイアウォールを設けて対策を講じて、ウイルス対策としてはクライアントにウイルス対策ソフトをインストールして対処している。また、事務執行に必要な備品等については申請によって対応している。

各教室・会議室・事務室等には火災探知装置が設置され、事故発生時には事務室内にある火災受信機が受信するほか各所に消火器を設置し、防災施設の定期点検を年2回行っている。また、災害を想定した防災・避難訓練を学生、教職員対象に実施し、避難器具による降下訓練等も行っている。

本学の事務職員数は少数であるため、組織的なSD活動を展開することには困難な面がある。しかし、SD委員会規程に則り、日常業務を遂行しながら事務職員一人ひとりの資質、能力を高めるとともに、日本私立短期大学協会の研修等を有効に利用してSDに努めている。毎週一回、課長会議とその会議を受けての課内会議を行い、同会議では報告や連絡のほか、現下の高等教育を取り巻く状況や国の新たな文教施策等についてもできる限り説明している。また、各部署の業務の見直しや事務処理の改善について提案を行うなど、問題意識の共有に努めている。

職員間、また職員と教員間の協力関係は極めて深く、信頼関係が築かれている。学務課、入試広報センター、キャリアセンター、庶務課及び図書館課はそれぞれ連携を取り、教員組織である教務部、学生部、就職部、入試広報委員会、図書館委員会とも密接に連携して運営にあたっている。教員が事務的な仕事に関わったり、事務職員が学生指導や授業準備の仕事に携わるなど、職員と教員とは協力して相互に学習成果の向上に努めている。

事務局組織の人員構成及び各部署の役割は、次頁のとおりである。



(b) 課題について

次の2点に特に留意して改善に努めること。

- ① 事務組織が大学、短期大学部共通であるにもかかわらず、事務室が分かれており、相互の協力関係が希薄になりがちであること。
- ② 指示を受けて動くことに慣れており、問題意識や企画力が不足している向きがあるので、事務職員一人ひとりの意識改革を進める必要があること。

基準Ⅲ-A-4 人事管理が適切に行われている

(a) 現状について

教職員の就業に関しては、以下の諸規程を定めている。

- ・千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部教育職員給与規程
- ・千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部教育職員の初任給、昇給、昇格の基準
- ・千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部教育職員通勤手当支給規程
- ・学校法人千葉経済学園退職金支給規程
- ・千葉経済大学短期大学部研究助成費取扱規程
- ・千葉経済大学短期大学部学術図書刊行助成規程
- ・専任教員に対する研究活動助成について（内規）
- ・学校法人千葉経済学園出張規程
- ・千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部海外出張規程
- ・千葉経済大学短期大学部在外研究員規程
- ・千葉経済大学短期大学部在外研究員規程施行規則
- ・千葉経済大学短期大学部就業規則
- ・職員の育児休業等に関する規程
- ・職員の介護休業等に関する規程
- ・千葉経済大学・千葉経済大学短期大学部セクシャル・ハラスメントの防止に関する規程
- ・セクシャル・ハラスメントをなくすために職員が認識すべき事項についての防止要項
- ・教員の服務上の心得
- ・兼職願の様式
- ・休講届様式
- ・欠席届の様式
- ・病気休暇等により休講とする場合の講義の取扱について（教授会了解事項）
- ・千葉経済大学短期大学部非常勤講師勤務規程
- ・職員厚生基金規程

「千葉経済大学短期大学部規程集」は全教職員に配付し、改定等がある場合には随時改定の趣旨を徹底している。教員の就業管理は諸規程に基づき出勤簿で行い、休暇申請、出張申請、残業申請、振替休日申請等で管理している。

**(b) 課題について**

社会的な関心事となってきたパワーハラスメントに対する規程も検討して、良好な人間関係を築くこと。

**基準Ⅲ-B 物的資源****(a) テーマの要約**

校地、校舎面積は短期大学設置基準を十分に満たし、運動場や体育館、講義室、演習室、実習室等などの施設設備も両学科の「教育課程編成・実施の方針」に基づいて整備されている。大学と共用施設である図書館の蔵書、学術雑誌等も設置基準を上回って整備され、学生の学習に供している。施設設備の維持管理は諸規程を踏まえて適切に行われ、火災・地震・防犯対策並びにコンピュータシステムのセキュリティ対策も強化している。ゴミの分別も徹底され清潔を保っている。

**(b) 改善計画について**

校舎については、学園創立 80 周年事業の一環として、改築する方向で検討すること。

**基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している****(a) 現状について**

短期大学設置基準では校地は学生定員に対して学生 1 人当たり 10 m<sup>2</sup>と規定されていて、その基準によれば 6,700 m<sup>2</sup>が必要となるが、本学の校地面積は 26,947 m<sup>2</sup>であり充足している。また、同基準では校舎面積は 5,150 m<sup>2</sup>が必要とされるが、本学の校舎面積は 13,269 m<sup>2</sup>で基準を充足している。本学の運動場の面積は 16,750 m<sup>2</sup>で、適切な広さを充たしている。短期大学部体育館の面積は 1,564 m<sup>2</sup>、大学と共有する総合体育館の面積は 1,364 m<sup>2</sup>で、適切な広さを充たし授業やクラブ活動の利用に供している。

講義室、演習室、実験・実習室は両学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて以下のように設置し、学習環境は整備されている。

**【講義室等の室数】**

講義室	13
演習室	4
実験・実習室	4
ピアノ練習室	15
ピアノレッスン室	3
音楽室	1
パソコン室	7
小講堂	1

教育上必要な機器や備品は同方針に基づいて整備され、こども学科の理科実験室、造形実習室、調理実習室、保育実習室、幼児保育室、ピアノ練習室には実習等に必要な機器・備品を整備して、学生の学習に資している。

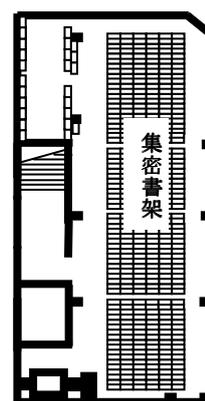
大学と共有する3階建ての総合図書館は下図のような見取り図で、面積は2,268㎡で適切な広さを充たしている。

【図書館案内図】

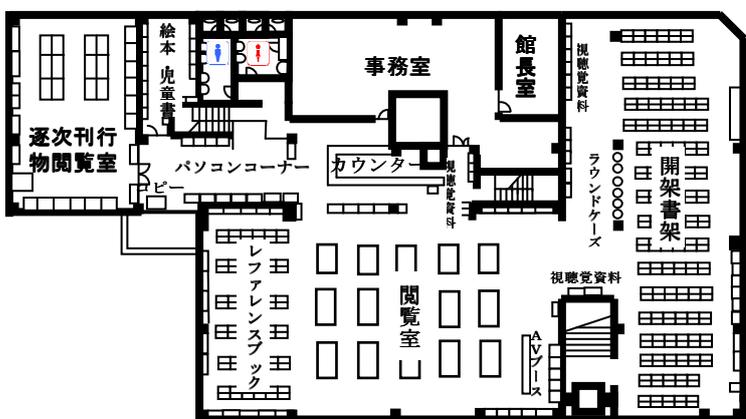
1階平面図



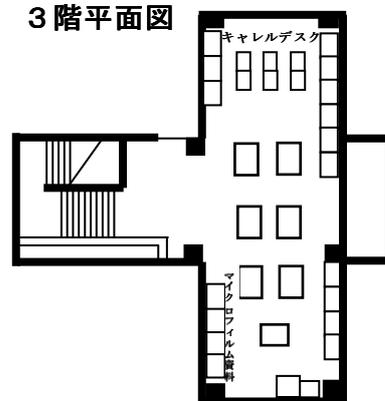
中2階平面図



2階平面図



3階平面図



図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数及び座席数は、「自己点検・評価の基礎資料」の(7)の⑦「図書・設備」に示したように十分に整備されている。購入図書選定・廃棄システムは、「総合図書館収集基本方針」の第7条（資料選定）、第14条（除籍・抹消）、第15条（廃棄）に基づいて確立している。資料選定は月1回選定委員により行い、研究図書の除籍は平成17年と23年に行った。図書館の蔵書収容能力は23万冊であって、23年5月現在の収容冊数は21万冊に達してその限界に近づきつつあるので、一般蔵書の除籍を検討する段階になっている。

図書館には、参考図書、関連図書を特別に配架するレファレンスコーナーを設け、辞書、事典、年鑑、書誌、目録、年表、年史類も十分に整備し、司書課程の授業はもとより他の授業科目の課題の学習に供している。地域住民の利用もあるので、さらに充実を図っていききたい。

(b) 課題について

学習環境のよりいっそうの整備に努めること。

基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている

(a) 現状について

固定資産、消耗品等の管理は、以下のように規程を定めている。

- ・ 固定資産及び物品管理規程
- ・ 図書館資料収集管理規程

施設設備及び物品については、以下のように規程を定めている。

- ・ 体育館管理運営規程
- ・ 小講堂管理使用内規
- ・ 視聴覚教室利用規程
- ・ 茶室「素心庵」管理使用内規

火災、地震対策、防犯対策のための規定は特に定めていないが、地震発生時の対応マニュアルや避難訓練マニュアルが作成され、教授会および各課内会議で教職員に周知させるとともに教室等に掲示して学生への周知を図っている。

① 防災対策・危機管理

本学では、防災設備の定期点検を年2回行うと共に、全学生を対象に地震及び火災の発生を想定した防災訓練を実施している。前回の防災避難訓練は、平成23年11月1日に大学と同時に実施した。

本学と大学を合わせて2,000人以上の学生・職員が在籍しており、災害時には帰宅困難者の発生も想定されるほか、一時避難場所にもなりえるため、罹災者のための災害時備蓄飲料と最低限の食料を備蓄している。

飲料水については、ペットボトル等により1,000リットルを確保しており、これは500ml/人として2,000人分である。食料については、一人1食として600人分を常時保管している。また、万が一の備えとして1号館ロビーにAEDを設置してあり、学内に設置してある飲料水の自動販売機も災害時に無料提供できるものの導入を進めるなど、学生に対するリスクマネジメントを実施している。

② 防犯対策

学園の施設・建物の警備は総合警備保障㈱に委託している。休業日は終日、平日は午後4時から翌朝8時30分までの間、土曜日は午後1時以降に警備員が在駐し、一定の間隔で校内を巡視し不審者、不審物等の監視を行っている。不測の事態が生じた場合は直ちに通報され、同社の機動隊員が駆けつけて対応するとともに、庶務課長（不在の場合は庶務課職員）に連絡し指示を受けるシステムとなっている。

③ コンピュータシステムのセキュリティ対策

サーバー室は常に施錠されており、情報企画が認めた者のみの入室が可能とされている。外部ネットワークへの接続はファイアウォールを利用しており、学外からのリモートアクセスについてはデジタル証明書でのVPN接続としている。ファイルサーバについては、それぞれアクセス権を設定し、許可されたユーザーのみがアクセス可能となっていて、学内の全パソコンにウイルス対策ソフトを導入して、セキュリティ強化に努めている。

アスベスト対策については、本学校舎は建築業者からアスベスト対象物は使用されていないとの回答を得ていたが、平成22年に専門業者による検査を行った結果、1号館中央階段天井部にアスベストが含有していることが判明したため、平成24年3月に除去工事を実施した。

各教室は冷暖房完備となっていて、エアコンと電源の消し忘れがないように、最後に退室する者が必ず消すように掲示するとともに、その徹底を学生に指示している。ゴミは可燃物、不燃物、ビン、缶等に分別したゴミ箱を設置し、ゴミの分別について学生の指導に当たるとともに、粗大ゴミは指定した場所に出して定期的に業者に回収させている。

#### (b) 課題について

首都圏においても大規模な震災が起きることが想定されている。学生・教職員の安全を守るために校舎の耐震化などを優先課題としてあたること。

### 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源

#### (a) テーマの要約

情報システム資源については、平成16年3月にコンピュータネットワークの再構築を行い、校舎間を光ケーブルで連結して高速化（1ギガ）を実現するとともに、プロバイダーへのネットワークも高速化を図って利便性を大幅に向上させている。ハードウェア及びソフトウェアの導入は、授業内容や資格取得を考慮して情報化委員会で検討し対応している。学生の学習支援のために、授業で使用しないパソコン教室を3室設置しており、キャリアセンター等にもパソコンを設置して、更新は3年もしくは4年単位で行って学生の利用に供している。

#### (b) 改善計画について

パソコン教室の機器を含め、情報システムの定期的な更新を行い、授業及び学校運営に最適な環境を継続的に提供していく。

### 基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している

#### (a) 現状について

情報システム資源については、平成16年3月にコンピュータネットワークの再構築を行い、学科単位で個別のネットワークを構成していたものを全学共通のネットワークに再編成した。それに伴い、校舎間を光ケーブルで連結して高速化（1ギガ）を実現するとともに、プロバイダーへのネットワークも高速化を図って利便性を大幅に向上させている。

ネットワークについては VPN（バーチャル・プライベート・ネットワーク）を採用し、学外からも学内のデータを取り扱うことができる環境にある。

ハードウェア及びソフトウェアの導入は、授業内容や資格取得を考慮して情報化委員会で検討し対応している。学生に対しては入学時のガイダンスでパソコン教室や学内ネットワーク等の情報機器の取り扱い等についての説明を行い、情報システムの利用に関して周知・徹底を図っている。また、各学科ともに学内 WEB ページを作成・設置し、年間を通じて情報提供を行っている。教員に対しては、FD 研修会を通じて情報技術の向上に関する研修を行っている。

学生用のパソコンについては、3 年もしくは 4 年単位で更新を行い、できる限り最新の環境で情報機器を扱えるように配慮している。情報機器・備品については、必要に応じて導入を進め、使用状況や耐用年数等を把握しながら、常に配分を見直し計画的に活用している。教育研究に資する情報機器を設置したパソコン教室は、下表のように 7 室整備されている。

教室名	台数	備考
1 号館 401 教室	40 台	授業用
電算棟 C11 教室	50 台	授業用
電算棟 C21 教室	42 台	授業用
電算棟 C31 教室	42 台	授業用
電算棟 C32 教室	8 台	ビジネスライフ学科自習室
A16 多目的演習室	11 台	ビジネスライフ学科自習室
A21 実習資料室	18 台	こども学科自習室

これらの教室のパソコンはすべて学内 LAN に接続されており、どの教室からも個人フォルダー、学内共有フォルダー、学外インターネットにアクセス可能で、学生は空いている教室で必要な学習を行うことができる。

教室には機器更新時点で最新の機種プロジェクタ、中間モニタ、書画カメラ、デジカメ等が整備されているので、授業を効果的に行うために活用できる。視聴覚機器が設置されている普通教室で LAN 整備が行き届いていないところがあるので、その整備に努めたい。

パソコン教室のほかにキャリアセンターと就職支援室にもコンピュータを整備し、学生支援の充実に努めている。パソコンはインターネットに接続されていて様々な情報を検索することができ、どのパソコン教室からも保存した個人データを参照・更新できる環境になっている。これらの利用法については、入学時のガイダンスや関連の授業で指導している。

#### (b) 課題について

情報化社会の進展に目を配りながら学習環境の整備に努め、必要な情報化に努めること。

### 基準Ⅲ-D 財的資源

#### (a) テーマの要約

短大部門の資金収支はやや減少しながらも黒字の状態で見事に推移し、消費収支は一時的な特別費用の計上によって赤字になった年度があるが、ほぼ収支均衡の状態で見事に推移している。ビジネスライフ学科の定員充足に全力を傾注するとともに、さらなる節減、合理化に取り組んでいる。学園全体としては高校部門が大幅な赤字となって消費支出超過の状態であるので、附属高校の生徒確保が喫緊の課題となっている。

教育研究費は附属収入の20%を大きく超えて資金配分は適切である。施設設備も優先順位を決めて適切に充実を図っている。資金運用は安全運用を第一にして堅実でより有利な運用に努めていて、学園全体の財務基盤は安定している。

ビジネスライフ・こども両学科に対する社会的なニーズを客観的に分析し、両学科の強みを存分に発揮して時代の要請に応える努力をしている。今日の日本経済の状況下では学納金は据え置かざるをえないため、定員確保には全力を挙げて取り組むとともに、人事計画にあっては設置基準を大幅に上回っている教員数の適正化に努めていく。

校舎の多くが新耐震基準を満たしていないため、学生・教職員の身の安全を期した対応を行うことにしている。学園の財源確保のためには外部資金の獲得が重要であるので、寄附金募集に積極的に取り組むこととする。財務情報はホームページで公開し、教職員は危機意識を共有して学生募集・教育力の向上・就職支援に努めている。

#### (b) 改善計画について

- ① ビジネスライフ学科の抜本的な立て直しと安定的な定員確保に努めること。
- ② 「中期財務計画(予測)」に則り、人事・施設・設備の計画を策定していくこと。
- ③ 旧耐震基準下の校舎については、新基準に適合するとともに、時代のニーズに即応する建物として建築する方向で検討すること。
- ④ 寄附金募集による外部資金の獲得に取り組むこと。

### 基準Ⅲ-D-1 財的資源を適切に管理している

#### (a) 現状について

本学の資金収支および消費収支の過去3年間の推移は下表のとおりで、資金収支は収入支出ともにやや減少傾向ながら黒字の状態で見事に推移している。消費収支は表面上の金額では支出超過状態となっているが、消費支出において一時的な特別費用として、平成22年度に退職給与引当金計上基準の変更に伴う退職給与引当金繰入額を計上し、また23年度に図書除籍に伴う図書処分差額の計上を行っていることを考慮すれば、概ね収支均衡の状況で見事に推移している。収入の減少傾向に対しては、より一層の経費の抑制と効率化を図ることにより、収入支出のバランスと財務体質の維持に努めている。

短期大学部 資金収支・消費収支の推移表 (単位千円)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
資金収入	902,180	851,657	826,353
資金支出	813,197	809,014	736,392
資金収支	88,983	42,643	89,961
帰属収入	902,246	851,497	826,767
消費収入	905,897	769,714	775,703
消費支出	862,856	961,145	784,909
消費収支	43,041	△191,431 (△10,710)	△9,206 (9,376)
帰属収支	39,390	△109,649 ( 71,072)	41,858 ( 60,440)

\*平成 22 年度下段()内は特別計上された退職給与引当金繰入額を除いた場合の金額を記載してある。

\*平成 23 年度下段()内は特別計上された図書処分差額を除いた場合の金額を記載してある。

本学の消費収支の内容を見ると、まず収入面においては、平成 23 年度における学生生徒等納付金の帰属収入に対する比率が 83.5%となっており、収入が学生生徒等納付金に大きく依存する状況にある。従って、収入面における最重要課題は学生数を確保することであるが、学生数推移表のとおり、少子化や日本経済の低迷、学校間競争の影響を受け、ビジネスライフ学科の減少が著しく、学生数の合計もやや減少傾向で推移している。

定員の充足状況は定員充足率推移表のとおりとなっており、こども学科は毎年安定的に 100%前後を確保しているが、ビジネスライフ学科の未充足状況が著しいため、同学科の入学定員を平成 24 年度より 150 名から 120 名に減員する変更を行った。

短期大学部 学生数推移表 (各 5 月 1 日現在 単位人)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
ビジネスライフ学科	311	293	227	186
こども学科	397	392	450	479
合計	708	685	677	665
学生生徒等納付金	721,158 円	696,801 円	697,626 円	—

短期大学部 定員充足率推移表 (各 5 月 1 日現在)

		平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
ビジネスライフ学科	入学定員	110%	84%	66%	70%
	収容定員	103%	97%	75%	69%
こども学科	入学定員	99%	101%	125%	117%
	収容定員	99%	98%	112%	120%
合計	入学定員	104%	94%	100%	99%
	収容定員	101%	98%	97%	99%

支出面においては、消費収入の減少に伴って財政環境は厳しさを増してきている。経費のより一層の抑制と効率的な執行を図るため、事業別予算編成による詳細な積算基礎の検討を行うとともに、それぞれの経費の支出状況とその効果を過去数年にわたり遡って検討する体制を整えて、さらなる節減・合理化に取り組んでいる。帰属収入に対する教育研究経費比率は、平成 21 年度 25.6%、22 年度 24.4%、23 年度 25.1%となっており、教育研究活動や学生サービスを充実していく予算配分がなされ、本学の特色であるインターンシップや教育実習という体験型学習の充実及び施設設備の維持更新等は計画的に実施できている。

施設設備面については、中期的な施設設備計画に基づき、優先されるものから重点的に年度予算に組み入れて実施してきている。たとえば、教室の机・イスや音響機器等の教育用機器備品の更新、建物維持更新計画に基づくトイレの改修、床・壁・天井等の建物内外装・設備の改修、情報教育環境整備計画によるパソコン教室等の情報機器更新・導入等である。学習資源(図書等)についても、年度予算の要求を詳細に吟味してその充実に努めている。

学園全体の消費収支状況を見ると、平成 23 年度の学園全体の消費収支差額は 9,700 万円余の赤字、帰属収支差額は 900 万円余の黒字となっている。大学部門と短大部門はともに収入超過であって、収入支出のバランスはほとんど問題がないと思われる。しかし、高校部門が大幅な赤字となっていて、ここ数年の学園全体の消費収支差額は推移表のとおりで、高校部門の赤字を短大・大学部門の黒字で吸収しきれず、支出超過(赤字)の状態が続き、基本金組入前の帰属収支差額段階で収入支出がほぼ均衡する状況で推移してきている。

なお、帰属収支差額の黒字幅が 10%未満であるため、日本私立学校振興・共済事業団の「経営状態の区分」では「A2」となり、正常の状態に属するが、十分な施設設備の投資ができない状態に該当する。

学園全体 消費収支差額の推移表

(単位千円)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
消費収支差額	△47,619	△546,876 (△238,529)	△97,898
帰属収支差額	28,327	△356,697 ( △48,350)	9,605

\*22 年度下段()内は特別計上された退職給与引当金繰入額を除いた場合の金額を記載してある。

学園全体の貸借対照表の過去 3 年間の状況は、次頁の「貸借対照表の主な科目の推移表」のとおりとなっている。「学園創立 70 周年記念事業」として高校「新校舎」建設(平成 17 年)等を実施したことに伴い、固定資産および長期借入金が増加し、運用資産が減少するという状況となったが、その後は減価償却による固定資産の減少及び約定弁済による借入金の減少が進んでいる。

平成 22 年度には退職給与引当金計上基準を期末要支給額の 100%に変更し、退職給与引当金の大幅な積み増しを行った。また、施設設備充実に備えた改修整備引当特定資産の積

み増し等を計画的に実施し、財政環境の厳しさが増してくる中ではあるが、収入支出のバランスに考慮しながら、運用資産合計額の維持と貸借対照表の健全化に努めている。

資産運用については、学園施設の学外への有料貸出を行っているほか、「資金運用管理規程」に基づき毎年「資金運用計画」を立て、ハイリスク・ハイリターンを求めず安全運用を第一にしながら運用商品の選定に工夫し、より有利な運用に取り組んでいる。

学園全体の平成 23 年度末の資産状況は、資産総額 174 億 8,900 万円余、負債総額 27 億 7,700 万円余、正味財産 147 億 1,200 万円余で、正味財産(自己資金)の比率は 84.1%となっており、現状の財産基盤は比較的安定しているといえる。なお、現金預金関連の財務比率が他大学法人と比べて低い面も見られるが、借入金は高校「新校舎」・短大「新体育館」に係る長期低利の安定資金となっているほか、平成 23 年度末の運用資産合計(特定資産・有価証券・現金預金・未収入金)が 34 億 300 万円余となっていることに鑑みると、本学園の規模からみて特に財政上の支障はないと見込まれる。

学園全体 貸借対照表の主な科目の推移表 (単位千円)

	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
有形固定資産	14,407,569	14,212,476	13,978,235
*運用資産計	3,250,108	3,313,905	3,403,974
その他	221,091	185,582	107,364
資産の部合計	17,878,768	17,711,963	17,489,573
長期借入金	1,419,070	1,318,180	1,217,290
退職給与引当金	397,696	697,011	649,127
前受金	688,309	655,193	634,961
その他	314,462	339,045	276,056
負債の部合計	2,819,537	3,009,429	2,777,433

\*運用資産は、特定資産・有価証券・現金預金・未収入金の合計額

#### (b) 課題について

本学および学園全体の今後の発展を期すためには、より一層の安定した財政基盤が不可欠であり、そのために消費収支のさらなる安定的黒字化が絶対条件となる。

- ① 消費収支の健全化を図るためには、ビジネスライフ学科の抜本的立て直しと短大部門全体の収容定員を安定的に確保する必要があり、志願者数・学生数の確保・増大に向けてこれまで以上の努力を傾注すること。
- ② 学園全体の消費収支黒字化に向け、短大・大学部門においてもこれまでどおり、可能な限り学生数の増加と支出抑制を図ること。
- ③ 新耐震基準を満たしていない校舎について、早急に対応すること。
- ④ 「中期財務計画(予測)」には今後の人事計画、施設・設備計画といった重要計画が盛り込まれていないため、今後各分野の将来計画を策定し、完全な「中長期計画」として学園全体の共有化を図ること。

## 基準Ⅲ-D-2 量的な経営判断指標に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している

### (a) 現状について

本学は昭和43年度に商経科を設置して開学した。その後、小学校教員が不足する状況に応えるために初等教育科を53年度に開設して2学科体制に移行した。商経科においては、コンピュータ技術者のニーズが高まったため別科経営情報専修を59年度に設置し、同別科は改組転換を重ねて商経科と統合してビジネスライフ学科となって今日に至る。同学科は今後とも時代の要請、社会の要請を的確にとらえてキャリア意識を醸成し、社会人基礎力をそなえたビジネスパーソンの育成に努めていく。

一方の初等教育科は近年、保育所の待機児童問題の深刻化、小学校教員に高学歴が求められること、幼稚園教諭と保育士の資格をもつ保育者の養成に力点を置くことにし、平成16年度にこども学科に改組した。同学科の定員は小・幼の教員養成を目的とする従来からの初等教育コースが30名、幼・保の資格をもつ保育者養成を目的とする保育コースが170名である。幼保一体化の進展を注視しながら就学前の保育・教育にあたる人材の養成に努めていく。

ビジネスライフ学科の弱みは、日本経済の動向に影響を受けやすいことである。若年者の採用が多くなると、本学生は学科で学んだことを活かして社会に踏み出していけるが、経済が低迷するとその波をかぶって就職が難しくなり、そのことで志願者の減少を来すことになる。キャリアセンターでは県内企業の担当者から適切な情報を入手するとともに、学科をあげてキャリア教育の在り方を分析している。他方、同学科の強みはフィールド・ユニット制による科目履修にある。必修科目を限定して、各自の目ざすキャリアに即して専門教育を存分に受けられるという「教育課程編成・実施の方針」は今後とも堅持して、その実が上がるように開講科目の改編に努めていく。

こども学科の弱みは、短期大学卒業では小学校教員に採用されることが難しくなったことである。千葉県・東京都・京都市から大学推薦が指定されたりして採用の道は開かれているが、多くの卒業生は臨時教員として数年勤めながら正教員としての道を探っている。今後とも採用状況を見据えて、将来性のある小学校教員の養成に努めていきたい。他方、同学科の強みは幼稚園教諭と保育士を希望する者の就職がほぼ100%を維持していることである。キャリアセンター分室では毎年就職先を訪問して卒業生を励ましながら卒業生に対する率直な評価に耳を傾けて、その結果を各科目の授業に活かすように努めている。

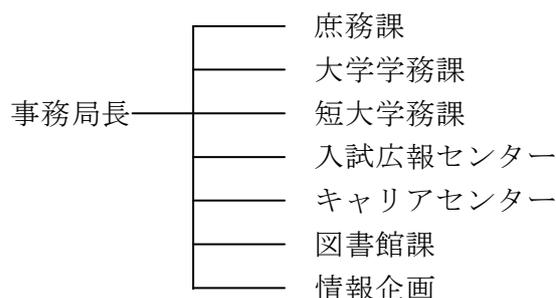
本学の教育に対する評価は就職状況や就職先の卒業生の評価に如実に表れるので、両学科のそれぞれの強みを伸ばしつつ弱みを補う努力を重ねていきたい。

学生募集対策については、毎年入学定員の確保を目標にして教職員による指定校訪問を行い、ホームページその他での広報活動やオープンキャンパスを実施して、入試方法や教育内容の改善などに努めてきた。その結果、定員の充足状況は、こども学科は毎年安定的に100%前後で推移できているものの、21年度まで毎年安定的に定員を確保していたビジネスライフ学科の充足状況が思わしくなくなったため、同科は24年度から入学定員を150名から120名に減員する変更を行った。変更した入学定員の学生確保のために、これまで以上に努力を重ねてゆく覚悟である。

学費については、経済環境や他短期大学の動向を勘案し、毎年理事会で検討し決定して

いるが、17年度に学費値下げを行って以降は据え置きとなっている。現今の経済状況を鑑みると、当面はひきつづき据え置く予定である。

本学の現在の教員数は設置基準で定められた数を大きく上回っているため、退職者が生じた際には設置基準に則って適切に対応していく。事務局は必要最低限の職員を配置し、嘱託職員を最大限に活用して円滑に業務を行っている。事務の合理化を図るために平成12年度に統合・改組した事務局は、大短事務局の連携を強化するとともに、経費の削減を図っている。警備・清掃は外部業者に委託している。現行の事務局体制は次のような組織で成り立っている。



職員数の推移 (毎年度4月1日現在)

年 度	大 学	短期大学部	合 計
平成 19	23 (6)	13 (7)	36 (13)
平成 20	25 (8)	12 (6)	37 (14)
平成 21	23 (8)	12 (6)	35 (14)
平成 22	23 (9)	14 (7)	37 (16)
平成 23	26 (9)	14 (8)	40 (17)

注) ( ) は女性で内数を示す。

事務局の一本化によって効率化が図られたが、本拠が学務課を除いてキャンパスが離れた大学事務局にあるため、短期大学側としては手薄感があることは否めない。一本化された部署の職員には、大学・短大を束ねて職務に当たる意識をもたせてこの問題に対処していく。

短期大学部校舎の現況は下記のとおりである。昭和56年の新耐震基準施行前に建築した校舎は1号館(本館)、2号館A棟、学生ホールの3棟である。これらの建物については、学園創立80周年を機として、新耐震基準に適合するのみならず、時代のニーズに即応する建物として建設する方向で検討を始める。

名称	構造	延床面積	築年(経過年数)	基準
1号館本館	RC造4階建	3,236.36 m <sup>2</sup>	S43年(43年)	
2号館A棟	RC造12階建	2,027.17 m <sup>2</sup>	S51年(35年)	新耐震基準
2号館B棟	RC造12階建	1,219.48 m <sup>2</sup>	H4年(19年)	
2号館計		3,246.65 m <sup>2</sup>		
学生ホール棟	S造2階建	660.44 m <sup>2</sup>	S43年(43年)	
電算棟	RC造3階建	594 m <sup>2</sup>	S58年(28年)	新耐震基準

学園にとって大きな課題の一つは、「学生生徒等納付金」に過度に依存する体質を改め、外部資金の獲得に努めていくことである。資産運用については、学園施設の学外への有料貸出を行っているほか、毎年「資金運用計画」を立てて、より有利な運用に取り組んでいる。その結果、有価証券(債券)の受取利息収入と校舎の貸出収入から成る「資産運用収入」は少しずつ増加しているが、現在の経済情勢を考えると、安閑としてはいられない。

寄付金については、学園全体で、平成15年度から18年度にかけて「千葉経済学園70周年記念事業募金」を実施し、それらの外部資金を高校「新校舎」や短大「新体育館」等の建設資金に充当した。今後も短期大学部としての「寄付金」募集には積極的な検討を加えてゆく必要がある。文部科学省等の特別補助金については、これまでも多数が採択されているので、今後も積極的にその獲得に努力を払いたい。科学研究費補助金については、平成21年度2件910千円、22年度1件156千円、23年度1件156千円の実績で、今後も積極的な応募を奨励していく。遊休資産の処分等の計画については現在のところ考えていないが、将来の施設拡充等に対応して検討することも考えられる。

収容定員充足率の状況はすでに述べたとおりであって、変更した入学定員の確保を目標にこれまで以上の努力を重ねてゆく。収容定員数の減少を踏まえ、本学の特色であるキャリアデザインを核とする学習指導や親身な指導を可能とするために、適正な教職員数の確保をしながら、人件費の節減に努めていく。また、使用教室の効率化等によるランニングコストの節減、遊休スペース・設備のチェックによる転用の検討等、定員とのバランスを考えて、コストの節減を図っていく。

学園や短期大学の経営情報についてはホームページに掲載しており、教職員は経営の状況を理解している。全国の短期大学の定員充足率や就職率などについては教授会で報告され、短期大学が当面する深刻な状況について問題意識は共有されている。本学の経営の健全性については学生確保の状況と就職状況で確認できるため、教職員はその数値を冷静に受けとめ、危機意識をもってことにあたっている。

#### (b) 課題について

経営状況の認識を共有して財政の健全化にいつそう努力すること。

#### 基準Ⅲについての特記事項

特になし。

## 基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス

### (a) 基準Ⅳの要約

理事長は学園の建学の精神および教育理念・目的を踏まえて、短期大学の運営はもちろんのこと学校法人の運営全般にわたってリーダーシップを発揮し、学園の発展に寄与している。理事長は寄附行為に基づいて理事会を招集して、その議長を務め、私立学校法の規定に基づいて選任されている理事から短期大学の発展のために必要な情報を聴取し、学校法人の業務を総理している。

理事会は短期大学発展のために必要な情報を収集し、短期大学基準協会の認証評価の結果を事業計画や予算、決算に反映させるように努めている。学校法人は私立学校法の定めるところに従って財務情報をホームページで公開し、また法令にしたがって種々の教育情報を公表している。

学長は学則第 26 条に基づいて理事会で選任され、深い識見を有して本学の運営全般にリーダーシップを発揮している。教授会は学則に則って学長が議長を務め、専任教員全員（教授・准教授・講師）が構成員となって教育研究上の審議機関として適切に運営されている。教授会は両学科の学科会議に所定の事項の審議を委任し、また同会議は教授会に付議する案件の審議を行って、教学面の運営を適切に行っている。

監事は学校法人の業務及び財産の状況について適宜監査し、定期的に公認会計士と会合をもつとともに、理事会には毎回出席して経営の健全化に向けた建設的な意見を述べ、毎会計年度に監査報告を行っている。公認会計士の指摘事項や監査意見については、その趣旨を理解して迅速な改善に努め、資産及び資金の管理と運用は適切な会計処理に基づいて記録し、安全かつ適切に管理している。

評議員会は理事会の諮問機関として適切に運営され、学園の健全な発展のために建設的な意見を呈している。欠席する評議員には、付議する事項について書面をもって議案ごとに賛否の意思表示を求めている。

学校法人及び短期大学は平成 23 年度に策定された「中期財務計画(予測)」に基づき、毎年度の事業計画と予算を関係部門の意向を踏まえて決定し、決定された事業計画と予算は速やかに関係部門に指示して適正な予算執行にあたっている。

### (b) 行動計画について

- ① 理事長は多難な私学経営の状況を適切に掌握し、理事会機能を発揮して学園の健全な経営の存続に努めること。
- ② 学長は「学位授与の方針」に基づく教育の充実を期して、教学面にリーダーシップを発揮すること
- ③ 理事長は評議員会、理事会の指摘を受けとめてガバナンス機能を適切に発揮すること

## 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ

### (a) テーマの要約

本学の学長を兼ねる理事長は、学園の建学の精神および教育理念・目的を踏まえて

短期大学の運営はもちろんのこと学校法人の運営全般にわたってリーダーシップを発揮し、学園の発展に寄与している。

理事長は寄附行為に基づいて理事会を招集し、その議長として、私立学校法の規定に基づいて選任されている理事から短期大学の発展のために必要な情報を聴取し、学校法人の業務を総理している。毎会計年度終了後 2 月以内に決算について監事の監査を受けて、理事会の議決を経た決算及び事業の実績を評議会に報告して意見を求め、適切に業務を執行している。

理事会は短期大学発展のために必要な情報を収集し、短期大学基準協会の認証評価の結果を事業計画や予算、決算に反映させるように努めている。学校法人は私立学校法の定めるところに従って財務情報をホームページで公開し、また法令にしたがって種々の教育情報を公表している。

#### (b) 改善計画について

私学経営に難しさのある今日、法人の健全な経営を存続するために、理事会機能を活かしながらリーダーシップを発揮していくこと。

### 基準Ⅳ-A-1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立している

#### (a) 現状について

理事長は平成 17 年度に短期大学部学長を兼ねて現職に就任した。学園の使命は建学の精神「片手に論語、片手に算盤」を踏まえ、社会人として健全な判断のできる資質を養成するとともに職業生活に必要な技術や知識を身につけさせることである。この使命を担って理事長は学園全体の発展に寄与している。

理事長は学校法人「千葉経済学園」を代表し、寄附行為第 16 条 6 項の定めに基づき理事会の議長を務め、同第 11 条の定めによりその業務を総理している。同第 33 条の定めに従い、理事長は毎会計年度終了後 2 月以内に決算を作成して監事の監査を受け、理事会の議決を経た決算及び事業の実績（財産目録、貸借対照表、収支計算書及び事業報告書）を評議員会に報告して意見を求め、適切に業務を執行している。

理事長が招集する理事会は、学校法人の意思決定機関として適切に運営され、同第 16 条第 2 項の定めにしたがい学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督している。理事会は短期大学の発展のために学内外の必要な情報を収集し、また短期大学運営に関しても責任があることを深く認識している。短期大学基準協会の認証評価の結果については事業計画や予算、決算に反映させるよう努めている。

理事は建学の精神「片手に論語、片手に算盤」を深く理解し、学園の健全な経営を行うに十分な学識及び見識を有している。寄附行為第 5 条（役員）は私立学校法第 38 条（役員を選任）の規定に基づいて定められ、法人の役員として理事 10 人以上 13 人以内、監事 2 人が置かれ、理事のうち 1 人が理事長、1 人以上 2 人以内が常任理事（現在 1 人）となって法人の代表権を有している。

寄附行為第 6 条（理事の選任）で、千葉経済大学学長、千葉経済大学短期大学部の学長及び千葉経済大学附属高等学校の校長が理事となると定められ、理事長が短期大

学部の学長と千葉経済大学附属高等学校の校長を、常任理事が千葉経済大学学長を兼務する理事に就任している。

評議員のうちから理事会において理事 1 人以上 2 人以内が選任されることになっており、千葉経済大学学部長と千葉経済大学短期大学部ビジネスライフ学科長の 2 名がこの規程で理事に就任し、学識経験者のうちから理事会において選任した理事 6 人以上 8 人以内には、現在 6 人の理事が選任されている。寄附行為第 10 条第 2 項第 3 号で、学校教育法第 9 条各号に掲げる事由に該当するに至ったときは理事を退任する旨が規定されている。

学園は私立学校法第 47 条第 2 項をうけて「学園財産目録等閲覧規程」に基づいて、事業報告書、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録及び監事の監査報告書を法人本部会計課に備え付け、学生・生徒やその保護者、教職員その他の利害関係人から請求があれば閲覧できるように体制を整えている。

財務の概況についてはホームページを通じて学生や教職員および一般に公開している。なお、財務情報以外の教育に関する諸々の情報についても、法令に従ってホームページその他で公表している。

学園は学校法人運営及び短期大学運営のために、①総記、②教員組織、③教員資格、④給与・旅費・就業、⑤教務関係、⑥学生関係、⑦就職関係、⑧図書館、⑨施設等利用、⑩事務局、⑪その他にわたって諸規程を定めている。

#### (b) 課題について

理事・評議員が任期中に欠けた際には、速やかに後任者を選任して学園の運営に当たっていくこと。

### 基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップ

#### (a) テーマの要約

学長は学則第 26 条に基づいて理事会で選任され、深い識見を有して本学の運営全般にリーダーシップを発揮し、日本私立短期大学協会副会長の要職に就いている。教授会は学則に則って学長が議長を務め、専任教員全員（教授・准教授・講師）が構成員となって教育研究上の審議機関として適切に運営されている。

教授会は両学科の学科会議に、教授会から委任された事項と教授会に付議すべき事項の審議を委ね、また教務部会・学生部会・就職部会と九つの委員会での議論のうえで行われる学科会議の審議を踏まえて適切に運営され、審議の結果は議事録に記されている。

#### (b) 改善計画について

校是「良識と創意」を踏まえ、「学位授与の方針」に基づいて学習成果を上げる教学の運営体制を引きつづき確立していくこと。

## 基準Ⅳ-B-1 学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学運営体制が確立している

### (a) 現状について

学長は学則第 26 条に基づき理事会で選任されて校務を掌り、所属職員を統括している。学長は日本私立短期大学協会副会長に就任して短期大学運営についての識見を有し、教授会ばかりでなく両学科の学科会議や執行部会に必ず出席し、教育研究活動に関する具体的な審議に参加して構成メンバーの意見も十分に聞きながら、リーダーシップを発揮している。

教育に関する諸事項はまず各部会・委員会で議論され、そこでの成案が学科会議で検討され、教授会の審議を経て決定される。各部会・委員会での議論にあっては、各部長、委員長は学長と事前に打ち合わせ、建学の精神に基づく基本方針との調整を図って検討に入っている。

教授会は「学則」でその組織や審議事項が定められ、「教授会規則」の定めにしたがって、原則として年 9 回開催されている。議長は学長が務め、教授・准教授・講師の専任教員によって審議され、審議事項は「出席者の過半数」で可決されるが、教員の資格審査に関する事項は「出席者の 3 分の 2 以上」の賛成をもって決することとされている。

教授会の審議事項は以下のとおりで、審議にあたっては三つの方針を根幹に置き、学生の学習の成果が上がるように建設的な審議を行っている。

- (1) 学則の変更に関する事項
- (2) 学科の設置及び廃止に関する事項
- (3) 教員資格に関する事項
- (4) 学科、授業科目の新設、改廃に関する事項
- (5) 学生の入学、退学、転入学、休学に関する事項
- (6) 学生の賞罰に関する事項
- (7) 試験及び卒業に関する事項
- (8) 科目等履修生に関する事項
- (9) その他学長が教育上必要と認めた事項

教授会の議事録は各部会部長及び学長の決裁を経て事務局で作成されて保管され、全教職員に配布されている。

教授会の下に開催される学科会議については、「学則」で「教授会から委任された事項及び教授会に付議すべき事項を審議する」と定められ、教授会の議を経て学長より任命された学科長が議長となって学科の運営全般について審議している。学科会議は学科に所属する専任教員で構成され、原則として教授会が開催される前週に開かれる。

教育研究上必要な部会については、「学則」及び「部会・委員会規程」で、その設置と主な調査審議事項が定められている。部会は、主として教務に関する事項全般について調査審議する「教務部会」、主として学生の厚生補導に関する事項全般について調査審議する「学生部会」、学生の就職に関する事項を調査審議する「就職部会」の 3 部

会で、原則として月1回開催されている。

委員会は、「部会・委員会規程」で「学長は、校務を分掌させるため、教授会の意見を聴いて、必要な委員会を置くことができる」と規定され、インターシップ、図書館、研究、国際化、情報化、FD推進、同窓会、入試広報、ホームページの9委員会が現在設置されている。

#### (b) 課題について

多種にわたる校務を適切に分掌して教学運営の遂行に努めること。

### 基準Ⅳ-C ガバナンス

#### (a) テーマの要約

監事は寄附行為の規定に基づいて、学校法人の業務及び財産の状況について適宜監査し、定期的に公認会計士と会合をもちながら、理事会には毎回出席して経営の健全化に向けた建設的な意見を述べている。また、毎会計年度に監査報告書を作成して理事会及び評議会に提出している。

評議員会は寄附行為の規定に基づいて、理事会の諮問機関として適切に運営されている。欠席する者には付議する事項について、書面をもって議案ごとに賛否の意思表示を求めている。

学校法人及び短期大学は平成23年度に策定された「中期財務計画(予測)」に基づき、毎年度の事業計画と予算を関係部門の意向を踏まえて決定し、決定された事業計画と予算は速やかに関係部門に指示し、適正な予算執行にあたっている。

学園の会計処理並びに計算書類等の作成は「学校法人会計基準」に準拠して行われており、毎会計年度の計算書類、財産目録等は学園の経営状況及び財政状態を適正に表示している。公認会計士の指摘事項や監査意見については、その趣旨を理解して迅速な改善に努めている。

資産及び資金の管理と運用は適切な会計処理に基づいて記録し、安全かつ適切に管理している。月次試算表は毎月適時に作成され、必要に応じて理事長に報告している。法令の定める教育情報・財務情報はホームページで公表・公開されている。

#### (b) 改善計画について

私学経営の当面する状況を適正に認識して、健全な学園経営にさらに努めること。

### 基準Ⅳ-C-1 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている

#### (a) 現状について

監事は決算書類の閲覧と経理責任者からの説明と聴取に基づき、適宜、監査を行うほか、平成23年度からは公認会計士と定期的に会合をもちながら学校法人の業務及び財産の状況について監査を行っている。また、監事は理事会に毎回出席し、議案に関

する理事の説明を聞いて学園の業務の執行状況について理解を深めるとともに、財産の状況について適宜意見を述べている。

監事は私立学校法第 37 条第 3 項に基づいて学園の財産目録及び計算書類を含め、学園の業務及び財産に関して監査を行い、その結果を「監査報告書」として毎会計年度作成して、当該会計年度終了後 2 月以内に理事会及び評議員会に提出している。

#### (b) 課題について

特になし。

### 基準Ⅳ-C-2 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催し、理事会の諮問機関として適切に運営している

#### (a) 現状について

評議員会は、寄附行為第 19 条第 2 項の規定で 25 人以上 29 人以内の評議員をもって組織するとされている。理事定数 10 人～13 人に対して、現在の評議員数はその 2 倍を超える 26 人となっている。

私立学校法第 42 条の規定に従い、寄附行為第 21 条は①予算、借入金及び基本財産の処分並びに運用財産中の不動産及び積立金の処分に関する事項、②事業計画、③寄附行為の変更、④合併、⑤解散、⑥その他この法人の業務に関する重要事項で理事会において必要と認めるものについて、理事長はあらかじめ評議員会の意見を聞かなければならないと定めている。評議員会はその規定にしたがって理事会の諮問機関として適切に運営されている。

また同第 22 条は、評議員会は法人の業務若しくは財産の状況又は役員の業務執行の状況について役員に対して意見を述べ、若しくはその諮問に応え、又は役員から報告を徴することができることと定めており、その規定をふまえた運営が適切にされている。評議員会に欠席する者には、付議される事項について書面をもってあらかじめ示し、議案ごとに賛否の意思表示を求めている。

#### (b) 課題について

大所高所からの評議員の指摘を活かして学園運営にあたること。

### 基準Ⅳ-C-3 ガバナンスが適切に機能している

#### (a) 現状について

事業計画の策定と予算編成については、毎年 11 月末までに各部門・課から、予算要求原案(事業計画案及び事業別予算要求書)が法人本部に提出される。法人本部は提出された要求原案について各課のヒヤリング等を実施し、収入状況や優先度を勘案しながら、「中期財務計画(予測)」を踏まえて、詳細な検討を行い修正案を作成する。法人本部が作成した修正案は常任理事と理事長の検討を経て、評議員会・理事会に付議する事業計画案と予算案が最終的に決定され、3 月下旬に開催される評議員会・理事会で

審議されて決定する。

予算要求原案は学園の共通サーバに保存されており、法人本部のヒヤリングや学内理事会等で修正があった場合は直ちに更新されるので、法人本部と各課はその最新の要求原案を共有することができる。従って、事業計画と予算が決定したことの連絡は、評議員会と理事会の決定後、法人本部から各部門・課に対して決定・確定した旨の学内メールを送信することで迅速に行われている。

決定された予算の執行および統制については、定期的に発生する経常的費用を除き、一定金額以上の場合には数社の見積りを比較の上、稟議により理事長の承認を得ることとしており、予算金額、目的・効果等について執行時に再度確認がなされている。また、学園全体の経理、出納業務は法人本部会計課が一括して行い、予算との整合性および予算執行手続きが適正かどうか等の確認を行っている。

定期的に発生する日常的な出納業務は、会計課長が会計伝票及び証憑書類を審査し、法人事務局長の決裁を受けて支払う等、「経理規程」及び「経理規程細則」に基づき円滑に実施されている。問題のあるものについては起案書、稟議書により理事長の承認を受けて実施しており、予算執行状況等についても、学園全体および部門別の試算表により、必要に応じ適宜理事長への報告が行われている。

学園の会計処理並びに計算書類等の作成は「学校法人会計基準」に準拠して行われており、毎会計年度の計算書類、財産目録等は学園の経営状況及び財政状態を適正に表示している。資産管理については、学校法人会計基準に準拠した適切な会計処理に基づいて記録しているほか、「経理規程」、「経理規程細則」「固定資産及び物品管理規程」に基づき安全かつ適切に管理しており、運用資産(現金預金・特定資産・有価証券)は、「資金運用管理規程」に基づき、安全運用を第一にしながら、より有利な運用に努めている。

計算書類等についての私学振興助成法に基づく公認会計士監査は、毎年延べ40日(公認会計士2名)程度の監査を実施しており、公認会計士からの指摘事項、監査意見については、関連当事者も交えて指摘事項、監査意見の確認を行い、その主旨をよく理解して迅速に改善するように対応している。月次試算表は毎月適宜に作成し、必要に応じて理事長に報告されている。

寄附金については、本学独自の恒常的な募集は行っていないが、学園全体として、周年記念事業及び附属高校野球部の甲子園出場等に際して実施しており、それぞれ適正な募集を行っている。学校債については発行していない。

情報公開については、学校教育法施行規則に基づく教育情報の公表を、本学ホームページで必要な項目すべてについて公表しており、私立学校法の規定に基づく財務情報の公開については、「財務書類等閲覧規程」に基づき、財産目録等の必要書類を法人本部会計課に備え付けて学生等の利害関係人の閲覧に供しているほか、ホームページの「千葉経済学園財務情報」において、事業報告書等の財務情報を公開している。

## (b) 課題について

- ① 「中期財務計画(予測)」を策定しているが、具体的な計画が策定されていない施設設備計画等についても早急に策定すること。

- ② 実績と計画との差異分析に基づき計画の軌道修正を行う必要がある場合は、中期財務計画等の見直しに努めること。
- ③ 寄付金税制の改正等も行われ、寄付金募集の環境が整えられつつあることから、学園全体若しくは短大部門としての寄付金募集について積極的な検討を加えてゆくこと。

**基準Ⅳについての特記事項**

特になし。

## 【選択的評価基準】

### 3. 地域貢献の取り組みについて

基準(1)地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放等を実施している

#### (a)現状について

##### 【全学レベル】

#### オープンカレッジかまがや

平成7年から本学と鎌ヶ谷市教育委員会が主催して開催し、本年は18年目にあたる。会場は鎌ヶ谷中央公民館で計8回、定員80名で実施され、毎年希望者は1.2倍を超えている。講義のテーマは経済・国際問題・教育・歴史・健康等の多岐にわたり、本学教員が講師を務める。

平成23年度の主なテーマは、「大震災後の日本経済のゆくえ」「世界を知る（インドと日本はどう付き合うか）」「ストレスと人生（たかがストレス、されどストレス）」「不況下で成長する企業」等であった。開催期間は8月下旬から10月にかけての土曜日の10時から2時間の時間帯の開催である。受講者の感想には、①大学の講義を聴く機会が持てた、②時々のタイムリーな科目が設定されている、③堅苦しい講義ではなくて解り易い等が記されていて、好評を得ている。

この公開講座の特徴は、市民の代表によって構成される企画委員会の提案や要望を踏まえて、本学学長を委員長とする運営委員会が計画立案して実施する点にある。このような体制で市民の声に応えながら実施される公開講座はあまり例がないと思われる。本講座は市民の生涯学習の機会として地域貢献をしている。

##### 【ビジネスライフ学科】

#### 1. 県内図書館職員を対象とした研修会

平成21年から千葉県立図書館と連携して、県内の図書館職員を対象とした研修会を実施している。本学の司書課程担当教員が県内各地の図書館に出向いて講師を務め、図書館職員の資質の向上を図ることで地域の公共図書館の振興を図ることが趣旨である。

開催要項は「情報化の進展をはじめ社会が急激に変化している中で、住民の学習要求は多様化しており、公共図書館に対する関心と期待が高まっている。このような状況を踏まえ、千葉経済大学短期大学部と千葉県立中央図書館とが連携した講師派遣事業を通して、県内市町村立図書館等の職員を対象とした研修を進め、その資質、能力の向上を図る。」と述べる。この事業は22年度からは千葉県公共図書館協会（事務局は千葉県立中央図書館）との連携事業となって継続している。21年度は館山市立図書館・山武市立図書館、22年度は八街市立図書館・船橋市立図書館、平成23年度は印西市立図書館をそれぞれ会場図書館として実施された。

#### 2. キャリア教育に関する講座

就職の超氷河期と言われる今日、学生は「自分にできることは何か」「自分は何がやりたいのか」「自分は何をやることに価値を感じるのか」等の切実な問題意識を抱いて生活しているが、保護者には的確なアドバイスがなかなかできない状況にある。

このような現状に鑑み、平成 23 年の夏、オープンキャンパスの開催時に保護者や高校の進路指導担当者等を対象に「子供をフリーターにしないために」という講座を 2 回実施した。講義のあとには、個別の状況を踏まえたキャリア選択等についての質疑が行われ、参加者の関心の深さが伺われた。同趣旨の講座は附属高校でも実施しており、今後は出前講座として地域の高校で実施することも考えている。

## 【こども学科】

### 1. こども造形教室

こども造形教室は平成 4 年度から小学校で毎月第 2 土曜日が休業日となったことを受け、学長の発案とリーダーシップの下に「地域に密着し開かれた大学」を目指して開催されることになった。現在は、近隣の轟町小学校及び弁天小学校の児童を中心に、その他の小学校・幼稚園・保育所の子どもから保護者・高校生の参加もあって、参加者は毎回 150 名から 200 名で、平成 24 年 9 月には 21 年目に入ることになる。

毎年度 5 月から翌年 2 月まで月 1 回年 7 回開催し、こども学科の学生が造形担当教員の指導とその他の教員の協力の下に、ボランティアとして参加し支援している。この教室の目的は、①地域のこどもたちの造形的な創造性を育み、豊かな人間性を育成するという「地域貢献」と、②教師・保育士をみざす学生の資質を育てる「実習体験」である。本事業は平成 15 年度の文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム」において採択された。

現在は別プログラムとして陶芸活動を取り入れ、地域の大人たちをも巻き込んだ教育活動として発展しつつあり、地域コミュニティの再構築につながる意義深い試みとなっている。

参加者数

	総人数	開催回数別内訳（人）						
		1 回	2 回	3 回	4 回	5 回	6 回	7 回
平成 19 年度	832	85	125	110	148	125	150	89
平成 20 年度	930	165	177	59	158	147	112	112
平成 21 年度	800	85	157	145	78	112	132	91
平成 22 年度	933	165	174	138	184	172	100	
平成 23 年度	905	158	138	200	110	155	144	

### 2. 教育職をみざす人たちのための科目等履修制度

こども学科には、小学校や幼稚園教諭の免許取得を目的としたり、本学保育コース卒業生に限られるが保育士資格取得を目的としたりする人たちのために、科目履修制度がある。一般の社会人、千葉経済大学学生、そして平成 22 年度からは神田外語大学で英語の教員免許取得を目指して学ぶ学生がこの制度を利用して、学科の教員養成の伝統を活かして首都圏の小学校教員不足を解消する社会貢献の一つとなっている。

科目履修生は大学在学中に中学・高校の教員免許状をすでに取得している者が多い

が、大学卒業後一旦一般の会社に就職してから教員を志望するに至った者もいて、首都圏が小学校教諭大量採用時代に入った平成15年ごろから増加し始め、ここ数年は40名前後が履修生登録をしている。

平成20年の学校教育法施行規則の一部改正により小学校教育に「外国語活動」が導入されることに伴い、英語の指導力のある小学校教諭の採用が期待されるようになった。この要請を受けて、本学は神田外語大学と調印して同大学の学生が在学中に本学で小学校教諭2種免許を取得して教員採用される地域貢献を始めた。

なお、ビジネスライフ学科では、司書資格がないまま図書館に勤務している社会人や、資産設計や税金・保険対策などFPの知識を必要とする人達が、資格取得を目的に科目等履修生として学んでいる。

#### 科目等履修生の受け入れ状況

	総人数	資格別人数 *(人)				
		図書館司書	小学校教諭	幼稚園教諭	保育士	F・P
平成18年度	80	18	48	10		8
平成19年度	79	21	46	5		10
平成20年度	56	17	33	6		3
平成21年度	55	20	31	3	1	0
平成22年度	51	17	30	3	0	1
平成23年度	47	11	26	6	1	4

\*1人が複数の資格を希望する場合があるので、総人数とは一致しない。

### 3. 教員免許状更新講習

平成21年度より、教員免許状更新講習を開設し(必修1~2講習、選択8~10講習)、該当者を受け入れている。小学校教諭向けの講習では、本学教員が講師となり、優れた実践力を持つ現場教師(ゲストスピーカー)と協力して、模擬授業、教材解釈、実技指導等を行い、実践力の向上につながるような講習に努めている。受講者の評価は高く、この更新講習は地域の教員の質を高めるものとなっている。

幼稚園教諭向けの講習は、教育基本法、学校教育法、幼稚園教育要領等の改正で新たに追加された諸内容を主な内容として行われ、具体的で実践的な講習となるように努めている。

#### 開設講習数と受け入れ状況

年度	必・選	開設講習数	受講者数 (選択は延べ数)
平成21年度	必修	1	52
	選択	9	105
平成22年度	必修	2	192
	選択	8	340
平成23年度	必修	2	142
	選択	10	393

**(b) 課題について**

地域貢献は大学の一つの使命であることの認識をもって、それぞれの取り組みの充実を図ること。

**(c) 改善計画について**

卒業生の学びなおしの機会としても活用して、生涯学習の拠点とすること。

**基準(2) 地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等との交流活動を行っている****(a) 現状について****【全学レベル】**

本学の教員は地方自治体の審議会や委員会の委員として積極的に参加する等、活発な社会的活動を展開している。私学審議会委員等に就任している教員数、団体数は次のとおりである。

年 度	教員数	団体数
平成 19 年度	8	13
平成 20 年度	8	13
平成 21 年度	7	20
平成 22 年度	8	18
平成 23 年度	7	20

**【ビジネスライフ学科】****1. 地域の行政・商工団体との交流**

地域の行政・商工団体とは、商工団体等の依頼を受けて次のような交流が行われている。

- ・「千葉県商工会議所連合会」主催による経営指導員研修会等での講演（平成 23 年には「元気な企業の秘訣」と題し、企業経営に対するアドバイスの方法等について講演）
- ・「船橋商工会議所」主催による「中小企業相談所経理講習会」での講演（平成 10 年より）
- ・「千葉県土産物連盟」との交流会（どのように付加価値を高めて「千葉の魅力」を打ち出していくか等、同連盟が抱える課題に応える目的の交流会）
- ・「千葉県情報サービス協会」有志と「情報産業で求められる人材」等について意見交換会

地域経済の振興に果たすべき役割には、地域企業が求める人材の供給と企業経営に関する支援の二つがある。この二つの役割を担って地域貢献を深めていきたい。

## 2. インターンシップの実施

企業等の業務を直接体験することによって、①仕事に取り組む心構えと社会で求められている能力を知ること、②学習内容が職場でどのように活かされているか実務をとおして知ること、③自己の適正を認識することの3つを目的として、インターンシップを平成13年度より実施している。

平成22年に17名、23年に35名が参加し、24年は51名の学生が参加を希望している。「販売員はモノを売るだけが仕事ではなく、商品知識や情報も重要」「挨拶、返事そして笑顔の大切さ気付いた」「コミュニケーションの重要性」等の報告が寄せられている。

インターンシップは学生にとって意味があるばかりでなく、地域の企業にとっても有為な人材の基礎を育てる点で意義あるものとなっている。

## 3. 公共図書館の発展・振興に寄与するための教員派遣

司書課程では図書館の専門的職員として働く司書の養成に努めているが、社会貢献の一環として全国及び県内の公共図書館の発展・振興に寄与するために専任教員の派遣を積極的に行っている。

大学図書館副館長でもある齋藤誠一准教授は、千葉市図書館協議会委員長（平成18年より）、千葉市図書館情報ネットワーク協議会会長（平成22年より）、「八千代市中央図書館・市民ギャラリー整備に係る基本設計業務委託業者選定会議」委員（平成23年度）、「千葉県立図書館システム開発運用及び機器賃貸借に係る総合評価委員会」委員（平成23年度）、「アジア経済研究所図書館運営業務総合評価審査委員会」委員（平成23年度）を務めて地域貢献を行っている。

### 【こども学科】

#### 教育委員会との交流

平成20年度より千葉県教育委員会・千葉市教育委員会が実施することになった「教職インターンシップ」（現在は「ちば！ たまごプロジェクト」）に、毎年10名程度の学生が参加し、小学校教諭としての実践的力を磨く研修を積みながら教員採用に向けた行政の取り組みに協力している。

千葉県教育委員会が実施する大学生向け出前講座「先生っていいもんだ」と連携し、本学科の「教職実践演習」及び「教育実習事前指導」に教育委員会に講師の招聘を求め、小学校教諭としての資質向上に努めている。「教育実習事前指導」での講話には教員採用候補者選考に係わる内容が含まれているため、教育委員会の要請で学生に限定せず広く学外者の参加を認めていて、一つの地域貢献の機会となっている。

#### (b) 課題について

地域の各機関と連携して多様な形態で交流を行って地域貢献に努めること。

#### (c) 改善計画について

地域行政や産業界とのパイプを太くして、双方向の連携に努めること。

### 基準(3)教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域に貢献している

#### (a)現状について

##### 【ビジネスライフ学科】

##### 日本図書館協会の被災地支援活動への参加

東日本大震災に対するボランティア活動として、日本図書館協会の被災地支援活動に協力し、本学教員の派遣を行っている。平成23年4月21日から24日にかけて、「日本図書館協会 Help-Toshokan（被災地読書支援隊）」の第1回支援隊として教員を派遣し、児童書を届ける活動と被災状況の調査を含む支援活動を行った。福島県内の公立図書館で蛍光灯が破損し、その破片が多くの本に降りかかったが、その破片の除去作業を行う日本図書館協会のボランティア作業にも本学教員と卒業生が関わった。

##### 【こども学科】

##### 1. 放課後子ども教室

千葉市内の各小学校では、数年前から週1回程度ずつ「放課後子ども教室」を実施している。このプロジェクトに平成23年度から学生や科目等履修生の数名が近隣の轟町小学校で参加し、学習アドバイザーとして参加児童の学習活動の支援、遊び指導などを行っている。

##### 2. その他のボランティア活動

教育・保育に関心の高い学生は、自らの居住地域のこどもたちのためにスポーツや文化活動に取り組んだり、教育実習をきっかけとして実習先の幼稚園・保育所や介護施設での活動に取り組んだりしている。

学生の地域活動、ボランティア活動については、学生自身の主体性の下で積極的に推進されることを期待しているが、卒業までに二つの教員免許状あるいは教員免許状と保育士資格を取得する本学科の学生は多数の単位を修得せねばならず、ボランティア活動に多くの時間を割くことはできない状況にある。

こうした状況ではあるが、少しでもボランティア精神を身につけて欲しいとの願いによって、平成20年度から「教育・保育等ボランティア」として単位化し、ボランティア活動の奨励に努めることにした。また、社会活動その他の分野で他の学生の模範となる活動を行った学生個人及び団体については、その活動をたたえて奨励するために「とどろき奨励賞」の制度が設けられている。

#### (b)課題について

ボランティア精神に基づく自発的な活動の機会を提供すること。

#### (c)改善計画について

学生の自発的な活動の実態を掌握して、その推進に努めること。